

流剛 流剛 流剛 流剛
宗家 本行 元

檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
電話 (291) 2488-9 振替東京3-3552
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入
電話 (231) 1990 振替京都1-113

能楽の友

発行 能楽の友社

名古屋市中千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 0-36393

購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
— 部 70円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

〔平成2年1月〕	
15日(祝)	名古 屋清 韻会(来場歓迎)(番組②面)
27日(土)	名古 屋定 能(有料)(番組②面)
28日(日)	名古 屋淡 交(来場歓迎)(番組②面)
〔2月〕	
4日(日)	名古 屋宝 生会(有料)(番組②面)
11日(日)	名古 屋銀 世会(有料)(番組②面)
18日(日)	名古 屋九 奉会(有料)(番組②面)
25日(日)	春 殿 会(来場歓迎)
〔3月〕	
4日(日)	梅 猶 会 能(有料)
11日(日)	大 蔵 狂 言 会(来場歓迎)
18日(日)	大 笙 月 会 60 周 年 記 念 会(来場歓迎)
21日(祝)	高 安 会 追 善 会(有料)
25日(日)	壺 泉 会 大 会(来場歓迎)
〔4月〕	
1日(土)	中 朋 電 力 会 社 大 会(関係者)
7日(日)	日 親 世 会 定 式 能(有料)
8日(日)	日 親 世 会 大 大 会(来場歓迎)
15日(日)	日 親 世 会 大 大 会(来場歓迎)
21日(土)	日 親 世 会 大 大 会(来場歓迎)
22日(日)	日 親 世 会 大 大 会(来場歓迎)
28日(土)	日 親 世 会 大 大 会(有料)
29日(日)	日 親 世 会 大 大 会(来場歓迎)
30日(日)	日 親 世 会 大 大 会(来場歓迎)
〔5月〕	
3日(祝)	壺 泉 会 大 会(来場歓迎)
5日(祝)	壺 泉 会 大 会(来場歓迎)
9日(水)	壺 泉 会 大 会(来場歓迎)
13日(日)	下 田 雄 関 会 中 部 地 区 連 合 大 会(来場歓迎)
20日(日)	狂 言 や る ま い 会(有料)
27日(日)	名 古 屋 親 衛 会 大 会(来場歓迎)

(演能変更の際はご了承下さい)

故高安滋郎師十三回忌 故西村弘敬師十七回忌

3月21日 追善能

観世、金剛両宗家が来演

ワキ方高安流十三世宗家・高安滋郎氏が昭和五十三年四月に逝去され、本年が十三回忌に当り同師の仏果菩提のため、あわせて高安流・故西村弘敬師の十七回忌追善供養のため、今春三月二十一日(春分の日)、高安勝久、西村欽也両師主催、高安会後援により「高安滋郎、西村弘敬師追善能」が熱田神宮能楽殿で催される。

演能は、観世流能「海上」(シテ片山九郎右衛門) 観世流能「船野」(シテ観世左近) 金剛流能「伏留我」(シテ金剛左近) の能三番はじめ、狂言「武恵」、宝生流舞「経政」(宝生英照) 仕舞・喜多流「清経」(長田豊) 金春流「藤戸」(本田光洋) 脇仕舞「織通」(岡次郎右衛門)。

観世、金剛両宗家は各流の名師をそろえ、全国の高安会の出演による大曲、稀曲の上演。

能楽協会名古屋支部(西村欽也支部長)は、一月三日午前十一時から恒例の新年謡初式を熱田神宮能楽殿で支部所属能楽師五十人が参集、「四海波」を謡い平成二年の啓開けを祝した。

ひきつづいて楽屋で西村支部長から平成元年度の支部主催による恒例の演能に加え、世界デザイン

大衆能は9月2日

能楽協会名古屋支部主催 平成2年度4公演日程

能楽協会名古屋支部主催による平成2年度の演能は、熱田祭奉納能、名古屋新能、大衆能、歳末助け合い義演能の四公演が予定されている。

日程および演能は次のとおり。

熱田祭奉納能 六月五日(火)
能「田村」(宝生流)
仕舞(金剛流、金春流)
狂言(和泉流)
能「舟弁慶」(観世流)
。名古屋新能 八月四日(土)
舞囃子「竜田」(金剛流)
半能「小督」(観世流)
仕舞(金春流)
能「杜若」(宝生流)
狂言(和泉流)
能「一角仙人」(観世流)

大衆能 九月二日(日)
能「絵馬」(観世流)
狂言(和泉流)
能「忠度」(金剛流)
狂言(和泉流)
能「羽衣」(宝生流)
仕舞(金春流)
。歳末助け合い義演能 十二月二日(日)
舞囃子「高砂」(金剛流)
能「清経」(観世流)
舞囃子「松風」(観世流)
能「碓」(喜多流)
狂言(和泉流)
仕舞(金春流)
能「葵上」(宝生流)

熱田神宮能楽殿 運営委員会

委員長	熱田神宮権宮司	山本文彦
委員	熱田神宮権直	岡地幸男
委員	熱田神宮権直	竹内正憲
委員	熱田神宮権直	松井清
委員	熱田神宮権直	杉山勇夫
委員	熱田神宮権直	殿島修二
委員	熱田神宮権直	鬼頭喜太郎
委員	熱田神宮権直	井上松次郎
委員	熱田神宮権直	西村欽也
委員	熱田神宮権直	内藤泰二
委員	熱田神宮権直	梅田邦久
委員	熱田神宮権直	福井啓次郎
委員	熱田神宮権直	藤田六郎兵衛
委員	熱田神宮権直	寛 敏一
顧問	熱田神宮権直	長谷晴男
顧問	熱田神宮権直	皇学館大学教授

平成2年度 宝生会定式能 予定

平成2年度の名古屋宝生会定式能は二月四日を初回として四回公演が行われる。

第一回 二月四日(日)
番組(面掲載)
。第二回 六月十七日(日)
類 政 宝生、英照
胡 蝶 衣斐、正宜
海 人 辰己、孝
海中ノ舞
。第三回 九月十六日(日)
。第四回 十一月十八日(日)
放 下 備 辰巳満次郎
花 籠 倉本 雅
昭 君 佐野 前
。第四回 十一月十八日(日)
清 経 玉井 博祐
源氏供養 内藤 泰二
舟 弁 慶 佐野 耕司
毎回能のはか狂言、仕舞。
会費(正会員(年間四回分)一万
五千円、臨時会員(各回ごと)五
千円、学生(各回ごと)二千円。

国立劇場調査養成課

国立劇場では、歌舞伎音楽(鳴物・竹本)研修生、文楽(大夫・三味線・人形)研修生を募集しています。

募集期間 平成二年三月末日まで。

問合せ先
歌舞伎音楽研修生
〒102 東京都千代田区千代田四丁目一番
国立劇場調査養成課
電話東京〇三(二六五)七四二一

文楽研修生
〒592 大阪府大阪市日本橋一丁目十二番十号
国立劇場調査養成課
電話大阪〇六(三二二)二五三一

能楽(三役)研修生募集

国立劇場と日本能楽会・能楽協会は協力して、能楽三役(ワキ・囃子・狂言)の後継者を養成するため、ただいま左のとおり能楽(三役)研修生(第三期)を募集しています。

研修目的 将来能楽三役(ワキ方・囃子方・狂言方)になるための基礎教育を行います。

研修期間 平成二年四月中旬から平成五年三月末日(全日制三年)

募集人員 約二十名

応募資格 中学校卒業以上二十五歳位までの者

選考試験 四月上旬に国立能楽堂で簡単な試験と面接を行います。

選考試験合格者には、研修開始後六ヶ月以内に適性審査を行い正式に合格者を決定します。

募集期間 平成二年一月八日より三月末日まで。

その他 受講料は無料、奨学金制度があります。

問合せ先 応募手続き等詳細については、左記にお問い合わせ下さい。

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷四丁目十八番一号
国立能楽堂・養成係
電話東京〇三(四三三)一三三一(代表)

正月雅日記

(102)

ゆるし色

えと文 二井栄逸

あろう。我々は、結局、喧騒世界と、精

スケッチブックから羽衣の素描を出して見た。昔、あるところで見た羽衣のクローキーの中の一つ。長絹の色は宣草色であったし、ぬいはくは山藍と菊安(かりやす)、それに藍色(ゆるしいろ)の文様ですばりしかった。

この頃、能楽もいろいろが出来たように、能楽堂も各所に次々と立つことは嬉しいことである。しかし我々の外在世界では、奇っ怪不思議にさざざ立ち、巨大開発や、活字媒体や印刷媒体による情報量の集中と、拡大の中で、ことに電波媒体の侵入と氾濫で喧騒をさわめていた。

それと反対に能楽堂が建設されるように、美術館も建設される。今に県に一つ以上は建設されるで



神世界のボーゲーラインを往来(ゆきま)しなればならぬこととなるだろうが、精神文明の中に従事する我々は、我々の世界を大事に守らなければならないことは当然である。

世阿弥の風姿花伝第二物学条々(ものまねじょうじょう)の内の中に、女を次のように伝えている。およそ女かゝり、若き為手のたしなみに似合ふことなり。さりながらこれ、一大事なり。(非常に

むずかしい意)まづ為立(扮装の意)見苦しければさらに見どころなし。

女御・更衣などの似せことは、たやすくその御ふるまひを見ることなければ、よくよく伺うべし。衣袴の着やう、すべて私ならず尋ねべし(我流でなく調べるがよいの意)。

(平成二年一月四日記)

能楽(三役)の研修生募集

国立劇場

国立劇場は能楽三役(ワキ方、囃子方、狂言方)の後継者を養成するため、日本能楽会、能楽協会の両団体と協力して、能楽研修生(三役)の募集を行っている。

研修生は、将来能楽三役(ワキ、囃子、狂言)になるための基礎教育を約三年間研修する。

今回は三期生の募集で、とくに笛方藤田流など地方の流儀も加えられ、国立劇場の趣旨からも大乗の見地からその募集が期待されている。(募集要項①面掲載)

師走の舞台から

竹尾邦太郎

「泰山府君」金剛流専有の稀曲。昭和37年・中日五流能でシテ嶽の上演がある。はかない花の命の延命を願うワキ松町中宿言(雅介)。あろうことかその花を夜陰に乗じて手折る前シテ天女(元子)。生命を司る後シテ泰山府君(幸司)は通力で天女を探索し、桜枝を返させる、と花は廻り更に花の延命を表現するという。

正先には爛漫たる桜立木。ワキは置鼓に非ず名宣笛で出た。シテは小面・襟赤・段唐織、変哲もない里女の風情で天女の面影稀薄である。へ花一枝を手折らんと、面使うのも何となくよきよきと花盗人そのもの。しかし、ワキとの掛合に微動だにしないその姿は、見始められて硬直したかの様

に見え、更に地(訓三・昌三・神弘ら)との掛合は、機会を窺う感嘆したところがいじらしく、手折って中入に一ノ松でちよっと遠巡する様に停まり、桜枝隠すように抱いてするすると入るところ天女の羞恥の片鱗を見せた。アイ又三郎の明晰な立シヤベリ。後シテは唐冠・黒頭・天神・拾芥衣・半切で唐回廊を持つ。一ノ松で各宜り、天女の悪戯と断じて、へ何ぞ偷盗の雲の上、とシテ柱見上げて左袖被さ望見する。更にツレ天女を招き、地の、へ花実の種も中空の、と数拍子踏み、左袖返シなどあつて一ノ松の床几に掛ると、ツレは桜枝で天女ノ舞。舞上げ桜立木に寄るところ、床几と立ったシテは……(③面へつづく)

演能案内

名古屋清韻会大会

平成二年一月十五日(成人の日)
午前十時半始
熱田神宮能楽殿

弱法師

夏辺 節子
西村 欽也
後藤孝一郎
藤田六郎兵衛

野村又三郎

楽舞「巻絹」「富士太鼓」「二人静」「実盛」
舞臺子「鶴亀」「藤戸」「百万」「龍田」「天鼓」
一團「難波」独吟「山姥」ほか仕舞五番

〔御来場歓迎〕

主催名 古屋清韻会



名古屋観世会

社団法人 鏡仙会

観世鏡之丞

観世栄夫

観世暁夫

幽詠会

片山九郎右衛門

梅若研能会
橋香会

梅若万三郎

大槻清韻会

大槻秀夫

大槻文藏

大阪市中央区上町A番7号

梅若研能会
大阪国際フェスティバル能
梅若盛義

名古屋観世会

山本勝一

鳳鳴会
武田志房

名古屋観世九皇会
観世喜之

有賀滋子
加藤保弘
青木武子
高木美智子
吉田瞭一
高橋

藤井久雄
完楽三人
完治

大槻清韻会
神戸市中央区熊内町二丁目二〇
電話(三三二)五一四四番

井上嘉久

(〒603) 京都市北区紫野下島田町六

幽花会
片山慶次郎

〒603 京都市北区小山下花ノ木町二丁目
電話 四九二一五三〇番

名古屋淡交会

橋岡慈観

瀬戸三津子
福沢市福島町二ノ宮六 瀬戸方
電話(八〇五八七)三三八八番

武田詠楽会

武田小兵衛
武田欣司
武田邦弘

財団法人 鎌倉能舞台

中森晶三
中森貫太

〒248 鎌倉市長谷三丁目一十三
電話(〇四六七)五五五七

名古屋観世生会

野村四郎

東京都杉並区永福四丁目三〇一〇
電話(八〇三)三三二一五二九
名古屋市千種区日和町四ノ一〇
小嶋方 電話七五一八八〇番

春鶯会

梅若善高

〒565 豊中市新千里南町三丁目18
電話(八〇六)八三二一七八五四
〒100 東京都足立区綾瀬二丁目18
電話(八〇三)六〇四一七四〇九

竹翠会 若松宏守

(〒662) 西宮市平松町四一九
電話(〇七九八)三三〇六〇一

②画師走の舞台から眺む。これを制し枝を元に戻させ、力を種の継木の板、と両袖きりりと巻き上げ勢威を誇示する。この辺りと、舞動の途中飛び上りさま下居して花に隣行する辺りの躍動感に仲々だった。ただこの曲、平物ではあるが金剛流独自の含みあるもの、あまり軽く扱ってはいけません。なお、笛の竹市学君、先輩(孝一郎・敏一・竜夫)に伍して懸命の勤めぶりが清々しい。精進を祈りたい。(1時間2分)

「半節」短かいが前場が好い。名宣留(六郎兵衛)と相俟ってワキ留(元)がしつとりとした上々の雰囲気醸成し、その説経に曳かれる様に密やかに出るシテ里女(邦弘)の、すうりとした長身が如何にもあえかた夕顔ノ精を仄めかす。後シテは黒白二・白留留を麻葉地に替え、淡黄色大口に白長袖。面はお歯黒をつけた様に見えるが、増か。寂しい印象は、作物の中へ、跡留ふべきか、とワキに聞き、ついで、へさらばと思ひ夕顔の、と伏目がちにぶつと視線を右に外らす辺りにその心持がよく現われた。クセに、へあの花折れと宣へばとワキ座前から無雑作に作物を指すところ、板を手折るのに胸心する「泰山府君」の後だけに面白かった。序ノ舞の途中右袖被き退って半節の下に入る型所も上々で、暫時そこに居るのも陰翳の美を強調するため遺徳が無かった。ワキは、へ明けぬ先にと夕顔の宿りの、とカザシてスマカからワキ正通り作物に入つて、ついで、光を畏れて勢をまとう姿がつかましかった。

(1時間24分)

「三井寺」シテ傳帖。面深井。唐織の着け方が少々雑で燃元がきちんと髪斗にならず上前が潰れて何となくだらしない印象を受けた。裏れた感じにはなるが次元の違うと、装束が大き過ぎることもあろうが物寄せの神経だろ

う。それはともかく、アイ門前ノ者(又三郎)に動まされ、夢に子との再会を約束されて中入するシテの、いそいそとした気分は仲々よかった。後シテは横浅黄・燕子地紋白摺留・白地雪輪水仙文様縁箱・淡黄水衣の装束に狂心持を持つ。心持高進のカケリとそれに続く初回の逸る気分の著せりまでのシテの胸の躍動感に表現する。眼目の輝ノ段、へ五障の雲暗れと、と紐を滑ってわだかまりを解く切つ掛けとなる辺りも、ついで、子との再会を暗示するよ伏線となり、クセ地(孝・正宣・俊彦)も好調だった。ワキ敏也、アイ能力(友彦)も手堅い。(1時間23分)

「竹の子」今年第三回宝生会に上演されたものの再演で配役(弘之・礼之助・松次郎)も同じ。但し上演時間は五分程延びた、ということ科白を否転味得する余裕が出たということであろう。勿論今回の方がよかつた。(21分)

「紅葉狩・鬼揃」シテ嘉夫、黒白二・金輪箱・淡紫模様の大口・白地紅葉散シ文様縁箱・面増。重ツレ雅章、以下一英・浦・幸親・敏彦、傑赤・輝留・緋大口・赤地紅葉或は菊文様唐織摺留。連面。総勢六人の大デモンストレーションは次第以下の連時も庄巻で胸がすく。ついでワキ維茂(勝久)、ワキツレ従者(雅介・元)を伴い出る。殊更に気を惹き魂胆のあるシテと、邪魔を恐れて障らす通り過ぎんとするワキとの出会いも楽しい。馬を下り、従者に弓矢を預けたワキと、そそくさと切戸に入るワキツレ。そこには美女の手前、氣を利かそうとする従者と、独りになり少々動転している維茂の氣配も窺えて興味津々である。へ袂に廻り留れば、と左手を背、右手は袖にと添えて腕然と見詰められては何条たまたまの、酒宴に待たされるワキがいつそ羨ましい。シテは

地前の床几に掛け、ツレ五人は舞ケクから中ノ舞。途中、橋懸の三人が落し退き、シテが舞い出すと二人のツレは地前に下居。ワキが降りるに落ちるとシテは常座からゆつくりスミを廻ってワキに向うや足を速め、急ノ舞となるのが如何にもしてやったりの気分。へ月待つ程の仮寝に、とシテは月ノ露をし、へ夢はし覚まし給ふなよ、の返しにツレ二人は橋懸際に行き、シテはさつと作物に入つた。中入来序でツレ二人が落し退くと、代つて狂言来序でアイ末社(高義)が出て立シヤベリ。ついでワキの前に太刀を置き、スミに戻つて八幡宮の告げを伝える。後場、神慮を受けたワキは法被を脱ぎ装束となつて敵を迎え撃つ態勢となり、ツレ五人は唐織を被き、シテも作物を出て白袴を被き作物横の床几にかかると。被きを取ればシテは猛々しい黒頭に緋長袴・白般若。ツレは全員赤頭で将に、へ州に火焔を放ち、の模様。満を持し、へ南無や八幡大菩薩と、と叩頭祈念してさつと鞘を抜たワキの俊敏も見覚えがあつた。ワキは、へ引き下ろし、刺し通し、でツレ全員落し退きシテは作物に入つてワキがトメた。よく統制のとれた格調高い舞台だった。(1時間15分)

なお能楽協会名古屋支部はシテ方五流と三役の結束で年々充実した舞台成果を挙げているが、就中ワキ方高安流の活躍が目覚ましい。(12月3日・助け合い協賛能)

尾張徳川家伝来
「大名の能」展示
徳川美術館 2月4日まで
徳川美術館では、一月四日から二月四日まで、尾張徳川家伝来「大名の能」の特別展を開催。同美術館には約一千点の能コレクショがあり、能装束、能面、狂言面、菊田蒔絵装束はじめ楽懸類、狂言小道具が展示されている。

山本眞賀 豊中市本町六丁目一〇一六	邦謡会 梅田邦久 須部一甫 清沢美和 今田和政 本田和政	壺泉会 泉嘉夫 名古屋昭和区山里町一〇三 電話(八三二)三三二一八五 西宮市甲陽園目神山町二二二五 電話(八〇七九)二四四八	初陽会 武田宗和 名古屋千種区今池四丁目 1513 浅井ビル 電話(七三三)三七三六	毎日文化センター 謡曲教室 風韻会 殿島修二	松音会 泉泰孝 泉雅一郎 東京杉並区宮前四一九一四 電話(三三三)八二八〇番	名古屋橋岡会 名古屋昭和区丸尾町五三三五 山田紀子方
----------------------	---	---	--	---------------------------------	--	----------------------------------

誠交会 奥善助 東京都世田谷区三軒茶屋二一〇三二 電話(〇三)四三三二二六三七番	下田雄三 豊中市曾根東町四一一二 雄謡会中部地区連合会 名古屋和石 一宮竹花 岐原雄花 下呂雄花 萩原雄花 高文之屋 倭文之屋	大垣浦声会 名古屋大垣市竹島町善念寺 住所 京都市左京区下鴨芝本町五八 浦田保利	名古屋修諷会 名古屋市中区大塚町二丁目一ノ一四 電話(〇七八)六九一五四四九番	梅若修一 上田観正会能楽堂 社団法人観正会 上田観正会 上田田貴弘 上田田拓司	久田観正会 久田徹二 大倉流小鼓 松月会 久田舜一郎 郁理会 前野郁子 松野会 松山幸親 馬場信至 玉木孝男
--	--	---	---	--	---

大阪能楽会館 千560 豊中市北桜塚2-10-13	笙月会 中川雅章 長浜市地福寺町八ノ二九 電話(〇五七)〇六三〇番	洗心会 奥村富久子 京都市左京区水鏡堂西町二〇 電話(三三三)七七一〇七六七番	観修会 祖父江修一 多治見市日ノ出町二丁目 電話(〇五七)三三六五六番	芳韻会 稻生芳雄 半田市船入町三十一 電話(〇五九)〇八一五	幸韻会 近藤幸江 岡崎市鶴田本町十一番地ノ三 電話(〇五六)四二五二九	猶惠会 熊沢恵美子 名古屋市中区東区平和ケ丘3-76 日車マンション四〇四	松和会 中村和男 各務原市那加桜町2丁目15番地 電話(〇五八)三二七九四番	水雲会 水藤元三 緑名会 田中武 千488 尾張旭市城山町三ツ池六一九八 電話(〇五六)一五三三〇四番	重陽会 菊池重郷 大山市犬山宇相生五九一六 電話(〇五六)八四四〇番	賀水会 賀水敏彦 千601 名古屋守山区森孝三丁目七〇九 電話(三三三)七七一八八九四番
------------------------------	---	---	---	--------------------------------------	---	---	--	--	--	--

中日文化センター 謡曲・仕舞教室 名古屋(栄) 岐阜・四日市 翠生謡会 名古屋市中区東区社方丘3ノ15003 電話(〇五二)七〇三三二七七一七番	清風会 今村嘉勇 岩倉市東新町下境52-101 電話(八六六)七三三三	宝生英雄 宝生英照	名古屋巽会 辰巳孝	内藤泰二 左野由於 千川 東京都品川区大崎五丁目一の四 五反田南ハイター〇〇三 千601 金沢市泉野町四丁目十二十四	正風会 衣斐正宜 千 名古屋昭和区御器所3-23-19 御器所パークマンション802号	衣斐正宜後援会 千 名古屋市中村区名取三二二六二六 平松昌彦方 電話(〇五二)五八六一二二〇番
---	---	--------------	--------------	--	--	--

紅梅記

―平成元年回顧、
観世鏡之丞家追
悼会―

平成二年を迎え、新しい年の
の能界が多幸でありますよう
始めにお祈りします。

まず和歌一首。
春は花更はとさす秋は月
冬雪さえて冷しかりけり
(道元禪師作。冷しはずし。
川端康成「美しい日本の私」
英訳付より。ノーベル賞受賞
記念講演)

「本来の面目」と題がつくこ
の歌の単純明瞭高雅は日本古
来の自然と芸術に対する諦観
古典の趣味へのあこがれも際
ると思えます。能の美もこれ
に含まれ、狂言の笑いもこれ
につながる。この二つの
古典の充実展開を今年も期待
したいものです。

× × × × ×
平成元年回顧。
はじめに、他の既述の「一年
回顧」と重複(佳演の曲名は
か)がありますので、お断り
しておく。

演能は八熱田Vを主に。東
西からの来演者は年に一番乃
至二番舞うのが大体の傾向で
すが、個人では観世喜之氏の
ように毎年数番演じて充実の
舞台をみせる演者もあれば、
一月(下旬)に卒都婆小町、
このあと船弁慶・自然居士で
その健在に感嘆の観世鏡之丞
氏もいる。年の始めから年末
近くまでの三番の印象は強い。
また何年振りかの米名の一
番で見所いや私を堪能(たんの
う)させたのが金剛流氏。能
の美十二分。昨年の金剛流は
三番あつた。近年珍しくもあ
り、よいことでもある。金春
流は例年のように一年一回の能
会、二番の能で名古屋の伝統
を守成し、古拙の味を感得さ
せる。喜多流だけ東京からの
来演はみられなかった。喜多
愛好者は六平太八先代V・夷
二代(共に故人)の家元芸が
忘れられない。現在では僅か

にテレビ能(NHK)で湯を
際(いや)すのがせいぜい(十
一月殺生石女体・六平太。注
記、先年周流は金剛流のこの
小書を自流富士太鼓小書と交
換した由。佳)。

宝生流は二・三の入れ替え
をし、新鮮味を加えたけれど、
今少し在京の豊かな駒を、何
かのカタチで、八熱田Vの舞
台へ廻らすことが出来ないも
のか。宝生の充実がみだり
さて、観世流が最も多く粒を
揃えることは申すまでもない。

先年、観世氏のこととは述べ
たが、二年で一回廻りする観
世能(観世能)はいよいよ安
定感を覚えさせる。しかし時
にはこれまた多士済々の中か
ら名古屋と縁の少ない演者の中
来名も望みたい。幅の広さを
示してみたい。

とまれ、長く書いたが、己
の流儀自分の先生だけでよい
他の流儀のシテ方、能全体(シ
テ方五流)をみることもあ
るまいと書かれる意見も出
う。それはそれでよろし
かし能全体に多少なりとも触
れることには意義があるう。
ただし偏見と時々は避けた
い。後を続けよう。

佳演の曲名を列べる。天下
泰平の翁・観世左近は別として、
すがすがしい千歳(観世
芳安、以下名だけしらす演者
多し)、嵐山(元昭)、朝長
(前は下田雄三・後が奥善助)
巻絹(九郎右衛門)、松風(四
郎)、隅田川(左近)と弱法師
(慶次郎)、三輪(勝一)、
碓(慈観)、葵上(古式、新
・六郎)、卒都婆小町・自然
居士(鏡之丞)、恋重荷(喜
之)、船弁慶(鏡・六)山姥
(修一)に大般若(六郎)は
か観世流。佳演の曲数が多い。
景清(松門ノ会釈、光洋)、
船弁慶(晃実、二番とも春)。

回とは名古屋(東海)人の好
みか。大般若は珍し。ほかに
仕舞卒都婆小町・梅若流行が
佳。みられなかった三・四の
能はお許しを。
ワキ方野口敬弘(東京)氏
一日三番(淡交会)は見事。
また卒都婆小町(鏡)のワキ
西村敬也氏も印象深い(小鼓
柳原重司助披露)。
東西からの狂言は桐樹(慶
・因幡堂(同)・無市施経
(和)など好演。稀曲太鼓負
(和泉元秀)の上演もあり。
さて、名古屋勢は、まず青
陽会の充実といつもの顔触れ
に泉嘉夫氏(鏡)を加えた面
々の活躍が著しい。婦人能の
層は厚く注目される。唯子
方の活躍も高い。
狂言は井上祐一・花子(は
なご披露)、友彦・弘之と文
荷(祐・友・松)、船弁慶の
アイ(信行)ほかの好演を目
にした。大矢義高氏は三番更
を無事披露。この日は女性の
鹿取希世さんであった。なお
千歳の礼之助氏佳演。
能楽の運動・講座・協賛の
ことは省く。本のこと。ま
た能・狂言の周辺、市民文化
のつながりや東海三県のこと
も書けなかった。

× × × × ×
一月十六日(火)観世華
・雅智・寿夫三氏(祖父・父
・子)の追悼会が東京で催さ
れ、お招きを受ける。正月の
よく暗れた当日を想像する。
華智氏の思い出も遠い昔のこ
とになったが、その思い出は
いつまでも新しい。盛会を祈
る。

× × × × ×
昨年未だ木と針の梅がよう
やく蕾の紅と白を自立させ
る。もうすぐ一輪づつ開いて
くれよう。(野村広二)

× × × × ×
【おこわり】
年賀広告の掲載にあたりま
しては、紙面の関係にて順序
不同となりましたことをご理
解賜りますようお願いいたし
ます。(編集部)

× × × × ×
豊嶋能の会
豊嶋 三 千 春
菊扇会
後援会
廣 田 泰 三
廣 田 泰 能



倉本 雅
神戸市東灘区田中町一丁目13番26
電話078(444)5401
電話078(444)5402
電話078(444)5403
電話078(444)5404
電話078(444)5405

宝生流 嘉 宝 会
鬼頭 嘉 男
名古屋市昭和区川名本町二ノ五

吉 田 俊 彦
竹 腰 勝 一

司 佐 宝 耕 司 会
名古屋市天白区島田三丁目30-1
島田権住宅三三三三 電話(052)737372

金 剛 永 巖
京都市北区上賀茂神山七三三

金 剛 永 巖
京都市北区上賀茂神山七三三

廣 田 後 援 会
廣 田 隆 一
廣 田 幸 稔

豊嶋能の会
豊嶋 三 千 春

後 菊 扇 会
後 菊 扇 会
廣 田 泰 三
廣 田 泰 能

金剛流 景雲会
国際能楽研究会(I.N.I.)
インターナショナル能インスティテュート
(日本・カナダ・アメリカ・ニュージーラン
ド・ドイツ・フランス・台湾)
新居能面の会
宇高通成後援会

宇 高 通 成
〒606 京都市左京区高野東町四〇
TEL(075)701-0793
名古屋事務所 前編英安方
TEL(052)852-1334

金剛流
松野 恭 憲
松野 洋 樹

金剛流
松野 洋 樹

金剛流
名古屋周星会
岐卓周星会

吉川 周 子
名古屋市千種区西崎町三一六
電話(052)761-2257

金 春 信 高
金 春 安 明

金 春 欣 三
東京都杉並区成田東四丁目35-20
電話03(335)7382番

春 敲 会
金 春 晃 実
金 春 穂 高

廣 瀬 瑞 弘

長 田 驍 後 援 会
〒514-22 津市高野町三三三-146
電話(059)6697番

本 田 光 洋
東京都中野区上高田二ノ五ノ二
電話03(338)2641番

名古屋金春会
林 鉄 修 彦
近 藤 道 三

伊勢金春会
村 富 次
伊勢市宮町一丁目一七一
電話(059)2456番

喜多流十六世宗家
喜多 六 平 太

大 阪 喜 多 会
和 島 富 太 郎

二 井 榮 逸
松阪市殿町1412の3
電話(059)2310226

豊 嶋 好 会
森 茂 好
森 常 好

高安流能方
飯 富 良 人

高安流能方
飯 富 良 人

谷 田 宗 二 朗
〒603 京都市北区衣笠街道町31-7
電話(075)852(853)852

高安流能方
飯 富 良 人

高 安 会
西 村 欽 也

高 安 勝 久
飯 富 雅 介

杉 江 元

福 王 茂 十 郎
〒662 西宮市名次町六番十二号
電話(079)80772

京 都 ・ 高 安 流
岡 次 郎 右 衛 門
向日市上植野町地一ノ五四
電話(075)9341240六

豐 嶋 好 会
森 茂 好
森 常 好

高安流能方
飯 富 良 人

高安流能方
飯 富 良 人

谷 田 宗 二 朗
〒603 京都市北区衣笠街道町31-7
電話(075)852(853)852

高安流能方
飯 富 良 人

青陽会定式能 (第134回)

平成二年一月二十七日(土)十二時半始

熱田神宮能楽殿

素器神歌 加藤保彦 手才今村嘉勇

能弱法師 飯富雅介 福井啓次郎

仕舞花 雲林 月キリ 玉木孝男

子方武田 大高 加賀 敏彦

能草子洗小町 杉江元 吉田定男

能安達原 高安勝久 鬼頭英二

附祝言 大野弘之

淡交会新春の会 一月二十八日(日)午前九時半始

番外仕舞 八幡 橋岡慈観

連吟 龜 安井清治

仕舞 草子洗小町 北クセ 森田恵美子

仕舞 東之 北クセ 中山治子

仕舞 正キリ 伊藤悦子

仕舞 村クセ 立松美貴子

仕舞 川クセ 渡辺幹子

素器小 後藤弘次郎 伊藤さち子

弱法師 矢沢 穂子 中野末子

林院クセ 大久保喜代

東 北キリ 大浜光代

仕舞 難波 朝岡初男

草子洗小町 日比野清栄

後藤弘次郎 川島利男

清 城キリ 後藤弘次郎

高 砂 清子 鬼頭英二

百 五段 大川雪子 鬼頭英二

能俊 西村欽也 吉田定男

後見 上野 朝義 地謡 中山幸親

仕舞 杜若 小田久子

竜吟会 藤田六郎兵衛

龍吟会 藤田六郎兵衛

森田光春

寛三男

能楽講座

能と狂言に親しむ会

梅田邦久

藤田六郎兵衛

桂会 後藤孝一郎



高安流岡同門会

清水坂利宣

北野耕三

中村湖弘

伊藤久藏

谷口雅信

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸圓次郎

幸義太郎

野中正和

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

幸友会

瀬尾乃武

亀井俊一

保忠雄

叶石会

河村真之介

河村真之介

河村真之介

河村真之介

河村真之介

河村真之介

河村真之介

河村真之介

河村真之介

河村真之介

河村真之介

河村真之介

河村真之介

河村真之介

河村真之介

名古屋宝生会定式能 (第三十四期)

二月四日(日)午後一時始
熱田神宮能楽殿

高

鬼頭 嘉男
稲川 寿一
高安 勝久
杉江 元
井上 祐一
寛 貞一
福井 貞治
鹿取 希世

常

後見 倉本 雅
後見 玉井 博
北村 大孝
大松 福三郎
平子 福美
佐藤 耕正
井上松次郎
佐藤 友彦
竹腰 喜勝一
大坪 喜雄

東

後見 内藤 泰二
後見 吉田 俊彦
河野 邦明
安江 良郎
川津 正雄
辰巳 嘉男
馬場 富夫
竹腰 富一
西村 敏也
井上礼之助
河村 総一郎
福井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

桜

松浦 ちひら
竹内 澄子
飯富 雅久
杉江 元
河村 真之介
柳原 富司
鹿取 希世
雲林 院ケセ
辰巳 孝
地謡 鬼頭 嘉男
馬場 富夫
稲川 正一

川

飯富 雅久
杉江 元
河村 真之介
柳原 富司
鹿取 希世

附祝言

主催名古屋宝生会
名古屋市中区和区山里町一三五
内藤泰二方 電話八三二一三四四九

名古屋観世会定式能(初回)

二月十一日(日)十二時半開演
熱田神宮能楽殿

神

梅田 邦久
小島 一英
本田 邦弘
武田 三郎
杉浦 元三郎
中川 雅章

忠

観世 左近
福王 茂十郎
河村 総一郎
大倉 源次郎
野村 又三郎
藤田 六郎兵衛

張

後見 浦田 保浩
後見 野村 四郎
清沢 一政
加賀 敏彦
祖父江 修一
古橋 正邦
梅田 邦久
片山 九郎右衛門
銀田 清和
武田 邦和
和田 清和

難

波 観世 清和
下 僧小歌 野村 四郎
女キリ 片山 九郎右衛門
春日竜神 杉浦 元三郎
古藤 正邦

羽

観世 元昭
飯富 雅久
西村 敏也
杉江 元
松山 幸親
須部 一甫
高橋 徹
田中 武
久田 徹
中川 雅章
藤井 完治
藤田 六郎兵衛

附祝言

主催名古屋観世会
初回に限り当日券は発売されません

名古屋観世九阜会定期能(初会)

二月十八日(日)午前十一時始
熱田神宮能楽殿

藤

奥川 恒治
五木 武計
青木 武弘
高橋 瞭一

巻

観世 喜正
観世 喜之

附祝言

主催事務所名古屋観世九阜会
名古屋南区元徳町一七一七(加藤保彦方)
TEL052(六一)三六五九



大蔵 狂言会
大蔵 彌右衛門
大蔵 彌太郎
大蔵 吉次郎
〒215 川崎市麻生区岡上四三八一
電話044(九八七)一一八七番

名古屋和泉会
大垣狂言の会
和泉 元秀

茂山 千五郎
茂山 正義
茂山 真吾
茂山 千三郎
京都市上京区中筋通り石薬師上ル

名古屋和泉会
狂言共同社

平成2年1月・2月放送予定
〔1月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
21日(日)観世流「雲林院」橋岡 久馬
28日(日)金剛流「老松」金剛 巖
〔2月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
4日(日)観世流「当麻」山階 信弘
11日(日)喜多流「隅田」友枝 喜久夫
18日(日)宝生流「巴」羅生門 松本 忠宏
25日(日)観世流「藤戸」梅若 万紀夫
◎NHK教育テレビ・祝日能 2月12日 午前9時
新作舞臺「配所・佐渡の日」
~世阿弥「金鳥書」より~
金春信高・野村万作ほか
(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

茂山 忠三郎
京都市左京区北白川大堂町47-1
電話075(七〇二)二〇一一番

狂言やるまい会
野村又三郎
〒460 名古屋市中区正木二丁目16-25
電話(三三二)七五五三番

朝日カルチャーセンター
囃子教室
小鼓 後藤孝一郎
九条スカイル10階

栄能楽舞台
名古屋市中区栄五十六一四
電話(二六二)一一八三番

楽諷庵舞台
加納 保一
名古屋昭和区滝川町四七七八三
電話(八三三)七〇〇一番

葵心庵舞台
尾張旭市東大道町原田二四九三ノ二
尾張ビル(旭市役所南)
電話0561-50234六番
電話0561-50234六番

彰諷閣舞台
名古屋市中区植田西二八〇二一
電話(〇五二)八〇五三三〇一
連絡先 名古屋緑区鳴海町有松40-9
電話(〇五二)六二一四三三八

演能写真
ウシマド写真工房
〒602 京都市上京区北野上七軒
電話075(462)一三四一番

ビデオ撮影
西川 企画
〒451 名古屋豊樂所名古屋市中区名取
電話(〇五二)五七一一五八一六
〒500 岐阜市北野町20-1-2
電話0582-9869番

能楽の友社
同人一同

年賀欠礼
観世 左近
清和 芳宏
芳伸

観世昭会
昭門昭会
観世 元昭

宝生欣哉
〒116 東京都練馬区小竹町一五〇一五
電話(〇三)九九七二
電話(九九七二)四七九五

三月雅日記

(103)

寒牡丹

えと文 二井栄逸

春が近づいてくる。節分ももう間近である。

寒牡丹が美しい花を咲かせた。牡丹は、もともと古い時代に中国四川省あたりに自生していたもので、初めは薬用として栽培されたのであるが、花が美しいので、次第に花を鑑賞することが主になったようである。

我が国に渡ってきたのは、千年余り前で、徳川時代には、牡丹の栽培が盛んであったようである。そして、多数の品種が作り出され、その人工的に作り出されたもののひとつに寒牡丹がある。この牡丹は冬牡丹ともいって、十二月から

二月頃までの花期をもっている。寒牡丹は、寒牡丹でなく五月に咲く普通の白牡丹である。

牡丹は中国で花王とか、花神とかよばれてきたが、その豪華さは妖気さえたがよわせ、朝露を帯びてほころびそめた牡丹の花は、その命が短かいために、いっそう魅惑的になる。

牡丹を百花の王、獅子を百獣の王、ともに王者同士なので、古代から配合や取合せのよいものとして、牡丹に唐獅子を配した図柄がよくつかわれてきた。

重要無形文化財 中日名匠鑑賞能

三月三日(土)午後一時開演

愛知文化講堂

舞臺子 小袖 曾我 橋岡 喜之 寛 鉢一 藤田 六郎兵衛
観世 慈観 福井啓次郎 藤田 六郎兵衛

能俊 寛 福王茂十郎 河村総一郎 藤田 次郎
観世 元昭 後藤孝一郎

狂言 鎌 腹 茂山千之丞 丸山あきら
後見 吉井 順一 地謡 加藤 保彦
橋岡 慈観 中川 雅章 角 寛次郎

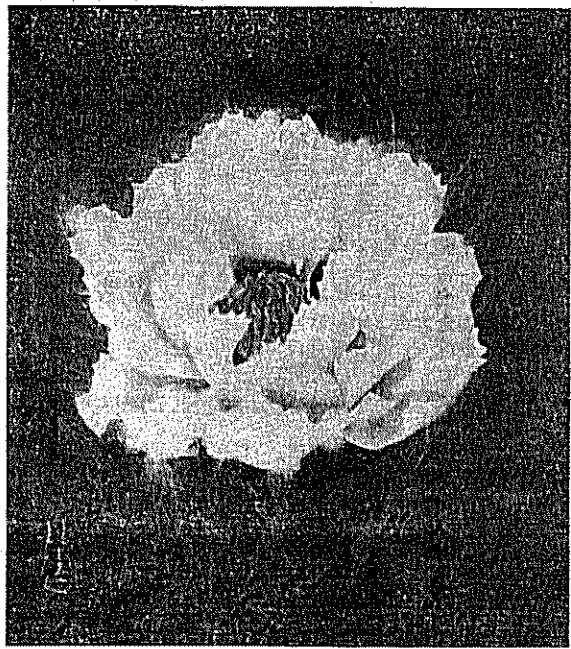
仕舞 井 敦 盛クセ 坂井 音重 水藤 邦久
女 郎 花 筒 梅若 盛彦 地謡 梅田 邦久
青木 智彦 観世 左近 河村総一郎 藤田 六郎兵衛

能百 萬 法楽之舞 藤本幸治 藤田 六郎兵衛
観世 左近 野村又三郎

後見 吉井 順一 地謡 小島 一邦
観世 喜之 野村又三郎

能、石橋の作物にも紅白の牡丹が出され、その意味あいあらわしている。

私は、毎年牡丹を写生しているが、写生するたびに、テレビ番組のように牡丹の心が伝わってくるような気がするのである。



みつめるという事はほんとうに大事なことだし、花との語りをもっと深めてゆけば、もっとも自分の好きな絵がかけられるに違いないと思ったりする。

(平成二年一月三十一日記)

祝言 石橋

祝言 石橋 西村 欽也 後藤孝一郎 藤田 次郎
関根 祥六 後藤孝一郎 藤田 次郎

国立音楽堂で 第12回邦謡会能

邦謡会(梅田邦久師主) 三月十七日(土) 東京・国立音楽堂で「第12回邦謡会能」を開催する。

能「夷盛」(シテ梅田邦久、ウキ宝生間、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・曾和正博、大鼓・河村総一郎、太鼓・助川治、間・野村万之丞)

能「夷盛」(シテ梅田邦久、ウキ宝生間、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・曾和正博、大鼓・河村総一郎、太鼓・助川治、間・野村万之丞)

能「夷盛」(シテ梅田邦久、ウキ宝生間、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・曾和正博、大鼓・河村総一郎、太鼓・助川治、間・野村万之丞)

能「夷盛」(シテ梅田邦久、ウキ宝生間、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・曾和正博、大鼓・河村総一郎、太鼓・助川治、間・野村万之丞)

創立60周年記念 笙月会大会

三月十八日(日)午前九時始

熱田神宮能楽殿

笙月会

舞臺子 小	五 督	伊藤 栄子	河村真之介	竹市 学
野	本田 富子	後藤孝一郎	藤田 次郎	藤田 次郎
葛	井口 賀恵	河村真之介	助川 希世	助川 希世
度	細江 澄彦	今井 弥夫	藤田 次郎	藤田 次郎
内木 シラ	野村又三郎	藤田 次郎	藤田 次郎	藤田 次郎
海 士	川口 敏夫	久世新一郎	藤田 次郎	藤田 次郎
三井寺	高橋 邦夫	高橋 邦夫	藤田 次郎	藤田 次郎
花 月	中野 朝子	岩佐 美子	藤田 次郎	藤田 次郎
五 教	盛クセ 内田 清彦	道彦 輝	藤田 次郎	藤田 次郎
松	市橋ひで子	阿 濱	藤田 次郎	藤田 次郎
遊 行	柳クセ 側島 秀子	松井 正寛	藤田 次郎	藤田 次郎
連 西行	谷 康男	河野 茂	藤田 次郎	藤田 次郎
仕舞 野 天	勝木 登志 榎	川クセ 片多 初子	藤田 次郎	藤田 次郎
連 千	村クセ 加藤 久登 清	高木 孝志	藤田 次郎	藤田 次郎
五 之 段	正キリ 北原由美子	桂川 九郎	藤田 次郎	藤田 次郎
連 橋 弁 慶	森田 辰巳	藤田 次郎	藤田 次郎	藤田 次郎
舞臺子 高	三 段 替	藤田 次郎	藤田 次郎	藤田 次郎
屋 島	山田 善明	河原 富司 忠	藤田 次郎	藤田 次郎
船 弁 慶	安田 範之	河原 富司 忠	藤田 次郎	藤田 次郎
連 鐘 之 段	岩崎 利雄	池田 修 敬	藤田 次郎	藤田 次郎
舞臺子 弱	法 師 平野 政八	河原 富司 忠	藤田 次郎	藤田 次郎
山 羽	衣 栗田 はな	河原 富司 忠	藤田 次郎	藤田 次郎
恋 重 荷	子安 賀子	高木 續 地謡	藤田 次郎	藤田 次郎

〔御来場歓迎〕

長浜市地福寺町八二一九 電話(0749)60630番

〔御来場歓迎〕 主権笙 中川 雅章

〔御来場歓迎〕 主権笙 中川 雅章

〔御来場歓迎〕 主権笙 中川 雅章

〔御来場歓迎〕 主権笙 中川 雅章

〔御来場歓迎〕 主権笙 中川 雅章

〔御来場歓迎〕 主権笙 中川 雅章

平成2年2月・3月放送予定

- 〔2月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
 - 18日(日)宝生流「巴」羅生門 松本忠宏
 - 25日(日)観世流「藤」戸 梅若万紀夫
 - 〔3月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
 - 4日(日)金春流「八」島 金春 晃 実 四郎
 - 11日(日)観世流「采」女 野村 萌 盛彦
 - 18日(日)宝生流「百萬」西王母 佐野 萌 盛彦
 - 25日(日)観世流「藤」戸 梅若 盛彦
- ◎NHK教育テレビ・祝日能
3月21日午前9時~10時30分
- ▽能「羽衣」(再)喜多流 友枝喜久夫
 - ▽能楽界の話題
 - ① 名古屋デザイン博の狂言
 - ② 復曲能「舞車」
 - ③ 英語の狂言はか
- (放送予定につき変更の節はご理解下さい)

平成元年度名古屋市芸術賞五氏が受賞

平成元年度名古屋市芸術賞は、名古屋芸術賞選考委員会の審判にもとづき、次の五氏を決定、二月二十九日発表された。授賞式は二月二十一日東急ホテルで行われ、

〔芸術特賞〕 洋画・荻井誠一氏
〔芸術奨励賞〕 日本舞踊・工藤扇

紅梅記

一年末年始

正月半ば過ぎは格別激しい寒さに震える。家に閉じこもり切りであった。年の暮れから開きはじめて紅梅(鉢植、早咲き寒紅)がまたことに明かす気分を与えてくれた。春の日射しを感じる二月の上旬、梅が咲き、桃となり、桜にかわっていく。二月の能組をみて楽しむ。三月ワキ方高安流の追善能がある。高安流郎十三回忌・西村弘敬十七回忌・西氏の追善。大会である。二十一日。

年末のテレビ能は「奥の細道」(桜間金太郎)。高浜虚子の作。以前一度みたことがある。その時ツレ(遊女)の舞が印象に強く残った。芭蕉(シテ)が遊女に同行を頼まれ、断る。ツレは別れに舞を舞ってみせる。その辺から切りは秀逸、趣があるけれども、前半の内容が面白い。アイ(他の遊女、二人)はうまく使っている(NHK、以下おなじ)。

正月元旦は鶴亀クセ入(宝生英雄)・福の神(大蔵弥太郎改メ弥右衛門)をみる。これには二人の孫がアドで出る。二日は越後舞(和泉元秀)ほか。井上祐一・佐藤友彦出演。三日は楊貴妃(観世鏡之丞)・美し。味わい十分。舞はなかった。作り物の左右と後にカゾラ帯を垂らす。観・宝はテレビ・金春・金剛二流はラジオ(芦刈・墨染松)。喜多はなし。五流謡曲を望んだが、空しかった。他方、年末から年始の放送で心を引かれたのは、三十一日のFM(NHK)、ペーター・ペンの交響

弥氏、グラフィックデザイン・杉田圭司氏、レリーフ・鈴木久氏、声楽・松本三紀夫氏。

同賞にはこれまで能・狂言関係で狂言・佐藤友彦氏(昭和五十一年度)・狂言・井上松次郎氏(昭和五十四年度)・能・藤田六郎兵衛氏(昭和五十九年度)・狂言・野村又三郎氏(昭和六十年年度)・能・内藤泰二氏(昭和六十二年年度)が受賞している。

曲一番から九番までの連演である。朝九時から夕方五時まで。引き続きテレビで第九があった。邦楽放送(江戸)はなぜか昔のように魅力がない。もう一言。数多い時代劇のなかで「松平右近事件帳」の始めと終りに辻村ジュンプロ制作男女二組の人物が出る。情調深し。また「鬼平犯科帳」では、結びの配役紹介の背景が江戸名所四季の図である。楽し。民放。

さて、一月からの市民大学講座水曜日「岩倉使節団の西洋見聞」。副題「米欧回覧実記を説く」。講師・芳賀徹。この記録は全五巻(明治十一年)の大著。同随員の漢学者久米邦武氏の筆。漢文、明治初年の欧米文明見学の始末を述べた。芳賀さんはやさしく爽か、流れるように語られる。その現代的意義をも含めて。「実記」の文章(漢文)はなかなかすばらしくまた見聞録の内容も見事。久米の貴婦人・時代をかえたマドンナたち「閑遊」名古屋テレビ。同行留学生(女子)の帰国後の物語と、山川捨松・津田梅子などのこと。

長谷晴明氏のこと。熱田能楽殿運営委員長の長谷氏は熱田神宮権宮司の職を定年で辞任され、あわせて、同委員長を退き、新しく昨年と同顧問に就かれる。設立前後から三十年以上能楽殿と歩を共にされた。そのお骨折にお礼のことばもありませぬ。新委員長は権宮司山本文彦氏。長谷氏は舞楽で舞は左舞、舞楽(ひらりき)を受け持つ。山本氏は右舞で竜留を。長谷氏の舞・殿王は特に印象が大。忘れられない。時折折管絃や舞の

お話を承り、その造詣の深さに感服し、願望の厚意に感謝した。父上も熱田神宮宮司、姉上は九草会(シテ内木シラ)・葉蘭「神歌」・木曾「願書」・恋重「はじめ舞獅子十五番、連吟、仕舞三十数番、武田忠勇、武田宗和両師が来会、盛会が期待される。(宗想◎画)

笙月会が創立60周年記念会

3月18日 熱田能楽殿で笙月会(中川雅章師主宰)は、創立六十周年を迎え、また三月十八日(日)熱田神宮能楽殿で記念会を開催する。能「半曲」(シテ内木シラ)・葉蘭「神歌」・木曾「願書」・恋重「はじめ舞獅子十五番、連吟、仕舞三十数番、武田忠勇、武田宗和両師が来会、盛会が期待される。(宗想◎画)

名古屋城近くに能楽堂。朝日、一、四、夕刊。名古屋西尾市長が同日の記者会見で、城内または周辺にその建設構想があることを明らかにし、来年度調査に乗り出す由発表。同日のテレビでは右のほかに熱田Vが老朽化と、経費に乏しくは知らず、なお今年名古屋の大きな話題。課題になるであろう。後報を待ちたい。

オペラ「浅茅ヶ宿」。名古屋二期会。観世兼夫演出。熱田能楽殿。元年十月十八・二十日。朝日十二・二八、夕刊掲載同新聞音楽評担当三氏が推せんする「今年のベスト3」(平成元年、名古屋)によれば、牧定忠氏二位、浅野陸氏三位に挙げる。

本。老木の花・友枝喜久夫の能(白洲正子)・江戸と能楽(狩野遊)・狂言師・井上祐一(「サライ」二・十五号・小学館)・契丹伝奇集(中野美代子、中国文学者)ほか。

河村総一郎の「翁」の「打掛り」

竹尾邦太郎

平成二年一月廿八日、東京宝生能楽堂で橋岡久馬シテによる「翁」が上演され、東上して大鼓を勤めた石井流河村総一郎によって珍しい「打掛り」の習が披露された。これについては金剛右京述・三宅真編の「能楽話」(昭和46年・検書店刊)に「流シ打掛りの謂れ」として対談記事がある。参考のためにここに記す。

三宅 翁の流シ打掛りというの金剛 大軍の習ですが、モミ出を容れながら出るのです。山崎・三宅 ホウ、そりゃおもしろいんですね。

金剛 石井の家の物ですよ。何でも、ある時遅参してしまったり、致し方ないから、イキナリ、モミ出を打ちながら出て、穴をあけなかったのが起りだということですよ。

山崎 スーッと打っていますか。金剛 そうです。打ちながら舞台に入って正面へ御挨拶する時、ちよっと手を放すだけです。御辞儀がすむとすぐ又打ちながら退ってクツログの習です。これは大変お要めにあつたので、小書として石井流に残ったのだそうです。

数を変える由である。さて、翁流りとなり、シテ・千歳器に入ると、大鼓は一ノ松へ行き左膝立てて打ち出した。葉蘭の両袖を脱ぎ、面貌に決死の色程ではないが緊迫感が窺える。やはり打掛りは演奏されたのだ、私の胸もドキドキしてきた。森田操の著書の通りだった、と思ったがその後が少々変わった。一ノ松で数合打って立ち上ると、長持を揃えて打ちながら舞台に入り、更に階の右の框近くまで出るやそのままだ打ちながら退って床几に掛けた。この打掛り、京都では近年あつたそうだが現在石井流の居ない東京ではさぞや吃驚しただろう。私も暫く胸の鼓動が止まらなかった。しかし、この打掛りの習、流祖樋口石見の場合はいさ知らず、一旦小書(習)として定着し様式化すると、特殊演出と言ふよりは、大鼓のこの部分だけを抜き出して、一種のワンマンシチュエーションにしよう。敢て語弊を恐れず言ふならば大鼓のデモンストレーションだろうか。それでも私は、能の内包する様々な秘事秘伝を時には今のように公開して欲しいと思つている。その与えるインパクトの強弱は、見所だけでなく広く能楽界の内部にも影響を及ぼすだろうからである。

大鼓が床几に着くと、三番三の大島寛治が立って「オーサイ、オーサイ」と採出しになった。こちらも土の香りのする強かな三番三で、久馬と好一対だった。笛は六郎兵衛、柳寛意識を掻き立てられてしむじみ僕しかった。(一時間七分)

なお名古屋では明治27年6月、博物館舞台破キで吉田方条の打掛りがあり、吉田秀夫も動めた由である。

半能「石橋」(シテ田崎隆三)藤田流唱歌の再版完成
第六回衣斐正宜後援会能は、今夏八月二十五日(土)熱田神宮能楽殿で開催される。
能「熊野」(シテ衣斐正宜、ツレ東川光夫)

能楽(三役)研修生募集

国立劇場と日本能楽会・能楽協会は協力して、能楽三役(ワキ・囃子・狂言)の後継者を養成するため、たぐいま左のとおり能楽(三役)研修生(第三期)を募集しています。

研修目的 将来能楽三役(ワキ方・囃子方・狂言方)になるための基礎教育を行います。

研修期間 平成二年四月中旬から平成五年三月末日(全日制三年)

募集人員 約二十名

応募資格 中学校卒業以上二十五歳位までの者

選考試験 四月上旬に国立能楽堂で簡単な試験と面接を行います。

選考試験合格者には、研修開始後六ヶ月以内に適性審査を行い正式に合格者を決定します。

募集期間 平成二年一月八日より三月末日まで。

その他 受講料は無料、奨学金制度があります。

問合せ先 応募手続き等詳細については、左記にお問い合わせ下さい。

国立劇場では、歌舞伎音楽(鳴物・竹本)研修生、文楽(大夫・三味線・人形)研修生を募集しています。

募集期間 平成二年三月末日まで。

問合せ先

歌舞伎音楽研修生 千102 東京都千代田区千代田四丁目一番

国立劇場調査養成課 電話東京〇三(二六五)七四一一

文楽研修生 千512 大阪府中央区日本橋一丁目十二番十号

文楽劇場調査養成課 電話大阪〇六(二二二)二五三三

国立能楽堂・養成係 電話東京〇三(四二二)一三三一(代表)

千151 東京都渋谷区千駄ヶ谷四丁目十八番一

市制百年記念

「乱能」見聞の記

名古屋市制百年を自祝して久し... 過ぎてワキ阿蘇神主友成ならぬ友... 彦を引掛ければかりの勢いで、

高安滋郎 追善能

三月二十一日(祝)午前十時半始 熱田神宮能楽殿

Table listing names and roles for the performance '高安滋郎 追善能'. Includes names like 高安 信広, 鬼頭 英二, 藤 戸, etc.

熊野

熊野 西村 欽也 飯富 雅介 河村 総一郎 藤田 六郎兵衛

調伏曾我

調伏曾我 豊嶋 十郎 和泉 昭太郎 杉江 元 堀田 耕三

追加 観賞券 一万円 (金自由席) 後援 高西村安会

小舞「福之神」喜男(宝生流)「七ツ子」元三(観世流)・何れも俱重で、こちらはとんと仕舞風。

後場はさらびやかな歌合せの場。王希世(藤田流)は初冠に霞草を、他はでんでんに帯帯や冠の紐

さて、入筆と判って疑い暗れるや、耕長袴を引きすり負うってワキに膝行して詰め寄るや、天を仰いでへ有難や、と合掌するやら、

潮華料理 藤 後とふじ 名古屋千種区東山元町2-11 電話 (052) 781-7756

城 割烹・小料理 熱田神宮能楽殿喫茶部 住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248

本年5月上旬に能楽式舞台つきの 大広間が新装オープン致します 妙膳 (シーサイドプリンス龍宮殿) 愛知県知多郡南知多町内海小樹40 (〒470-33) TEL 0569-62-1311



名古屋・本山駅
電 762-2434代表

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

— 部 70円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

〔3月〕	21日(祝) 高安会追善会 (有料)	25日(祝) 豊泉会大会 (来場歓迎) (番組①面)
〔4月〕	1日(日) 中部電力会社大会 (関係者)	7日(土) 中期親邦会大会 (来場歓迎) (番組②面)
	8日(日) 世会会定式 (有料) (番組②面)	15日(日) 親邦会春会 (来場歓迎) (番組③面)
	21日(土) 親邦会春会 (来場歓迎) (番組③面)	22日(日) 久田親会 (関係者のみ)
	28日(土) 友会定式 (有料) (番組③面)	29日(日) 友会春会 (来場歓迎)
〔5月〕	3日(祝) 豊水会20周年記念大会 (来場歓迎) (番組④面)	5日(祝) 豊泉会大会 (来場歓迎)
	9日(水) 豊泉会大会 (来場歓迎)	13日(日) 下田親会中部地区連合大会 (来場歓迎)
	19日(土) 親世九皇会 (有料)	20日(日) 親世九皇会 (有料)
	27日(日) 親世九皇会 (有料)	
〔6月〕	3日(日) 清熱田親会 (有料)	5日(火) 清熱田親会 (有料)
	9日(土) 清熱田親会 (有料)	10日(日) 清熱田親会 (有料)
	16日(土) 清熱田親会 (有料)	17日(日) 清熱田親会 (有料)
	24日(日) 清熱田親会 (有料)	
〔7月〕	1日(日) 九皇会 (有料)	15日(日) 九皇会 (有料)

(演能変更の際はご了承下さい)

愛知県芸術選奨

小鼓 福井啓次郎氏 受賞

小鼓・幸清流流分・福井啓次郎氏は、このたび愛知県芸術選奨を受賞。三月三日午前十時半から愛知県庁講堂で授賞式が行われた。

〔授賞理由〕調和を保ち、品格ある鼓をめぐらし、楽器としての小鼓(胴・華)に深い理解を以て作り出すムラのない清澄な調子と、シテ方各流の器・型に精通し、無理のない気合いと掛け声で様々な雰囲気を作り出す。

授賞式には能楽協会名古屋支部より西村欽也支部長も参列、国民学校(名古屋市立南久屋国民学校)で同期の海部俊樹総理事大臣から祝電が寄せられた。

福井啓次郎氏(本名・林啓次郎)は昭和五年五月二日生れ。二十五年幸清流・福井五郎師に師事。同年初舞台、二十九年幸清流流分、三十年十一代福井啓次郎を名乗り福井家の芸事を継承。

鶺鴒能

4月8日 能「小鍛冶」上演

平成元年度文部大臣 芸術選奨新人賞 田崎隆三氏受賞

演劇、映画、音楽、古典芸能、舞踊などさまざまな分野で昨年優れた業績をあげた人たちに贈られる平成元年度(第四十回)の芸術選奨文部大臣賞と新人賞が二月二十二日文化庁から発表された。古典芸能部門では、新人賞として野の日本芸術院会館で行われる。

授賞式は三月二十二日東京・上野の日本芸術院会館で行われる。

田崎隆三氏(本名・田崎隆三)は、能シテ方・田崎隆三氏(日〇)に師事し、能シテ方「放下僧」(五雲会、平成元年三月十八日・宝生館楽堂)、「三輪」(宝生青年能、四月二十六日、宝生館楽堂)などのシテを演じ、的確な理解と節度のあふる演技でその曲趣を生かした。東京都出身。

伊勢神宮神楽祭

5日 金春流奉納能

金春流の伊勢神宮春季神楽祭奉納能は、四月五日(内宮参集殿能舞台)で催される。正午始。

〔奉納能〕「翁」(能「羽衣」(金春安明)、能「竹生鳥」(本田光洋))

6日 長生会が奉納

親世流太鼓・長生会(鬼頭喜太郎師主宰)は、伊勢神宮春季神楽祭にあたり毎年奉納能を催しているが、きたる四月六日、内宮神楽能舞台で「神歌」、囃子、独鼓、仕舞を奉納する。午前十一時始。同会の奉納能はことし第三十二回目である。

能楽(三役)研修生募集

国立劇場と日本能楽会・能楽協会は協力して、能楽三役(ワキ・囃子・狂言)の後継者を養成するため、ただいま左のとおり能楽(三役)研修生(第三期)を募集しています。

研修目的 将来能楽三役(ワキ方・囃子方・狂言方)になるための基礎教育を行います。

研修期間 平成二年四月中旬から平成五年三月末日(全日制三年)

募集人員 約二十名

応募資格 中学校卒業以上二十五歳位までの者

選考試験 四月上旬に国立能楽堂で簡単な試験と面接を行います。

選考試験合格者には、研修開始後六ヶ月以内に適性審査を行い正式に合格者を決定します。

募集期間 平成二年一月八日より三月末日まで。

その他 受講料は無料、奨学金制度があります。

問合せ先 応募手続き等詳細については、左記にお問い合わせ下さい。

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷四丁目十八番一号

国立能楽堂・養成係

電話東京〇三(四二二)一三三一(代表)

国立劇場では、歌舞伎音楽(鳴物・竹本)研修生、文楽(太夫・三味線・人形)研修生を募集しています。

募集期間 平成二年三月末日まで。

問合せ先

歌舞伎音楽研修生

〒103 東京都千代田区千代田四丁目一番

国立劇場調査養成課

電話東京〇三(二六五)七四一一

文楽研修生

〒512 大阪府中央区日本橋二丁目十二番十号

文楽劇場調査養成課

電話大阪〇六(二二二)二五三一

壺泉会大会

三月二十五日(日)午前十時 熱田神宮能楽殿

番組 石附一二 千才小森 辰雄

高砂 西村欽也 吉田定男 鬼頭喜太郎

番外仕舞 西行 大槻 秀夫

海士 西尾 静枝 柳原富司忠 藤田六郎兵衛

舞臺子 安宅 嶋田都弥子 吉田定男 鬼頭喜太郎

熊坂 大矢 洋美 福井啓次郎 鬼頭喜太郎

舞臺子 養老 水波之伝 大坪山紀子 鬼頭喜太郎

舞臺子 頼政 中沢 修 福井啓次郎 鬼頭喜太郎

舞臺子 融 五段早舞 八神 敦子 福井啓次郎 鬼頭喜太郎

舞臺子 清 戸松 博史 石附一二 鬼頭喜太郎

舞臺子 三輪 輪 黒田 博 後藤孝一郎 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 高野 物狂 橋本 実 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 加藤 春枝 橋本 実 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 西村 欽也 後藤孝一郎 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 高安 雅久 後藤孝一郎 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 飯富 雅久 後藤孝一郎 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 松田 高義 後藤孝一郎 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 野村 又三郎 井上礼之助 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 三島 勝 三島 勝 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 泉 泰孝 泉 泰孝 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 泉 泰孝 泉 泰孝 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 泉 泰孝 泉 泰孝 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 泉 泰孝 泉 泰孝 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 泉 泰孝 泉 泰孝 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 泉 泰孝 泉 泰孝 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 泉 泰孝 泉 泰孝 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 泉 泰孝 泉 泰孝 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 泉 泰孝 泉 泰孝 鬼頭喜太郎

舞臺子 仕舞 泉 泰孝 泉 泰孝 鬼頭喜太郎

友 雅 日記

(104)

蘇えるいつきのみや

えと文 二井 栄 逸

ひろびろとした史跡公園の芝生は、雪間草(ゆきまぐさ)のようにはやわらかい薄みどりをたたえていた。色々な植木や結核式がつづいたので静かなところについてみたいと思ひ、この博物館にやってきました。

蘇えるいつきのみや、この史跡公園の芝生は、雪間草(ゆきまぐさ)のようにはやわらかい薄みどりをたたえていた。色々な植木や結核式がつづいたので静かなところについてみたいと思ひ、この博物館にやってきました。

愛知県芸術選奨 小鼓方 福井啓次郎氏の略歴

略歴 昭和五年五月二日生れ。名古屋出身。愛知一中から昭和二十六年名古屋大学名古屋経済専門学校卒業。

昭和二十一年、能「隅田川」(シテ橋岡久太郎)に感銘を受け宝生流謡曲を内藤宗一に入門稽古を受け、宝生流研究会にて宝生重英、(前宗家九郎)、野口兼資、野口徳久、辰巳孝、のち名古屋藤門会にて近藤乾三に師事、仕舞を辰巳清、辰巳孝に師事。

昭和二十五年、小鼓を幸清流・福井五郎に師事、同年初舞台・珠之段、二十七年、初能廻々、幸清流宗家幸四郎に師事、毎月研究会をうごんと称し、柴田収、佐藤太、寛三男、河村総一郎と客員に小島鉄次郎、岩頭賢太郎を加え、後の青陽会の母体となる。二十九乱技曲、同年九月幸清

ジエクターから連続して映し出すのだそうだ。私の家のそばにある、本居宣長の記念館もこのような映像室を作ったらしいのだらうと思つた。この頃、全国からの見学者が増加している折だから尚そのような施設が必要なのだ。いつきのみや。 (平成二年三月八日記)



広田後援会能

二年国立劇場能楽三役養成講師(非常勤)。八回にわたり海外公演に参加。昭和二十七年より名古屋市文化財・若宮八幡社福祿寿車の雛子を

指導、四十八年熱田神宮能楽殿運営委員、四十九年名古屋市中ロータリークラブ入会、五十一年C.B.C番組審議会委員、五十五年名古屋市立栄小学校PTA会長。

二年国立劇場能楽三役養成講師(非常勤)。八回にわたり海外公演に参加。昭和二十七年より名古屋市文化財・若宮八幡社福祿寿車の雛子を指導、四十八年熱田神宮能楽殿運営委員、四十九年名古屋市中ロータリークラブ入会、五十一年C.B.C番組審議会委員、五十五年名古屋市立栄小学校PTA会長。

十周年記念 謡 会

四月七日(土)午前十時三十分始 熱田神宮能楽殿

連吟 竹生島 岩井一夫 越(和謡会) 白羽みどり 森田敏子 大田敏子 神谷美和 錦見トヨ子 加藤多賀子 今村玲子 関谷美和 高野千勢子 今村美和 村中恵美子 小林富美子 岩井一夫 越(和謡会)

仕舞 東 北キリ 大久保早苗 今村玲子 清沢一政 網 波 磯部三枝子 小林富美子 霧 院 古田まち子 村中恵美子 雲 院 高橋 武子 須部 邦久 笠 渡 須部 邦久 素 殺 生石 渡 登 鈴木 照之(誠謡会) 番外仕舞 度 梅田 邦久 池田 米寿 附 祝言 主催 萌 補佐 梅 田 邦 久 会

連吟 野 大栗紀美子 今村 玲子 盛クセ 戸本 普 関谷 薫 節クセ 長屋 とみ 須部 邦久 日江井俊子 山田多鶴子 大橋 芳子 笠井千代子(風声会) 中入後ヨリ

仕舞 胡 蝶 吉田喜美子 森崎 千鶴子 高野 千勢子 須部 邦久 月キリ 小林美和子 須部 邦久 川道行 岩田 加代 須部 邦久 眞キリ 不破 隆子 手嶋なみ江 鬼頭 澄(清謡会) 十倉 成己 今沢 美和 野田 幹三 須部 邦久 柏倉 幹三 須部 邦久

連吟 西 行 桜シテ 高橋 武子 古田まち子 初江 高橋 武子

連吟 西 行 桜シテ 高橋 武子 古田まち子 初江 高橋 武子

観世会 定式能(三回)

四月八日(日)十二時半始 熱田神宮能楽殿

仕舞 高 砂 増田 仁美 半田 智子 浮 衣クセ 有浦 敦子 今沢 美和 大 江 舟 柿木 鏡子 須部 邦久 山 飯島美津代 小島 文字 須部 邦久 小島 文字 須部 邦久

仕舞 高 砂 増田 仁美 半田 智子 浮 衣クセ 有浦 敦子 今沢 美和 大 江 舟 柿木 鏡子 須部 邦久 山 飯島美津代 小島 文字 須部 邦久

紅梅記

前田満穂氏遺著

二月初午(はつづき)、三月のな祭りも過ぎ、やがて彼岸の中日を迎える。二月も二十日頃からわが家の梅が次々咲きと開花を告げた。針の方が庭木より早い。月末徘徊と白の立木が見事。一年かけた丹精がみのつたと云うわけである。能一番を舞うのも同じである。

その下旬、春らしくなってきた日である。柴町へ用事で出かけた。まず古書屋(タイエー書店)。丸善や三越のほかに訪ねるのは始めて。「音楽の根柢にあるもの」(小泉文夫)をみつけて買った。「謡曲の鑑賞」(野上豊一郎)、「古代劇文学」(能勢朝次)などが並べられ、「名古屋芸能史」(全二冊、尾崎久弥)には千五百円の値がついていて、二・三用事をすまして、夜「舞女会」で「角兵衛」をみた。主宰の西川輝女(鳥道い)と西川長寿(角兵衛)両氏。甚の哥えが上々、美しさとおもしろさあり。輝女さんの、後の赤い毛氈(もうせん)をかけた緑台に控え、何もしたくない姿には風情があった。輝女さんに西川輝三郎氏、長寿氏に西川長吉さん(女性、長寿氏師匠)の面影をみつけた。伝統のよさ。話かわって、福井啓次郎氏(小鼓)が愛知県芸術選奨受賞にきまると、愛知県の方は久方振る。めでたし。

中日能は三月三日にある。二月三月で親世左近氏三回、岡元昭氏二回の来演を持つ。今年の話題になろう。

好みの出来上りである。一書を贈らる。

まず装画がよい。江本隆彦氏の面影になる(奥様の従弟)。ペーシユの表紙のまん中に、約三分の一、太字の筆で並べたカタチは永遠に流れて人生の流転を表わす曲調のひとつひとつをかたどるようか。紙をあげるのと直筆の本題とサイン(表紙にも載る)。なつかしい字。おだやかな遺影(六三年)について、井上松次郎氏(狂言、朝日狂言会共催)ほかのあいさつが寄せられ、豊富な目次のもとで、「古典尊重の精神」で始まる。このあたりまで頁を繰るだけで前田さんの面影がはつきり浮ぶ。この冒頭の一文が全体を大きく捉(おお)う。能に対する老い(老成)の一言というより、能の狂言に対する熱い思いが天空地上を駆ける。観能を楽しむか、書くことと能楽が何であるかを探られた。具体的には、はじめは能楽論、次第に能楽論の色彩を帯びる。古典尊重と併せて新しいにも注目され、能(と狂言)は古典のむつかしさと共に、おもしろさもなくしてはと。それが更に前田さんの広く深い演劇観に裏付けされて、すばらしい読物になっている。いや読物以上に高い見識に引き込まれずにはおかない。それが自然の心境では、うですと語りかける口元のやわらかい笑いがしのばれる。

巻末に「私の履歴書」と奥様の「あとがき」。「履歴書」はこの種文章の白眉の一点。「あとがき」も佳。数百の送付の宛名書きは六人の愛孫のうち五人の大学生諸君の手になる山。以てこの上ない供養となろう。

大層効果的。老体の深く切々の心境をみせる。むつかし。シテ金春信高氏、全体の味わい大。語りか「能は何百年も続きました」というよう語った。現在物ではあるが、海士の例もあり、苦にならなかつた。

秋には「佐渡」の新作が出来上ると言う。期待したい。訂正。二月紅梅記。古風な新しさがあるが、お詫びして訂正します。(野村広二)

演能案内

邦謡会春の素謡会

四月十五日(日)午前九時半始 熱田 神宮 能楽殿

東 北

加藤 千晴 山下 松江 都築 健二 都築正三郎 栗田 慎三 有蘭 元香

羽 西

安間 忠一 江口 末雄 山本 泉 山口 謙介 岩崎 崇

遊 行

長谷川田鶴 山中たね子 水野 庸子

大原御幸

深川寿美子 二木 剛子 徳田 文代 内西川喜代子

求 塚

岩崎 崇 田中 純一 清沢 一政

隅 田

長谷川田鶴 木村 ひで 深川寿美子 高沢寿美子 山本 泉 西矢 義雄 須部 市

狸 々

徳田 文代 二木 剛子 小田 智子 小林富美子 小松 隆 高橋 和哉 小林よね子

〔御来場歓迎〕

梅田 邦 久会

名古屋 猫謡会春の大会

四月二十一日(土)午前九時三十分始 熱田 神宮 能楽殿

杜 忠

野々山 貞彦 池内光之助 服部 武

三 法

柴山 保 井内 和男 岡田 晃一

盛 久

木下志げ子 梅若 修一 三木 秀雄 梅本 雅一

能 葵

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 葵

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 葵

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 葵

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 葵

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 葵

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 葵

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 葵

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 葵

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 葵

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 葵

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 葵

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 葵

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

〔御来聴歓迎〕

梅若 盛 義会

青陽会定式能(第三十四期)

四月二十八日(土)十二時半始 熱田 神宮 能楽殿

素 小

トモ生野 里翠 清沢 一政 加賀 一敏 中川 雅章

能 巴

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 巴

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 巴

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 巴

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 巴

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 巴

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 巴

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 巴

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 巴

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 巴

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 巴

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 巴

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 巴

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 巴

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

能 巴

飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世 井上 禮之助 飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

平成2年3月・4月放送予定
〔3月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
25日(日)親世流「藤」梅若 盛義
〔4月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
1日(日)喜多流「國酒」「調伏替我」粟谷幸雄
8日(日)親世流「類」政「親世」栄夫
15日(日)室生流「兼」御「幸」三郎
22日(日)親世流「兼」平「泉」嘉夫
29日(日)金春流「声」刈「(再)」金春信高
◎NHK教育テレビ
3月21日のTV放送は中止、5月4日放送の予定
△4月29日(祝)午前9時より
金剛流能「愚」染「櫻」豊嶋訓三、西村欽也
△テレビ毎週土曜日、午後9時45分より30分間
能狂言鑑賞入門
4月7日 手足こそ心~演技の基本~
4月14日 舞台をいぐる人々~登場人物~
4月21日 能面・喜怒哀楽~演技による表情~
4月28日 能の履歴書~ストーリー展開の基本~
お話 親世清和、きき手 木野 花
(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

〔要員券〕
当日券 三千円
附 祝 言
主 権 青 陽 会
能 山
後見 近藤 幸江 地謡 前野 郁子
白頭 飯富 雅介 柳原真之介 池田 誠茂
間 飯富 雅介 須部 幸三 高橋 一政
能 半
飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世
能 巴
飯富 雅介 後藤孝一郎 鹿取 希世

豊水会

二十周年記念春季大会

五月三日(憲法記念日)午前九時半始

熱田 神宮 能楽殿

番 組

番外舞臺

鳥 高橋 一

素 經

正 吉田 萬藏 井上 豊彦

藤 天

戸 鼓 武井 正臣 林 明夫

俊 寛

成経 早川 寛 高木 源造

素 弱 法 師

義経 神田 和恵 祖父江 修一

安 宅

蘇本 紀子 鈴木 英輔

熊 野

西村 敏也 河村 隆一郎

舞 子 難

後見 觀世 喜正 地謡 高橋 正光

吉 野 天 人

佐竹 由己子 鬼頭 英二

江 野

宮 奈倉 早出 河村 隆一郎

花 礎

寺下 武子 柳原 富司忠

舞 子 高

砂 神田 和恵 鬼頭 英二

班 小

女 下尾 和子 河村 隆一郎

通 丸

倉地 明美 河村 隆一郎

船 弁

慶 浅見 節子 鬼頭 英二

卷 網

高橋 邦元 福井 啓次郎

祝 賀 仕 舞 菊 菫 重

上野 美与乃 鬼頭 英二

祝 賀 仕 舞 菊 菫 重

上野 美与乃 鬼頭 英二

〔入場無料・御来場歓迎〕

主催 豊水会

如月の舞台から

「宝生会」「観世会」「九皋会」

竹尾 邦 太郎

「高砂」シテ舞一。如何にも奥直な舞。それだけに表情に乏しいが、落葉を掻くところなどさりりと銜いの無いのがよい。ツレはどことなく自信無げで、舞台に入ってから留まる場所を決めかねる按配。持物を持たないときの立姿も手持無沙汰といった様子に映った。後シテ、神舞は動く速いと言ふより軽い。全体爽明さが欲しかった。(1時間17分)

「鶯」アド調主・友彦、新緑の立派な鳥籠を野辺に置き、「啼かせて声を聞かそう」という。シテ何某は松次郎代動祐一。騎者笠の身装美々しく、それに刺し竿というのが雅気満々。その雅気は籠の端を渡る非常識に飛躍する。外すまい、獲られまい、のお互いの「まさか」の思いが真剣味となつて引き付ける。両者好演。負けたシテのキリの慨歎もよく利いた。(22分)

「東北」梅に渡、先の狂言との組合せが粋である。ワキ旅備、飲也、ワキツレを伴わず独り飄然と早春の山野を往く趣が良い。それにこの演能当日が将に立春。春立つや、の道行の伸びやかさアをたたえながら能、狂言の作品自体の掘り下げに融れ、広い視野に立つての批評(泉嘉夫氏)と序がよせられている。自費出版。限定非売品。

出版

「観能独語」

前田 満穂 著

二井会 発行

「能楽の友」紙創刊以来、「観能独語」(M生)として寄稿されてきた前田満穂氏(元朝日新聞文芸部長、朝日文化センター事務局)は昨年一月他界されたが、二十有年にわたって連載された「観能独語」が夫人の前田富美子さんの手でまとめられ、このほど刊行された。全三百六十二頁、「自身も金剛流を学び、能、狂言に対する深い造詣」(井上松次郎氏)「平易な文体のなかに、ときにユーモ

コーラスの地(雅・博祐・和ら)との「綱ノ段」の掛合のハーモニイが殊に好調で、吾子を尋ねる母の隣れをうたい上げて出色。ハ抄ひ集め、と大きく外に拘り型も落胆の大きさを暗示するからだ。面は頬の窪みの窠れ合から曲見か。(1時間9分・2月4日・宝生会)

「忠度」シテ左近。杖をつき木ノ葉を持つ。ハ峰の嵐や、と杖を左へ寄せ、ハ山嵐の音、右ウケて耳を澄まし、ハ須磨の若木の、と正先近く行つて常座に戻り、ハ通ふ浦風に、面使いで、ハ山の桜も散るものを、と退つて胸杖する。東の間の思ひに耽る。そこをワキ旅備・茂十郎に呼び掛けられ、ハツとして胸杖解くとワキに向く。更に頓着なく宿を乞うワキの無神経に苛立つシテは語気を強め、「平ひ給はぬ愚かにまします人々かな」と一足詰り寄る。神経質なシテと悠長なワキとの対照が鮮明で緊密な劇的空間を展開する。また前シテのこの苛立ち、物を俾り人知らずとされた歌人忠度の苛立ちにも通じるのである。後は梨子打・面中将・段厚板・クリーム色大口・茶車法被。ハさる程に、ハ谷の、と一ノ松に掛けると、ハ皆々船に取り乗つて、と左袖返して高く扇を掲げ、ハ我も船に乗らんと、と一ノ松にワキが身を縮めるように哀訴するところや、それを威圧するかに、「あ音高し何と何と」と、と遮るワキ雅介に、「なう尚も人は知らじと難介に、」と居立ちながら昂然とワキを見据えた辺りの気魄は凄かった。後シテは俊男、腰巻を着ける。前シテでやり尽くしたのか、後は前ほどではなかつたがそのなごりも、ただ杖は氷の刃とも輝ともするが元は水深を計るためのもの、老人の杖のように思えたところもあり少々気になった。(1時間20分)

「群童」シテ礼之助・アド松次郎。思えばこのコンビも長い。お互いに勝手知った手の内、余裕がある。地口の面白さ、上げ足とつて機智を互いに面白がる笑いが、商い物らしく如何にも廣揚でたっぷりとなごやかな雰囲気。上々。(18分)

赤紫緑白の四色の段で、春の磯に降り立った天人の如何にも明るくモダンな感覚である。この明るさが衣を奪られて悲しみに沈むと、哀切は一入である。ハ雁がねの掃り行く、と一ノ松勾欄に寄つて通かに左前方を眺め、ハ千鳥鳴の沖つ波、と運び出す重い足取りには流石のワキ白龍・飲也も我を折らざるを得ないだろう。地(徳三・完治ら)が心の琴線を掻き鳴らすかにしつとり高い、些か情緒過多と思える程。物着に金唐草文様の白舞衣を重打に着けると、長身の元陽にはそれが貴婦人の夜会服のように映る。序ノ舞の優雅、破ノ舞に替るイロエは舞台を一巡して一ノ松に掛けて勾欄に寄り、左袖被くとワキを見込んで暫し、退ると再び正先へ一ノ松に出た。こは「忠度」にも似た場面があった。キリは、ハさる程に時移つて、一旦二ノ松に行くのをねあげつつ一ノ松に戻ると再び二ノ松に進み、ハかすかになりて、とカザして小さく廻りながら、ハ天つ御空の、と三ノ松でも小廻りして袖を被くと後向きに幕に入り、ワキ留。白日夢を見るような美しい舞台だった。(59分・2月11日・観世会)

「藤戸」シテ藤一。悲歎と興奮が交々至る感情の起伏のありようが的確でよかった。大柄なシテが身体を縮めるように哀訴するところや、それを威圧するかに、「あ音高し何と何と」と、と遮るワキ雅介に、「なう尚も人は知らじと難介に、」と居立ちながら昂然とワキを見据えた辺りの気魄は凄かった。後シテは俊男、腰巻を着ける。前シテでやり尽くしたのか、後は前ほどではなかつたがそのなごりも、ただ杖は氷の刃とも輝ともするが元は水深を計るためのもの、老人の杖のように思えたところもあり少々気になった。(1時間20分)

本年5月上旬に能楽式舞台つきの 大広間が新装オープン致します

知多半島の高峯山を背に、眼前に広い海を見渡し、新鮮な海の幸を満喫して頂けます

みょう ぜん 妙 膳

(シーサイドプリンス龍宮殿)

愛知県知多郡南知多町内海小畑40 (〒470-33)

TEL 0569 - 62 - 1311

観世流謡曲本 ちくさ正文館

ちくさ駅前 電話01137

潮華料理

うしおばな

後 藤

あとふじ

◎20名様まで程度の小じんまりしたお座敷ですが、ごゆっくりお寛ぎ頂けます。 ◎出張の点心、会席も承ります。

名古屋市千種区東山元町2-11 電話 (052) 781 - 7756

五月雅日記

(105)

梨花一枝

えと文 二井栄逸

した。

梨花一枝雨を帯びたる枝の... 打切に引廻しが下ろされて、小面、耕大口、唐織笠折(からおりつぱり)姿のシテがあらわれる。

梨花一枝雨を帯びたる枝の... 小原御幸の建礼門院、定家の式子内親王と共に三個人として、屋物の中でも特に品位を要求される重曲となる理である。



白の花でも気品の高い梨(なし)の方が好きである。万葉びとは、野の可憐な花の風情の中に、やさしい女性と通じ合うものを感ずっていった。

豊春会春の会

能「張良」上演... 豊春会(豊鶴三千春師主宰)は、五月三日(日)金剛能楽堂で春の会を催す。午後一時始。

金春信高師古稀記念「仕舞集」ビデオ... 名古屋観術会(山本勝一師主宰)は五月二十八日(日)熱田神宮能楽殿で春の大会を開催。

津島・藤まつり 協賛謡曲大会... 津島藤まつりに協賛して、五月四日(金)謡曲大会が津島天王川公園舞台で開催される。

購読料改正についてのおねがい... 本紙では昭和五十五年から一カ年七百円(郵送の場合千二百円)で御愛読を賜っておりすが、この十年間、諸経費、郵送料等の漸増により、まことに恐縮ですがやむを得ずきたる六月号から購読料を次のように改訂させて頂くことになりました。

能「張良」上演... 豊春会(豊鶴三千春師主宰)は、五月三日(日)金剛能楽堂で春の会を催す。午後一時始。

金春信高師古稀記念「仕舞集」ビデオ... 名古屋観術会(山本勝一師主宰)は五月二十八日(日)熱田神宮能楽殿で春の大会を開催。

津島・藤まつり 協賛謡曲大会... 津島藤まつりに協賛して、五月四日(金)謡曲大会が津島天王川公園舞台で開催される。

購読料改正についてのおねがい... 本紙では昭和五十五年から一カ年七百円(郵送の場合千二百円)で御愛読を賜っておりすが、この十年間、諸経費、郵送料等の漸増により、まことに恐縮ですがやむを得ずきたる六月号から購読料を次のように改訂させて頂くことになりました。

Table listing names and roles for the '豊水会二十周年記念春季大会' (Fuyumizu Kai 20th Anniversary Spring Festival). Includes names like 宝紅葉, 二人静, 宝女郎, etc.

Table listing names and roles for the '異会大会番組' (Ikaikai Taikai Program). Includes names like 船弁慶, 巻, 融, etc.

名古屋観舞会春の会

五月二十七日(日)午前十時始
熱田神宮能楽殿

Table listing performers and their roles for the 'Spring Meeting' at Natsuta Shrine. Roles include '舞臺子' (Stage Child), '仕舞' (Attendant), '歌' (Song), '舞' (Dance), and '鼓' (Drum). Performers include names like 川久保彰礼, 西村 欽也, 河村隆一郎, etc.

弥生の舞台から「梅猶会」

竹尾邦太郎

「後寛」シテ重舞。沙門帽子にし、水衣も襦(よれ)にしたのは武骨さを強調するためか。しかし武骨は粗野に通じて落れから上体不安定で粗い。ハ落つる木の葉、と扇開いてスミ近く進んで受け、ハ今こそ、と扇捨てるところ少々こぢなく、ハ限りなりけりと正中下居した。散免状を脱むところは、「さては筆者の」とワキ(雅介)に強く面を切つて激情を見せ、クドキ前のシオリの悲歌を際立たせる。クドキは鳴咽交じりの趣で得にクドキそのもの、(65分)

翠謡会伊勢神宮奉納記念番組

平成二年五月二十日(日)正午始

Table listing performers and their roles for the 'Suisenkaie' program. Roles include '舞臺子' (Stage Child), '仕舞' (Attendant), '歌' (Song), and '舞' (Dance). Performers include names like 高砂 片山, 伊勢 神宮, etc.

「伯母ケ酒」酒飲みたきに口達者なシテ朝(友彦)が、酒を商うアト伯母(松次郎)を訪ねる。歯牙にかけない伯母の、剣もほろほろの挨拶と如何にも迷惑そうなる顔付きは、朝に「流石に女じゃあれ程邪智な人も」と言われしめに充分。遂には鬼の仮面を着けて伯母を脅す朝。只酒飲ませる無念が、怖いもの見たさになってゆく朝の松次郎が巧い。(27分)

Table listing performers and their roles for the 'Suisenkaie' program. Roles include '舞臺子' (Stage Child), '仕舞' (Attendant), '歌' (Song), and '舞' (Dance). Performers include names like 三輪 岩間, 三輪 ちる, etc.

Advertisement for 'Miyō Zen' (みょうぜん) at 'Ryūkyū-in' (龍宮殿). Text: '本年5月上旬に能楽式舞台つきの大広間が新装オープン致します。知多半島の高峯山を背に、眼前に広い海を見渡し、新鮮な海の幸を満喫して頂けます。' Includes contact information: TEL 0569-62-1311.

観世流・金剛流 宗家本発行元 檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
電話(291)2488-9 振替東京3-3552
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入
電話(231)1990 振替京都1-113

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話(731)7984

振替口座 名古屋 0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一 部 70円

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

- 〔5月〕
20日(日) 狂言やるまい会 (有料)
27日(日) 名古屋観衛会大会(来場歓迎)(番組①面)
- 〔6月〕
2日(土) 叶石会・一謡会 (来場歓迎)(番組①面)
3日(日) 清瀬会 (有料)(番組②面)
5日(火) 熱田まつり奉納能 (来場歓迎)(番組②面)
9日(土) 初陽会 (来場歓迎)(番組②面)
10日(日) 観世会定式能 (有料)(番組②面)
16日(土) 宝生流学生連盟全国大会 (来場歓迎)
17日(日) 宝生会定式能 (有料)(番組②面)
23日(土) 名古屋能楽鑑賞会公演 (有料・会員制)
24日(日) 狂言也留舞会 (来場歓迎)(番組②面)
- 〔7月〕
1日(日) 九阜会定例能 (有料)
8日(日) 朝日狂言会 (有料)
15日(日) 観世楽謡会 (有料)
29日(日) 名古屋官庁楽団宝生流大会(来場歓迎)
- 〔8月〕
4日(土) 名古屋新能 (有料)
(熱田神宮神楽殿前)
5日(日) 青陽会定式能 (有料)
18日(土) 野村四郎能 (有料)
19日(土) 三村恵子師範披露能 (有料)
25日(土) 衣斐正宜後援能 (有料)
- 〔9月〕
1日(土) 観世九阜会定例能 (有料)
2日(日) 大名会定式能 (有料)
9日(日) 名古屋観世会定式能 (有料)
16日(日) 名古屋宝生会定式能 (有料)
23日(祝) 和泉 (来場歓迎)
24日(振休) 和泉 (来場歓迎)
29日(土) 中日文化センター発表会 (来場歓迎)
30日(日) 名古屋金春会 (有料)
- (演能変更の節はご了承下さい)

春の叙勲

緑の日の四月二十九日、春の叙勲が発表され、能楽界では次の方々が受章に浴した。

勲四等瑞宝章
金春流シテ方 金春信高氏
大正九年生れ。東京都出身。
昭和二十六年三十二歳で七十九世金春流宗家を継承。昭和五十五年選擧記念で伯母持開曲。元能楽協会理事。現日本能楽会常務理事。
勲五等双光旭日章
観世流太鼓方 小寺俊三氏
大正七年六月二十日生れ。日本能楽会会員、京都能楽会常任理事。
大藪谷口正喜

熱田祭奉納能 6月5日 熱田能楽殿 能「田村」「舟弁慶」

能「野宮」

千之掛 合掌留 火宅留

9日 森田光春後援会能

名手による名曲、秘曲の上演、異流共演など、高度な能の上演企画で注目される森田光春後援会では、きたる六月九日(土)京都観世会館で、「第三回後援会能」を開催する。

今回は、片山九郎右衛門師による能「野宮」(小書千(カン)之掛、合掌留、火宅留)の上演、地頭・観世鎮之丞、大鼓・亀井忠雄がつとめる。また「野宮」の一謡一管は秘曲として稀にみる上演、宝生流「延年之舞」も森田流としてきわめて稀な上演である。

演目は次のとおり
居残り「安宅」延年之舞(辰巳孝、笛杉和、小鼓大倉源次郎、大藪谷口正喜)

午後一時半始、会員券六千円。申込所 森田光春後援会(京都市東山区八坂上町三七六、電話五六一一六二五)京都観世会館、金剛能楽堂、桧書店など。

能楽協会名古屋支部(西村欽也支部長)主催による熱田神宮大祭の協賛「熱田まつり奉納能」は、六月五日(火)午後一時から熱田神宮能楽殿で行われる。

出演は、宝生、金春、金剛、観世流、狂言和泉流で、能二番、狂言一番、仕舞二番上演。

番組は、宝生流能「田村」(テ鬼頭嘉男)、ワキ飯富雅介、笛・大野誠、小鼓・福井啓次郎、大鼓・鬼頭英二、間・佐藤友彦、地謡・辰巳孝、内藤泰二ほか)

狂言(和泉流)「舟弁慶」(松田高義、野村又三郎)
仕舞(金春流)「井筒」(伊藤雄二)仕舞(金剛流)「世郎」(竹市幸司)
観世流能「船弁慶」(今沢美和、子方武田大尚、ワキ西村欽也、ワキツレ飯富雅介、笛・鹿取希世、小鼓・後藤孝一郎、大鼓・河村真之介、大鼓・助川竜夫、間・井上礼之助、地謡・梅田邦久、祖父江修一ほか)

名古屋観衛会春の会

五月二十七日(日)午前十時始
熱田神宮能楽殿

舞臺子	桜	川	龍川	一司	吉田定男	鹿取	希世	
舞臺子	西主	母	太田	和子	吉田定男	鹿取	希世	
舞臺子	山	姥	近藤	辰男	吉田定男	鹿取	希世	
舞臺子	須磨源氏	鈴村	とみ	福井啓次郎	鬼頭喜太郎	鹿取	希世	
舞臺子	鞍馬天狗	鈴木	幸子	福井啓次郎	鬼頭喜太郎	鹿取	希世	
舞臺子	善知鳥	豊住	雅子	吉田定男	鹿取	希世		
舞臺子	自然居士	川口志満子	寛	敏一	藤田六郎兵衛	鹿取	希世	
舞臺子	頼政	脇田喜美子	寛	敏一	藤田六郎兵衛	鹿取	希世	
舞臺子	百	万	上野野ひな子	河村総一郎	藤田六郎兵衛	鹿取	希世	
舞臺子	菊	童	伊藤健一郎	寛	敏一	藤田六郎兵衛	鹿取	希世
舞臺子	船	弁慶	山中	節子	河村総一郎	藤田六郎兵衛	鹿取	希世
舞臺子	卒都婆小町	加藤	風来	山本	順之	章弘		
舞臺子	遊	行	柳	吉田	琴子	河村総一郎	藤田六郎兵衛	
舞臺子	七	騎	水野	たづ子	寛	敏一	藤田六郎兵衛	
舞臺子	番外	一調	天	亀	寛	敏一	藤田六郎兵衛	
舞臺子	附祝言	主催	石	会				

叶石会・一謡会番組

六月二日(土)午前十時始
熱田神宮能楽殿

舞臺子	老	松	祖父江修一	河村真之介	鹿取	希世	
舞臺子	善知鳥	度	池ヶ谷豊	小林	辰彦		
舞臺子	吉野天人	小	督	大西	正敏	鹿取	希世
舞臺子	百	松	虫	井上	花枝	鹿取	希世
舞臺子	雲雀	山	八段ノ舞	長谷川田鶴	後藤孝一郎	鹿取	希世
舞臺子	熊	清	島	吉田	定男	鹿取	希世
舞臺子	山	生	島	河村総一郎	藤田六郎兵衛	鹿取	希世
舞臺子	夕	雨	月	亀	寛	敏一	藤田六郎兵衛
舞臺子	藤	夕	雨	月	亀	寛	敏一
舞臺子	葵	藤	夕	雨	月	亀	寛
舞臺子	附祝言	主催	石	会			

名古屋観衛会春の会 (続)

舞臺子	須磨源氏	鈴村	とみ	福井啓次郎	鬼頭喜太郎	鹿取	希世	
舞臺子	鞍馬天狗	鈴木	幸子	福井啓次郎	鬼頭喜太郎	鹿取	希世	
舞臺子	善知鳥	豊住	雅子	吉田定男	鹿取	希世		
舞臺子	自然居士	川口志満子	寛	敏一	藤田六郎兵衛	鹿取	希世	
舞臺子	頼政	脇田喜美子	寛	敏一	藤田六郎兵衛	鹿取	希世	
舞臺子	百	万	上野野ひな子	河村総一郎	藤田六郎兵衛	鹿取	希世	
舞臺子	菊	童	伊藤健一郎	寛	敏一	藤田六郎兵衛	鹿取	希世
舞臺子	船	弁慶	山中	節子	河村総一郎	藤田六郎兵衛	鹿取	希世
舞臺子	卒都婆小町	加藤	風来	山本	順之	章弘		
舞臺子	遊	行	柳	吉田	琴子	河村総一郎	藤田六郎兵衛	
舞臺子	七	騎	水野	たづ子	寛	敏一	藤田六郎兵衛	
舞臺子	番外	一調	天	亀	寛	敏一	藤田六郎兵衛	
舞臺子	附祝言	主催	石	会				

叶石会・一謡会番組 (続)

舞臺子	老	松	祖父江修一	河村真之介	鹿取	希世	
舞臺子	善知鳥	度	池ヶ谷豊	小林	辰彦		
舞臺子	吉野天人	小	督	大西	正敏	鹿取	希世
舞臺子	百	松	虫	井上	花枝	鹿取	希世
舞臺子	雲雀	山	八段ノ舞	長谷川田鶴	後藤孝一郎	鹿取	希世
舞臺子	熊	清	島	吉田	定男	鹿取	希世
舞臺子	山	生	島	河村総一郎	藤田六郎兵衛	鹿取	希世
舞臺子	夕	雨	月	亀	寛	敏一	藤田六郎兵衛
舞臺子	藤	夕	雨	月	亀	寛	敏一
舞臺子	葵	藤	夕	雨	月	亀	寛
舞臺子	附祝言	主催	石	会			

名古屋観衛会春の会 (続)

舞臺子	須磨源氏	鈴村	とみ	福井啓次郎	鬼頭喜太郎	鹿取	希世	
舞臺子	鞍馬天狗	鈴木	幸子	福井啓次郎	鬼頭喜太郎	鹿取	希世	
舞臺子	善知鳥	豊住	雅子	吉田定男	鹿取	希世		
舞臺子	自然居士	川口志満子	寛	敏一	藤田六郎兵衛	鹿取	希世	
舞臺子	頼政	脇田喜美子	寛	敏一	藤田六郎兵衛	鹿取	希世	
舞臺子	百	万	上野野ひな子	河村総一郎	藤田六郎兵衛	鹿取	希世	
舞臺子	菊	童	伊藤健一郎	寛	敏一	藤田六郎兵衛	鹿取	希世
舞臺子	船	弁慶	山中	節子	河村総一郎	藤田六郎兵衛	鹿取	希世
舞臺子	卒都婆小町	加藤	風来	山本	順之	章弘		
舞臺子	遊	行	柳	吉田	琴子	河村総一郎	藤田六郎兵衛	
舞臺子	七	騎	水野	たづ子	寛	敏一	藤田六郎兵衛	
舞臺子	番外	一調	天	亀	寛	敏一	藤田六郎兵衛	
舞臺子	附祝言	主催	石	会				

叶石会・一謡会番組 (続)

舞臺子	老	松	祖父江修一	河村真之介	鹿取	希世	
舞臺子	善知鳥	度	池ヶ谷豊	小林	辰彦		
舞臺子	吉野天人	小	督	大西	正敏	鹿取	希世
舞臺子	百	松	虫	井上	花枝	鹿取	希世
舞臺子	雲雀	山	八段ノ舞	長谷川田鶴	後藤孝一郎	鹿取	希世
舞臺子	熊	清	島	吉田	定男	鹿取	希世
舞臺子	山	生	島	河村総一郎	藤田六郎兵衛	鹿取	希世
舞臺子	夕	雨	月	亀	寛	敏一	藤田六郎兵衛
舞臺子	藤	夕	雨	月	亀	寛	敏一
舞臺子	葵	藤	夕	雨	月	亀	寛
舞臺子	附祝言	主催	石	会			

五月雅日記

(106)

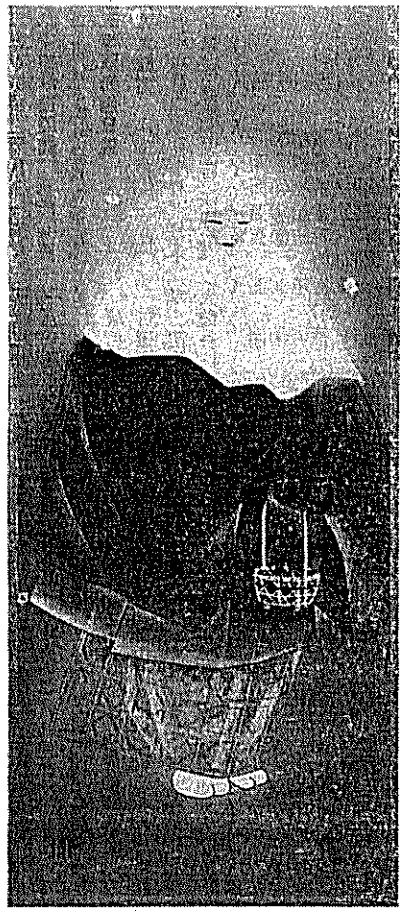
チャリテイー

二井栄逸

このたび毎日新聞西部社会事業部が主催された、歳末書画陶磁器即売展を通じて、貴殿から当町のお年寄りに巡回入浴車の御寄贈をいただき御厚意を深く感謝申し上げます。このたびの御寄贈の巡回入浴車は、枕もとまで浴槽を持ち込む最新型であって、入浴サービスの一層の充実により、在宅福祉に大きく貢献するものと確信しています。この心あたたまる文面であった。おかげで其の日は一日中、心が爽やかで嬉しかった。

礼状には、加治木町では平成元年度から在宅老人デイ・サービス事業を実施し、その中で入浴サービスも行っています。重度のねたきり老人等は困難でありましたが、このたびの寄贈の巡回入浴車は、枕もとまで浴槽を持ち込む最新型であって、入浴サービスの一層の充実により、在宅福祉に大きく貢献するものと確信しています。この心あたたまる文面であった。おかげで其の日は一日中、心が爽やかで嬉しかった。

チャリテイーの絵は毎年十一月末までには全部おくらなければならず、十一月という月は展覧会や発表展、講習会等、各種の文化行事がぎっしりとつまる月であるから、所詮、絵の制作は深夜作業となる。でも多くの人が喜んでくださるのには、たしかかな事なのだから少しも苦にならない。そして、日本の宝ともいうべき能を少しでも多く定着させる為、一貫して能画を贈ることに変わりは無い。(平成二年五月二日記)



清韻会能

6月3日 熱田能楽殿
大御清韻会の「清韻会能」は六月三日(日)熱田神宮能楽殿で開催。能「野宮」(シテ近藤幸江) 能「天鼓」(シテ近藤幸江) 能「狂言」(文山賊) (野村又三郎) 一調「松虫」(水藤元三、小鼓、後藤孝一) ほか仕舞六番。午後一時始。会員券五千円(全自由席)(番組②面掲載)。

初陽会大会

6月9日 能「遊行柳」
初陽会(武田宗和師主宰)は、六月九日(土)熱田神宮能楽殿で社中大会を開催。能「遊行柳」(シテ山本一) 素謡「卒都婆小町」(シテ岡本歳子) はじめ十二番、舞囃子、仕舞十数番。午前九時始、入場無料(番組②面掲載)。

観世流龍雲会が五周年記念大会

6月17日 文化会館
観世流四日市龍雲会は、観世喜之師一門の駒瀨直也師の指導で発足して五

梅猶会定期能

6月2日 大阪能楽会館
梅猶会定期能(平成二年度第二回)は六月二日午後一時から大阪能楽会館で開催する。

宇高通成後援会

「鉄輪」テーマに能楽講座
金剛流・宇高通成後援会では、「エンジョイ能・名古屋」の第八

平成2年5月・6月放送予定

5月		6月	
20日(日)	NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)	20日(日)	NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
27日(日)	NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)	27日(日)	NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
3日(日)	NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)	3日(日)	NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
10日(日)	NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)	10日(日)	NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
17日(日)	NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)	17日(日)	NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
24日(日)	NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)	24日(日)	NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)

清韻会能		野宮		天山		天鼓		附祝言	
六月三日(日)午後一時始	熱田神宮能楽殿	近藤幸江	西村 欽也	野村又三郎	松田 高義	水藤元三	後藤孝一	野村又三郎	河村総一郎
胡蝶	加藤 春枝	山 姥	今村 嘉男	盛 盛	大根 文蔵	盛 盛	大根 文蔵	後見 泉	武野 剛年
胡蝶	三島 信隆	山 姥	水藤元三	盛 盛	大根 文蔵	盛 盛	大根 文蔵	後見 泉	武野 剛年
胡蝶	三島 信隆	山 姥	水藤元三	盛 盛	大根 文蔵	盛 盛	大根 文蔵	後見 泉	武野 剛年

初陽会大会		附祝言		入場無料	
六月九日(土)午前九時始	熱田神宮能楽殿	野村又三郎	河村総一郎	野村又三郎	河村総一郎
野村又三郎	河村総一郎	野村又三郎	河村総一郎	野村又三郎	河村総一郎
野村又三郎	河村総一郎	野村又三郎	河村総一郎	野村又三郎	河村総一郎

紅梅記

身辺雑事、金
春信高氏叙勲、
四月の能

五月ははじめ(ちまき)を食べ... 五月の端午の節句の少し前か... 先に出たき、五日が過ぎると店... の間楽しめる。柏餅の方はしば... ん・つぶあん(餡、白あんではな...)・みそあんの三種類あって、... みその味もよかつたが、今は入手... できない。粽の方は白砂糖入りと黒... 砂糖をまぜたもの。どちらかが笹... の葉の表、他方が裏で包んだもの... だが、今は区別もないようである...

親世流四日市龍雲会
五周年記念大会

六月十七日(日)午前九時三十分始
四日市市文化会館第2ホール

連吟 高砂 日本合成ゴム調曲部
田村 立石 隆子 井上 忠経
弱法師 丹羽 房子 鈴木 まさ

千手 山中 雅代 古川 恒夫
松風 水谷 蓮子 岩崎 透
藤戸 森寺 昌子 吉川むつ子
花柳 鈴木美代子
遊柳 坂 敦子
山姥 佐藤 満江
子方 柳瀬 慎也 渡辺 万千子

香子 三井 寺 赤井 重規 成瀬 明至
河村総一郎 井上 忠経
河村啓次郎 鹿取 希世
河村啓一郎 助川 龍夫
河村啓次郎 鹿取 希世
河村啓一郎 鹿取 希世

吉野 天人 森本 文江
河村総一郎 助川 龍夫
河村啓次郎 鹿取 希世
河村啓一郎 鹿取 希世

松 風 川村 知子 福井啓次郎 鹿取 希世

六月は熱田まつり奉納能。
四月二十九日の緑の日は叙勲の日。金春信高氏(金春流家元)が勲四等瑞宝章を、新聞発表欄同氏の年令七十と。七十にならねば一般には叙勲を受けられないのだが、この活字二字に誇られたる。初対面から三十五年以上の歳月がたつ。その間金春の代表者として精進活躍を。大小の金春の八古拙Vを広く見聞させてもらった。ただ古風と言っただけではなく、現代の目がそがれ、古臭を洗う。奈良・京都・大阪・伊勢、そして名古屋。たまか東京と、それらの思い出は、金春流を語る時、また善竹弥五郎で武智鉄二両氏のことが忘れられぬ。めでたし。

四月八日は親世会。勝一・老松に臨能のよさをみる。昨年の三輪に続き佳演。後日のハヤシ幸都婆小町も。舞臺子ながらその老女物は初めて。一代前の大阪親世の能に比し、ちがった味、現代風を持つが、それでも大阪Vの能、山本の能のよさをたたく。二番目の清和・巴は若々しく、やさしく、みずみずしく。若々しいことは雅いことではない。当然ながら花

を持つ。他のシテ方三流儀家元の息と共に将来の期待は大きい。同じく下旬二日、青陽会の大田徹二・山姥・白頭をみる。力演で、話もしくきも運びにも量感あり。見所を引きつけた。あれに多少の緩急抑揚を望むのは個人の好みによる。なお重折の装束の感じ(色彩、文様八法輪V)が山姥のやさしい面を大きくあらわす。白頭のときはよくつける扮装であらうか。あの唐織に興味があった。翌二十九日の半能山姥(盛藻、ソレ息盛藻。幸友会第一日)佳。

テレビ能。四月二十九日から五月六日まで五回あった(NHK)。二九日、墨染桜(金剛流のみ、豊嶋三三、ワキ西村欽也。正月ラジオ放送)。先帝追慕の深々とした思いがしみる。ワキ西村氏の地味で洗いがよく、ライトはシテ(中心)にいきさか明るく当り過ぎた。翌三十日は延期の羽衣。友枝喜久夫氏。能充実の舞台に感服。あわせて、霞留の切りが何とも喜ばぬ。幼を経た能者である。昨日よりシテの姿が明るすぎる。照明はむつかしい。

五月のことは次号で。鹿嶋清兵衛氏のこと(親、美術新潮4)。

購読料改正について
本紙では昭和五十五年から一カ年七百円(郵送の場合千二百円)で御愛読を賜っておりますが、この十年間、諸経費、郵送料等の騰騰により、まことに恐縮ですが、むを得ずきたる六月号から購読料を次のように改訂させて頂くことになりました。何卒事情ご理解を賜りますようお願い致します。

購読料改正について
一カ年千円
▽郵送の場合千五百円
▽一部 九十円

なおすでに前金にてお申込みの場合は期間中従来どおりとさせて頂きます。

雲林院 坂 道子 河村啓一郎 鹿取 希世
山本百合子 福井啓次郎 鹿取 希世

道成寺 古庄はる子 親世 喜之
若 西村 欽也 河村啓一郎 鹿取 希世

一調笠之段 岩崎 透 福井啓次郎
井 筒川 澄子 河村啓一郎 鹿取 希世

野 宮 増岡 斉 河村啓一郎 鹿取 希世
融 平井 和子 河村啓一郎 鹿取 希世

安 宅 吉田 隆幸 河村啓一郎 鹿取 希世
嵐 戸 勉 直也 河村啓一郎 鹿取 希世

藤 山 勉 直也 河村啓一郎 鹿取 希世

主催 四日市龍雲会
指導 瀬 直也
連絡所 四日市中浜田町一三二
電話 〇五九三三五三八〇七〇番

遊 行 柳

山本 一 福王茂十郎 河村啓一郎 鹿取 希世
青柳之舞 野村文三郎

仕舞高 城 鈴木 容子 河村啓一郎 鹿取 希世
山姥 神沢 幸吉 河村啓一郎 鹿取 希世

替之型 守 武田 宗和 河村啓一郎 鹿取 希世

東京都新宿区富久町四〇一四
電話 〇三(三五九)二七八三番

主催 武 田 宗 和 会
電話 〇三(三五九)二七八三番

祖父江修一 武田 志房
祖父江修一 武田 志房

川 後見 小島 一英 須山 幸親 中川 邦久
藤波 重満 須山 幸親 中川 邦久

井上 祐一 松山 幸親 中川 邦久
河村真之介 藤田 六郎兵衛

井上 祐一 松山 幸親 中川 邦久
河村真之介 藤田 六郎兵衛

後見 井上松次郎 佐藤 友彦
大野 弘之

三 輪 藤波 重満 古橋 正邦
通小町 井上 喜久 古橋 正邦

河村 和晃 高安 勝久 鬼頭 好信
後見 武田 志房 久田 邦久

後見 中川 雅章 地謡 加藤 保彦 久田 邦久
武田 志房 加藤 保彦 久田 邦久

主催 名古屋能楽鑑賞会
当日券 八千円(自由席)

名古屋宝生会定式能(第23期)

六月十七日(日)午後一時始
熱田 神宮 能楽殿

宝生 英雄 西村 欽也 河村啓一郎 鹿取 希世
後見 倉本 雅 門原 利光 吉田 俊彦

大野 弘之 井上松次郎 寺部 一威 馬場 俊彦

河村真之介 福井 良久 鹿取 希世

後見 内藤 泰二 地謡 杉浦 唯雄
佐藤 耕司 加賀山 忠治 辰巳 次郎

岩 船 佐藤 耕司 吉田 俊彦
杜 若きり 戸田 和 辰巳 次郎

辰巳 孝 高安 勝久 吉田 定男 鬼頭 好信
後見 杉江 元 後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛

後見 宝生 英雄 和野 幸三 辰巳 次郎
稻川 寿一 地謡 久野 幸三 辰巳 次郎

後見 稻川 寿一 地謡 久野 幸三 辰巳 次郎
平子 福美 馬場 俊彦 辰巳 次郎

後見 柴田 文義 地謡 小野 里治 北浪 昭雄
浅井 文義 清水 寛二 阿部 信之

主催 名古屋能楽鑑賞会
臨時会員券七千円(自由席)

主催 名古屋能楽鑑賞会
臨時会員券七千円(自由席)

主催 名古屋能楽鑑賞会
臨時会員券七千円(自由席)

主催 名古屋能楽鑑賞会
臨時会員券七千円(自由席)

名古屋宝生会定式能(第24期)

六月十七日(日)午後二時始
熱田 神宮 能楽殿

宝生 英雄 西村 欽也 河村啓一郎 鹿取 希世
後見 倉本 雅 門原 利光 吉田 俊彦

大野 弘之 井上松次郎 寺部 一威 馬場 俊彦

河村真之介 福井 良久 鹿取 希世

後見 内藤 泰二 地謡 杉浦 唯雄
佐藤 耕司 加賀山 忠治 辰巳 次郎

岩 船 佐藤 耕司 吉田 俊彦
杜 若きり 戸田 和 辰巳 次郎

辰巳 孝 高安 勝久 吉田 定男 鬼頭 好信
後見 杉江 元 後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛

後見 宝生 英雄 和野 幸三 辰巳 次郎
稻川 寿一 地謡 久野 幸三 辰巳 次郎

後見 稻川 寿一 地謡 久野 幸三 辰巳 次郎
平子 福美 馬場 俊彦 辰巳 次郎

後見 柴田 文義 地謡 小野 里治 北浪 昭雄
浅井 文義 清水 寛二 阿部 信之

主催 名古屋能楽鑑賞会
臨時会員券七千円(自由席)

主催 名古屋能楽鑑賞会
臨時会員券七千円(自由席)

主催 名古屋能楽鑑賞会
臨時会員券七千円(自由席)

主催 名古屋能楽鑑賞会
臨時会員券七千円(自由席)

野村又三郎社中 也留舞会 合同発表会

六月二十四日(日)十二時開演 熱田 神宮能楽殿

狂言 魚説法 齋 加藤志津子 庄司 武 新発意 奥津健太郎 野口 隆行 素三 輪 平山みよ子 林 由加子 狂言 縛 太郎冠者 井上礼之助 狂言 水汲 新発意 三宅 千生 野村又三郎 附 子 太郎冠者 村手 泰 野村 信行 狂言 素胡 蝶 柴田 鏡子 山寺 章子 狂言 山伏 山伏 各川 良三 弟 野村 信行 狂言 仕舞 盛クセ 三宅 千生 丸道行 林 由加子 狂言 狂言竹生島参り 太郎冠者 山崎 慎也 主 井上礼之助

狂言 狂言引 庄司 武 各川 良三 狂言 福井啓次郎師の受賞祝賀会 幸清流小波方・福井啓次郎師は本紙既報のように平成元年度愛知県芸術文化選奨文化賞(個人)を受賞されたが、幸友会ではこの栄誉を記念して、五月十九日午後六時半から名古屋観光ホテルで祝賀の会を開催する。

弥生の舞台から 高安会追善能

竹尾邦太郎

「海士・懐中ノ舞」シテ九郎右衛門。子方(青木智彦)の母を慕う切々の情、自ら大臣の御子と生まれ、以下を開き入るシテが、面を伏せず、身体を硬直させるかにひたと正面を見詰めていたのが印象的。玉ノ段は緩で舞った。海漫々と分け入り、と水衣の両袖一杯に風を孕ませ、一ノ松先へ一気に行く。海漫深く潜って行く気合十分。それが、へ取り得んことは、とシテととらへる。激しさを覚える。へ父大臣も、と二ノ松から遠く見てへさるるにこの儘に、とシテして一ノ松に戻り、へ涙ぐみ、と句欄に寄って合掌する。と拍子踏み続けるのも、仏果の力を充足してゆく感じがよく出ていた。へ乳の下を掻き切り、以下も鮮烈、地謡(慶次郎・邦久ら)の好調と相俟ち見事だった。後シテは黒頭と冠・面は橘姫・錦箱・赤地横襦大口(金花菱甲文様)・灰色地舞衣(金銀世水・緑沢海文様)を並打に着けて左手に経巻を持つ。真晦から出現した異様な雰囲気があった。正先手前下居する経巻を読みへ有難の御経やな、と押し戴いて経巻を巻き戻す間は四拍子のアシライ、再び懐中にして立ち、常座で子方に向けて袖をシテと早舞。途中、三ノ松に掛け、左袖返したまま暫くクツログと小廻りして戻る。舞上げは位進み、子方に走って経巻を渡す。子方は床几を下りて経巻を開き、トメの後、巻きた戻して左手に捧げ持ち、立つと退いた。(1時間43分)

卯月の舞台から 観世

竹尾邦太郎

「老松」脇能の中でもかなり遠い曲。季節を選べば二月初回に如くはないが、シテ助一。居クセの中、へ紅梅殿も老松も皆末社と現し給へり、と徐々に身体を廻してワキ歎也の心を惹くかにアシラバ、直すとおもむくにへされば、と地(順之・宗和・邦久・一英ら)は誦い継ぐ。こころはシテの説明を地が代行する訳だが、双方の気持がしっくり合ひ、更には、へ松を大夫と申すなり、とクセ切で念を押すかにワキにアシラウところなど、後シテを強く暗示して面白かった。

「巴」シテ清和。前は若女・襟白赤・浅黄赤段唐織。アイ松次郎の語り言う「色白く容顔美麗」の立居も優しい佳い女で、「弓矢打物取つては一人当千のつは者」とは思いもよらない。しかし後シテ(橙地横襦大口・青灰色七宝文様唐織横打・面十宝篋)はがらりと変って意外性の面白さを見せる。先ず薙刀肩にすらすらと常座に出ると、いきなり薙刀一閃、心腹を寒からしめる。薙刀扱いはキリ近く、へ皆一方に斬り立てられ、と二ノ松に往くところなどもハキハキと極めて勢いがあり気持がよかった。

「武悪」武悪・又三郎、主。松次郎、太郎冠者、礼之助。久々の顔ぶれであったがアンサンブル上々、前半の緊張とペーソス、後半の踏踏味の按配も申し分ない。尊大な主が意外や應病だった、という発見に因り、脅しにかか

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ! 舞姿の勉強と記念に是非どうぞ! 当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた専門技術により、きつとご満足いただける自信があります。ビデオプロダクション 西川企画 名古屋営業所(〒451)名古屋市西区名駅2-20-3輪の内荘 小波方 ☎(052) 571-5816 (〒500)岐阜市北野町20-2 TEL (0582) 63-9869



「ごんぱんわ」で始まる地元ニュース番組 (月~土)18:00~18:30 (日)17:00~17:30

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 0-36393

購読料 1年1000円

郵送の場合 1年1500円

一 部 90円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

- (6月)
 - 23日(土) 名古屋能楽鑑賞会公演 (有料・会員制)
 - 24日(日) 狂言也留舞会 (来場歓迎)
- (7月)
 - 1日(日) 九阜会定例能 (有料) (番組①面)
 - 8日(日) 朝日狂言会 (有料) (番組①面)
 - 15日(日) 銀世素謡会 (有料) (番組②面)
 - 29日(日) 名古屋官庁実業団宝生流大会 (来場歓迎)
- (8月)
 - 4日(土) 名古屋新能 (有料) (熱田神宮能楽殿前)
 - 5日(日) 青陽会定式能 (有料) (有料)
 - 18日(土) 野村四郎能 (有料) (有料)
 - 19日(日) 三村恵子師範披露能 (有料) (番組③面)
 - 25日(土) 衣笠正宜後援能 (有料) (有料)
- (9月)
 - 1日(土) 観世九阜会定例能 (有料) (有料)
 - 2日(日) 大古屋屋世定式能 (有料) (有料)
 - 9日(日) 大古屋屋世定式能 (有料) (有料)
 - 16日(日) 大古屋屋世定式能 (有料) (有料)
 - 23日(祝) 和名文化センター発表会 (来場歓迎)
 - 24日(祝) 和名文化センター発表会 (来場歓迎)
 - 29日(土) 和名文化センター発表会 (来場歓迎)
 - 30日(日) 和名文化センター発表会 (来場歓迎)
- (10月)
 - 6日(土) 久名邦都武猫幸清松名 (来場歓迎)
 - 7日(日) 久名邦都武猫幸清松名 (来場歓迎)
 - 10日(祝) 久名邦都武猫幸清松名 (来場歓迎)
 - 13日(土) 久名邦都武猫幸清松名 (来場歓迎)
 - 14日(日) 久名邦都武猫幸清松名 (来場歓迎)
 - 20日(土) 久名邦都武猫幸清松名 (来場歓迎)
 - 21日(日) 久名邦都武猫幸清松名 (来場歓迎)
 - 27日(土) 久名邦都武猫幸清松名 (来場歓迎)
 - 28日(日) 久名邦都武猫幸清松名 (来場歓迎)
 - 31日(水) 久名邦都武猫幸清松名 (来場歓迎)

(演能変更の節はご了解下さい)

長良川新能

8月3日(金)

長良川特設舞台

主催 岐阜市・岐阜市教育委員会、主管岐阜青年会議所、後援岐阜県教育委員会、岐阜商工会議所、午後五時開場、午後六時二十五分開演。(雨天および増水時は中止される)

長良川新能はことし第四回目、長良川の瀬に舞台をしつらえ金華

山を背景に、鶴舟のかがり火から火を採る演出で昨年は六千五百人へのぼる多数の観客であった。今回は片山九郎右衛門、観世鏡之丞師らが来演する。

番組次のとおり。

仕舞「放下僧」(片山九郎右衛門)「野守」(梅田邦久)

舞踊子「養老」(観世鏡之丞)

午後七時「火入れ式」

狂言「千鳥」(大藏弥太郎)

能「船弁慶」(シテ観世鏡之丞、ワキ西村欽也)

和泉流狂言「文山殿」(井上祐一、佐藤友彦、後見大野弘之)

金春流半能「石橋」(シテ本田光洋、ツレ吉場広明、ワキ西村欽也、笛・鹿取希世、小鼓・後藤孝一郎、大鼓・鬼頭英二、太鼓・鬼頭喜太郎、後見・瀬尾朝次、横山紳一、小島芳樹、林功、地謡・金春安明、金春穂高、塚本惠市、広瀬瑞弘、渡部道三、伏原清二、赤広一雄、佐久間祥夫、小林喜行、武馬正和)

会員券前売二千円(当日券二千五百円) 小人千円。

東海各地で新能

津島、岡崎、一宮、岐阜

夏の地域イベント盛ん

夏を彩る新能は、東海各地でも年々盛んになり、地域のイベントとして今年も愛知、岐阜の各都市で催される。

名古屋新能はことし二十五回を数え、八月四日(土)熱田神宮で催されるが、愛知県下では、津島で「天王新能」(第七回)が八月五日(日)、岡崎では昨秋完成した岡崎城二の丸能楽堂で八月十日(金)「龍城の新能」の演能、さらに一宮では、ことし第二回を迎えた「一宮新能」が八月二十六日(日)真清田神社で、また岐阜では、岐阜市が主催する「長良川新能」が八月三日(金)長良川特設舞台で催され、能・狂言が「心の時代」にふさわしい人々の生活に融けこんできている。

天王新能

八月五日(日)午後五時開演、会場は天王川公園野外特設能舞台(雨天の場合は佐屋町中央公民館)

主催 天王新能連友会、後援津島市、津島市教育委員会、佐屋町、佐屋町、立田村、八開村、協賛津島市観光協会、津島青年会議所、津島市職員組合、津島市職員互助会、名古屋金春会、能を知る集

八月五日(日)午後五時開演、会場は天王川公園野外特設能舞台(雨天の場合は佐屋町中央公民館)

主催 天王新能連友会、後援津島市、津島市教育委員会、佐屋町、佐屋町、立田村、八開村、協賛津島市観光協会、津島青年会議所、津島市職員組合、津島市職員互助会、名古屋金春会、能を知る集

愛好者による連吟、独吟、仕舞、独調、独鼓、舞踊子。

火入れ式、午後六時五十分頃 観世流能「杜若」(シテ泉喜夫、ワキ西村欽也、笛・鹿取希世、小鼓・後藤孝一郎、大鼓・寛敏一、太鼓・鬼頭喜太郎、後見・加藤春枝、近藤幸江、地謡・山本正人、祖父江修一、高橋敏一、鶴見孝、八神孝光、大橋広行、桑原信夫、田中社)

和泉流狂言「文山殿」(井上祐一、佐藤友彦、後見大野弘之)

金春流半能「石橋」(シテ本田光洋、ツレ吉場広明、ワキ西村欽也、笛・鹿取希世、小鼓・後藤孝一郎、大鼓・鬼頭英二、太鼓・鬼頭喜太郎、後見・瀬尾朝次、横山紳一、小島芳樹、林功、地謡・金春安明、金春穂高、塚本惠市、広瀬瑞弘、渡部道三、伏原清二、赤広一雄、佐久間祥夫、小林喜行、武馬正和)

会員券前売二千円(当日券二千五百円) 小人千円。

龍城の新能

8月10日(金)午後六時半

岡崎城二の丸能楽堂

昨年十月、岡崎市が建設した岡崎市康生町の岡崎公園内にある岡崎城二の丸能楽堂での上演。主催 岡崎龍城ライオンズクラブ。

市長挨拶・会長挨拶
薪点火などの行事

狂言の解説
能の解説

子方柴田 昌宏
泉 嘉夫

龍船弁慶

8月26日(日) 真清田

神社境内

主催 一宮新能実行委員会、後援一宮市、一宮市教育委員会、愛知県、愛知県教育委員会、中日新聞。

(第一部) 正午始

仕舞、連吟、舞踊子はか、各社中の出演。

午後五時三十分、火入れの儀。

(第二部)

仕舞「氷室」(加賀敏彦)「船弁慶」(高橋弘)

舞踊子「忠度」(シテ梅田邦久)

能「鶴調」(前シテ下田雄三、後シテ橋岡慈親)

狂言「太刀奪」(野村又三郎、井上礼之助、野村信行)

半能「石橋」(白菊子、奥善助、赤菊子、瀬戸三津子)

総貸券、前売一般二千円(当日二千五百円) 学生千円(当日千五百円) テレカ鑑賞券、前売三千円

平成2年6月・7月放送予定

- (6月) NHK・FM能楽鑑賞 (午前8時~9時)
 - 24日(日) 観世流「女」 藤井 徳三
 - (5月) NHK・FM能楽鑑賞 (午前8時~9時)
 - 1日(日) 観世流「天鼓」 志房 房男
 - 8日(日) 観世流「盛久」 今井 泰太郎
 - 15日(日) 観世流「色」 松月 金太郎
 - 22日(日) 観世流「雨」 片山 九郎右衛門
 - 29日(日) 大藏流狂言「栗田」 大藏 弥右衛門
- 7月度のテレビ放送はありません
(放送予定につき変更の節はご了解下さい)

名古屋観世九阜会定期能(第三回)

七月一日(日) 午前十一時始

熱田神宮能楽殿

主催 朝日新聞

後援 名古屋テレビ

取扱所 松坂屋・三越・名鉄・各ブレイガイド・朝日新聞企画部

事務所 千種区橋二丁目七十五井上方面(052)211-1430

会費 指定期三、〇〇〇円 自由席二、〇〇〇円

附祝言 49 名古屋市南区元垣町一(一七)加藤保彦方

要員券 当日券 四千円

主催事務所 名古屋観世九阜会

TEL052(261)3659

第三十二回 朝日狂言会

七月八日(日) 午後一時三十分始

熱田神宮能楽殿

主催 朝日新聞

後援 名古屋テレビ

取扱所 松坂屋・三越・名鉄・各ブレイガイド・朝日新聞企画部

事務所 千種区橋二丁目七十五井上方面(052)211-1430

会費 指定期三、〇〇〇円 自由席二、〇〇〇円

附祝言 49 名古屋市南区元垣町一(一七)加藤保彦方

要員券 当日券 四千円

主催事務所 名古屋観世九阜会

TEL052(261)3659

蟹山伏

花子

千鳥

文相撲

五月雅日記

(107)

最上のもの

二井栄逸

早春の奥山にわけ入り、鹿を追

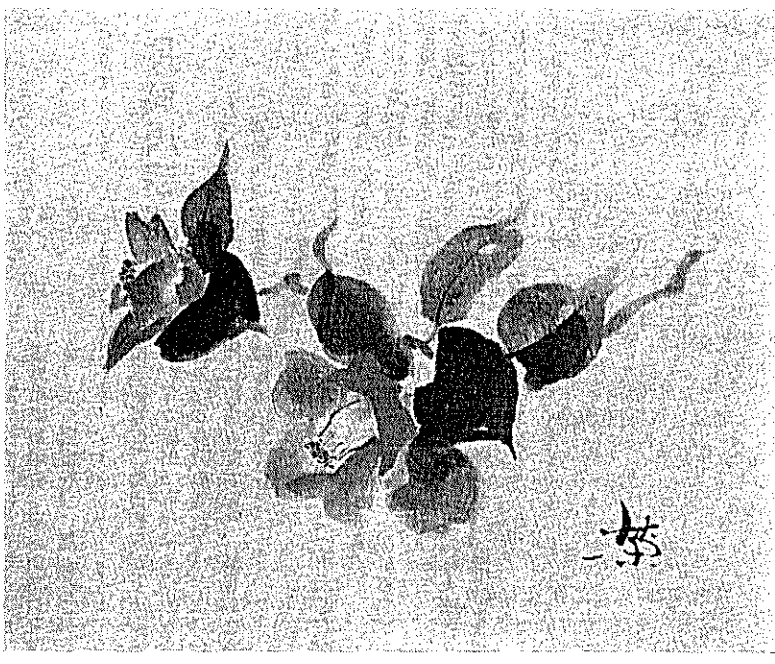
知人のTさんから椿の絵を所望されていたので、今朝画室に入っただ。絵にかくには山椿が一番いい。園芸種とちがって野生種は味が深いからである。

ツバキは大体、冬と春の間に咲きそめ、四月をもって花期を終るが、ヤマツバキは十月頃から咲きそめ、翌年の五月までの長い花期をもっている。

野生種のもの、ヤマツバキ、或はヤブツバキと呼ぶ、園芸種のものには単にツバキと呼ぶが、普通は両者をまとめてツバキと呼んでいる。

とにかくツバキにはすこぶる仲間が多い。ヤマツバキの中にも、紅、白、紫があったものがある。私は、山椿であろうと、園芸種であろうと、白椿、紅椿、黒椿とよばせてもらっている。

あしがきの
山つばき咲く
八重(やつを)越え
鹿(し)待つ君が
いはひ妻かも 一萬葉



う雅師たちは、山椿のつらなり咲くのを見て、ほのぼのの春の息吹きを感じるのである。そして、この雅師たちの心を占めるものは、彼等が大切にしている「いはひ妻」なのである。

最上のものを花という。花にはねたみもいつわりもない。そして散りては咲き、咲きては散る天来無礙のリズムは、人々に其の都度感動をあたえつつける。

花のように美しい最上のものは心より心に伝わるものであって、言葉や文章だけで伝わるものではない。

世阿弥は、能の最上の芸を呼ぶと呼び、心より心に伝わる花と呼んだ。

然れば、道を嗜(たしな)み芸を重んずる所、私なくば、なごか其の徳を得ざらん。殊更、此の芸、その風を継ぐといえども、自力より出ずる振舞あれば、語(ことば)にも及びがたし。その風を得て、心より心に伝わる花ならば、風姿花伝と名付く。——風姿花伝——

世阿弥は、わが子孫への訓戒として、真(まこと)の花の伝承を強くのぞんでいたのである。心より心に伝わる花。なんと素晴らしいことばなのだろうか。

親から子へ、子から孫へ、師から弟子へ、弟子から次の弟子へと、永遠に伝えられてゆくのであろう花を、私達は何よりも大事にしなければならぬと思う。

(平成二年五月二十八日記)

大阪城薪能 8月2日 能3番

大阪市、同教委、大阪21世紀協会、国際花と緑の博覧会協会(番組詳)

夜空に浮かぶ大天守閣を背景に催される「大阪城薪能」は、きたる八月二日(木)大阪城西の丸庭園で行われる。

シテ方親世流職分、神戸能楽会理事長、上田照也(通称)として能楽界に多面的な活躍と業績を遺した故上田照也師をしのぶ「点を線にしたい」私本・上田照也の歳月がこのほど刊行された。

「私本・上田照也」をつくる会には、代表・堀王茂十郎、井上嘉久、泉泰孝、浦田保利、大槻文蔵、山本勝一、山本真實、山中義滋、野口浩和、山本孝、笠田徳、藤谷政二の諸師、編集同人として、柳氏、坂田昭二氏、岡門の鳥羽常雄、加藤又善両師、上田英子夫人が携わり、上梓までに足かけ四年の精力的な活動が凝集した力作。

「点を線にしたい」私本・上田照也の歳月がこのほど刊行された。

「私本・上田照也」をつくる会には、代表・堀王茂十郎、井上嘉久、泉泰孝、浦田保利、大槻文蔵、山本勝一、山本真實、山中義滋、野口浩和、山本孝、笠田徳、藤谷政二の諸師、編集同人として、柳氏、坂田昭二氏、岡門の鳥羽常雄、加藤又善両師、上田英子夫人が携わり、上梓までに足かけ四年の精力的な活動が凝集した力作。

「私本・上田照也」をつくる会には、代表・堀王茂十郎、井上嘉久、泉泰孝、浦田保利、大槻文蔵、山本勝一、山本真實、山中義滋、野口浩和、山本孝、笠田徳、藤谷政二の諸師、編集同人として、柳氏、坂田昭二氏、岡門の鳥羽常雄、加藤又善両師、上田英子夫人が携わり、上梓までに足かけ四年の精力的な活動が凝集した力作。



翠謡会(主宰・生駒里翠師)の研究生、および中日文化センター(名古屋)・岐阜・四日市の生駒講堂の受講生による伊勢神宮奉納記念の会は六月二十日、伊勢神宮内宮参集殿で六十人が参加、とくに「神歌」舞臺子「高砂」は片山慶次郎師のご参加を頂いてひきしめた舞臺となり、素謡、仕舞など二十数番を上演、伝統古典芸能の美学研修の成果を繰深める神宮の舞臺で発表、奉納した。翠謡会の伊勢神宮奉納は今回で四回目、ことしの演能は平成二年の新しい時代によさしい祝賀の演目をそろえ、客席にも参拝者が熱心に観賞する姿がめだつた。中日新聞本社後援。(写真①)

◆全館自由席
◆入場料 前売 四、〇〇〇円 当日 五、〇〇〇円
◆前売券発売場所 出演能楽師宅・熱田神宮能楽殿
「子ケツトびあ」にて取扱

- ### NHK趣味百科「仕舞入門Ⅱ」
- 7、8、9月3カ月間
- ▽八月六日「羽衣」⑤「鶴亀」①(再放送八月七日)
 - ▽八月十三日「鶴亀」④(再放送八月十四日)
 - ▽八月二十日「鶴亀」③(再放送八月二十一日)
 - ▽八月二十七日「鶴亀」②(小袖曾我)①(再放送八月二十八日)
 - ▽九月三日「小袖曾我」②(再放送九月四日)
 - ▽九月十日「小袖曾我」①(再放送九月十一日)
 - ▽九月十七日「小袖曾我」④(再放送九月十八日)
 - ▽九月二十三日「小袖曾我」③(再放送九月二十四日)
 - ▽七月九日「老松」②、羽衣クセ①(再放送七月十日)
 - ▽七月十六日「羽衣」②(再放送七月十七日)
 - ▽七月二十三日「羽衣」③(再放送七月二十四日)
 - ▽七月三十日「羽衣」④(再放送七月三十一日)

- ### 夏の素謡会
- 七月十五日(日)午後一時開演
- | | | |
|-----|-------|-------|
| 難波 | 熊沢恵美子 | 松山幸親 |
| 胡蝶 | 瀬戸三津子 | 祖父江修一 |
| 三輪 | 前野郁子 | 祖父江修一 |
| 天鼓 | 今沢美和 | 須部 |
| 法師 | 井上嘉久 | 梅田邦久 |
| 弱法師 | 梅田邦久 | 武田邦久 |
| 屋島 | 須部甫 | 梅田邦久 |
| 網之段 | 清沢一政 | 梅田邦久 |
| 小鍛冶 | 高橋一 | 梅田邦久 |
| 西行桜 | 観世左近 | 梅田邦久 |
| 放下 | 古橋正邦 | 梅田邦久 |
| 雲林院 | 久田徹二 | 梅田邦久 |
| 歌 | 武田邦久 | 梅田邦久 |
| 恋重荷 | 中川雅章 | 梅田邦久 |
| 附祝言 | 観世元昭 | 梅田邦久 |

長良川薪能の整理券発行

別項紹介の「長良川薪能」は入場は無料だが、整理券が発行される。この整理券は七月一日(日)午前十時から岐阜市役所で発行、配布されるが、とくに遠隔地(岐阜市外)の方には次の要領で郵送の申し込みを受け付ける。

申し込み先(〒500)岐阜市神田町2丁目、岐阜商工会議所3階、(社)岐阜青年会議所伝統部(電話〇五八二〇八〇九〇)

文化委員会。申し込み期間、六月二十日(水)～六月二十七日(水)当日消印有効。

申し込み方法、返信用封筒に住所、氏名を明記のうえ62円切手を貼り同封のこと。

※郵送受け付けは申し込み期間内の先着順でとし、一通につき2枚の入場整理券が発行される。問い合わせは岐阜青年会議所事務局(岐阜市神田町2、電話〇五八二〇八〇九〇)

翠謡会の伊勢神宮奉納行事

翠謡会(主宰・生駒里翠師)の研究生、および中日文化センター(名古屋)・岐阜・四日市の生駒講堂の受講生による伊勢神宮奉納記念の会は六月二十日、伊勢神宮内宮参集殿で六十人が参加、とくに「神歌」舞臺子「高砂」は片山慶次郎師のご参加を頂いてひきしめた舞臺となり、素謡、仕舞など二十数番を上演、伝統古典芸能の美学研修の成果を繰深める神宮の舞臺で発表、奉納した。翠謡会の伊勢神宮奉納は今回で四回目、ことしの演能は平成二年の新しい時代によさしい祝賀の演目をそろえ、客席にも参拝者が熱心に観賞する姿がめだつた。中日新聞本社後援。(写真①)

紅梅記

身辺雑事、能とテレビ、続鹿嶋清兵衛

六月に入る。梅雨も間近。五月下旬、庭の隅の大木・泰山木が花の香りを風に寄せ、部屋に流れ込む。晩春・初夏の感じを思わせる。夕方西寄りの空高く五日前後の月が美しい。おぼろ月のときもある。昔の頃の頃、それに続く初夏の夕刻の鏡湯(せんと)をよく思い出させる。実は先頃家内が市場でラムネを買ってくる。あの昔ながらの分厚い塩(びん)に栓のビー玉までついていた。子供のとき、いや戦前は下町のどの町内でも鏡湯があった。内湯があっても仲よし同士出かけた。社交場の一つである。昔酒を番台のおばさんからもらって頭をしぼる。ラムネとミカン水(すい)が冷やしてあった。入浴中ポンと音がする。湯上りのおじさんがうまさうにのどをうるおす。子供はミカン水の方。今のサッポロビールの小瓶をひと回り細くしたものである。二・三本さかきにして透

大阪城新能

八月二日(木)午後五時三十分 大阪城西の丸庭園

翁 能 楽 (観世流) 翁 観世 左近 三番 茂山千之丞 千歳 観世 清和 大鼓 山本 孝 小鼓 吉原 次郎 小鼓 大倉 源次郎 小鼓 清水 晴祐 後見 上野 朝義 大榎 文蔵 地謡 山本 章三 小林 喜三 寺沢 忠久 上田 貴弘 三番 三後見 丸石やすし 茂山 忠三郎 丸石やすし 狂 音 (大蔵流) 福の神 福の神 茂山千五郎 参詣人 善竹 孝夫 参詣人 茂山 正義 後見 善竹 忠重 地謡 松本 薫 丸山あさり 茂山千五郎

(す)かしてみる。おりの有無をみるのである。うまい。強い西日の当る明るい道を戻る。 話は飛ぶ。戦後の三十年前後のこと。京都金剛能楽堂へ出掛ける。能終って帰りは京都駅近く旅館の立ち並ぶ間の鏡湯で汗を流したものだ。まだ夏の日は高く、もうその時はミカン水やラムネでなく、冷たいビールをのどに流した。 この六月実によく振り室町を訪ねたいと思う。金剛能楽堂の卒都婆小町がある。私には殿氏初演の「卒都婆」から長い年月がたつ。暫く遠ざかる金剛流老女物で、後見、地謡も前回とはちがう新しい。充実の顔触れであろう。因みに殿氏初演は三十九年、同流豊嶋弥左衛門・今井幾三郎氏健在の時代。 七月は朝日狂言会。 五月の能は忠度・観世壽之をみる。結晶の固い美しさに所々やさしいカタチを入れた味なよさが印象深い。狂言久々の謀生種(ほうじょう)のたね、うそ・ほらのもとの。礼・友。退宿だと言われているが、なるほどその感じが強い。しかし二人はつくりず自然体で進め曲を出していた。 やるまい会はず。

火入れ

羽 天人 金剛 能 楽 (金剛流) 衣 漁夫 山本 清 大鼓 辻 芳 小鼓 久田 舜一 野口 浩和 盤 漁夫 塩田 重喜

船弁慶 能 楽 (観世流) 子方 源 義経 山中 雅志 前 梅若 六郎 後見 松野 恭三 廣田 泰能 湧水 健治 地謡 都丸 洋男 松野 道一 廣田 幸樹 塚本 嘉樹 今井 金剛 清隆 船宿の亭主 茂山忠三郎 義経の従者 福王 和幸 武蔵坊弁慶 福王 茂十郎 小鼓 荒木 照雄 大鼓 上田 悟 義経の従者 福王 和幸 大鼓 山本 哲也 太鼓 赤上 三郎 前 梅若 六郎 義経の従者 福王 和幸 大鼓 山本 哲也 太鼓 赤上 三郎 船宿の亭主 茂山忠三郎 義経の従者 福王 和幸 武蔵坊弁慶 福王 茂十郎 小鼓 荒木 照雄 大鼓 上田 悟 義経の従者 福王 和幸 大鼓 山本 哲也 太鼓 赤上 三郎

に佳、みどころあり、右近氏の出演久々。 五月のテレビ能。六月はない。四月末から五月初めにかけて五回あった。 三日は「翁」。観世左近・三番三茂山忠三郎・千歳観世清和の諸氏。これは大分市が市内の公園の内に能楽堂を建設、その披露能。「市や県建設は始めて」とアナ(NHK)は伝える。「翁」が始まると、「先祖の観阿弥が舞ってから観世家のお家業となる」、正先の一札には「辞儀をして開始を告げるなど語る(文責筆者)」。鏡板の松は向って左に鋭く曲り、深緑をたたえ雄々しいカタチを表現す。もちろん舞台床板のツヤが明るい。名古屋にも能楽堂建設の計画がある。これからの運営はそ彼の参考になるのではと考えながらみていた。心豊かにすがすがし。忠三郎氏の下さをあらためて見直す。翁面は宇佐八幡宮所蔵。ハヤシ方は九州勢か。 五日はこども(青少年)中心の芸能番組(芸能花舞台)に狂言口真似。英山千五郎氏三人孫(英・逸平・童司)。おもしろい。 翌六日狂言二番。墨塗・三宅右近(野村又三郎・野村耕介・アド)に、髭捲(山本東次郎ほか)。共に、髭捲(山本東次郎ほか)。共に、(野村又三)

三村恵子師範披露能

八月十九日(日)正午開演 熱田神宮能楽殿

高砂 生駒 里翠 屋島 瀬戸三津子 草子洗小町 箕浦 高子 征之段 近藤 幸江 地下僧 前野 郁子 鞍馬天狗 熊沢 惠美子 今沢 美和

杜

若 飯富 雅介 須部 敏一 福井 啓次郎 鬼頭 喜太郎 須部 希世 小川 幸親 小島 明二 後見 中川 雅章 地謡 高橋 幸親 祖父江 修一 武田 志房 須部 敏一 小島 明二

文

道明寺 梅田 邦久 山姥 小島 一英 地謡 小島 明二 清沢 邦一 千明 俊 山賊 井上 祐一 佐藤 友彦

葵

祖父江 修一 河村 総一郎 助川 寛夫 武田 志房 西村 敏也 柳原 昌司 藤田 六郎兵衛 空之折 御原 昌司 藤田 六郎兵衛

附祝言

小島 一英 地謡 松山 幸親 武田 宗和 高橋 清一 千明 俊 後見 武田 宗和 地謡 松山 幸親 千明 俊 久田 舜一 梅田 邦久 大野 弘之 松山 幸親 千明 俊 久田 舜一 梅田 邦久

入場券

全自由席三千円 主催 三村 恵子 後援 鳳鳴 電話(052)3521678 電話(052)3521678 電話(052)3521678



正しいメガネでしあわせを…… 日進堂 名古屋市西区那古野2-20-23(円頓寺本町) 451 TEL (571) 6181-3



株式会社 セントラルパーク 本社 名古屋市東区泉1丁目23-36(NBN泉ビル) PHONE 052-961-6111 F A X 052-953-2910

愛知県芸術文化選奨文化賞 福井啓次郎氏受賞祝賀 名古屋観光ホテルで盛会

幸清流小鼓方・福井啓次郎氏は今春三月、平成元年愛知県芸術文化選奨文化賞(個人)を受賞されたが、これを祝賀して幸友会・幸清流分福井良久、柳原富司、福井良治の各師が世話人となり、五月十九日午後六時半から名古屋観光ホテル「那古の間」で、能楽界はじめ二百人が参席して盛大に受賞記念祝賀宴が催された。



「写真」祝賀会と福井啓次郎氏夫妻

「今回の受賞は能という総合芸術のなかで、近年の能楽の隆昌、能楽界全体に与えられた賞であり、その代表として福井啓次郎氏が受賞されたといえる。シテ方、囃子方、狂言方の日頃のお力添えのおかげであり、幸友会中のお力のおかげである」とあいさつ。

能楽界を代表して、西村政也能楽協会名古屋支部長は「重鎮田嶋惣太郎先生のお手助けのリーダーとして指導養成の功は大い。何干番という演能をつとめられ、ニクネームは「若年寄」といわれたが、舞台は「大年寄」でがんばって頂きたい、とユニークな祝辞でなごやかな雰囲気をもたせ、海部俊樹総理大臣、西尾武喜名古屋市長ほかの祝電が披露された。

謝辞にかえて、小鼓・福井啓次郎師、笛・藤田六郎兵衛師により一調「管」(獅子)を披露、能楽協会・元名古屋支部長・井上松次郎氏の発声で乾杯、受賞を祝して歓談がつづき午後八時すぎ盛宴を終了した。

名古屋城夏まつり

名古屋城の天守閣を夜間に公開し、名古屋城ゆかりの多彩な行事を行い、市民に親しまれている「名古屋城夏まつり」はことし八月三日から十五日まで実施されるが、そのプレキャンペーンとして六月八日、名古屋栄のセントラルパーク広場で、能「羽衣」が上演され夏まつりを盛りあげた。

皇月の舞台から 「九皇会」と「第33回やるまい会」 竹尾邦太郎

「忠度」シテ喜之。八足引の山より掃る折毎に、と杖を二つ軽く突いてワキ正に出るところ、折毎を心象し、ワキ正で下居して木ノ葉を置き、杖を肩にもたせて合掌する姿にしんとした気分がある。その気分をワキ旅備(飲也)に乱されては問答、掛合も理屈っぽくなるというもの。愚かを二度も言い、一寸気色ばむかの喜之を、さらりと受ける飲也が、一首を復誦してみせる辺りから次第に打ち解けた雰囲気になってゆくところは上々。そして、お借に申はれ申さんと、と両肘張って居立った姿に喜之喜色を確と見せた。

後シテは、橋懸で扇カザシ、海上に浮かむ、と遠くではなくはいふん高く見たのは附に落ちなかつた。六弥太との対決は、跳び上って「どうと落ち」、右腕打ち落された後暫く動かなかつた。このら辺の具象的表現にめりはり利かせ、討死後、六弥太の忠度哀惜の気持ちにしみじみとしたものがあつた。近年九皇会は地頭を中堅に委ね若返りを図っているが、力をつけてきたのがうれしい。地(三郎・喜之・直也)囃子(希世・富司・繪一郎)後見(武計・喜正)(一時間25分)

「謀生種」いつも囃されていくシテ朝(友彦)が今日こそはとアド伯父(礼之助)を訪ねる意気込みが初々しい。しかし、三國一の名山を敢に刺さすまい、と富士山に紙袋を着せる話もあつたりはシテ方

中村和男氏

観世流・中村和男氏は四月三十日午前四時五十分拡張型心筋症のため逝去された。享年六十二歳。告別式は五月一日各務原市那加桜町二の一五の自宅の能舞台で執り行われた。喪主は長男喜史氏。故人は観世流師範として松和会主宰、淡交会(橋岡慈観師)の中核として活躍、那加の「能を愛する会」の催能などの企画遂行に努力された。謹んでご冥福をお祈りします。

「やるまい会」は第30回に続いて「親と子の観舞四番・パート2」と銘打ち、その成長を見せる。「二人大名」シテ良介・アド耕介、小アド通行人に万之丞を配して要とし、息の合った力一杯の舞台は清々しかった。さて、相手に太刀が渡ったことを悔んでも後の祭、不承不承に着衣を脱ぐ良介に、このハブニングもほんの座興とばかり相好を崩す耕介の、「はやう道らせられい」、の科白がいかにも驚愕なら、その仰合ぶりもものは、おきおき油断のない万之丞の太刀風は、大名の性根断ち切る鋭さだった。そしてシテ良介の、通行人に横たを言われても卑屈に見えないのは、剛直な資質の故だろう。蛇足ながら万之丞の肩衣は蜘蛛の巣文様。括り袴の地紋は綱目。機転で二人の大名から身ぐるみ柄取る暗示と見えて意味深長。(31分)

「神鳴」シテ則重君。赤頭に怪異な神鳴(武蔵?)の容貌程に怖くないのは、メルヘン的な曲柄もあるが、未だ芯が細いこともあろう。しかしそれが針療治の際の、役としてのシテの気弱さに目く重なり、アド則重が巧く支えて破綻なく微笑ましい小品に仕上げた。大蔵流山本家ゆかりの「則」の一字が重厚味を持つてくるのはこれから。大成を祈りたい。(17分)

「船渡舞」シテ舞・信行。士鳥帽子・紅白段髪目のかにも凛々しい若舞ぶり。ところで又三郎家の演出は、渡舟の呼掛けが横柄だとか、乗舟ぶりがどうだとかが無く、すんなり乗せる。小煩いことが無い分、舟中に精彩がある。(1時間11分・5月19日・九皇会)

「驚化」シテ太郎冠者・真喜。連歌の会の宗匠に主・千三郎の伯父を招くために上落するが、住居も頭も聞かずにとび出す近衛。呼ばわり歩くうち、田舎者と見送って顔面もなく伯父を騙つて乗り込むスッパ・千五郎。素性を知る主は内心うらたえながらももうまくもてなし、痛したいと焦る。ところが太郎冠者の愚直は恐いもの知らずの大胆不敵。無礼があつては、と虚影に怯えて言い付けた通りに事を運ばせようとする千三郎。言い付け通りをおひ返しに繰り返すあつからかんとした真喜。そして普段人に恐れられていた人間が、俄かに鼻面取って引き廻されたときの困惑と不安に茫然とする千五郎。三者の役に嵌った調和のとれた舞台だった。(34分・5月20日・やるまい会)

御料理 あつた 菜軒

本店 熱田区神戸町三四 電話(052)868618
本 熱田区神宮一丁目 電話(052)559849

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ!

舞姿の勉強と記念に是非どうぞ!

当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた専門技術により、きつとご満足いただける自信があります。

テレビ放送番組企画制作
テレビCM企画制作
録音ビデオ撮影

ビデオプロダクション 西川企画

名古屋営業所(〒451)名古屋市西区名駅2-20-3輪の内荘 小塚方 富(052)571-5816
(〒500)岐阜市北野町20-2 TEL (0582)63-9869

流元 剛行 金本 流宗

檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話(291)2488-9
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入 電話東京3-3552
電話(231)1990 電話京都1-113

割烹・小料理 城

●熱田神宮能楽殿喫茶部
●住吉小路(中区栄3-10)
電話241-0248

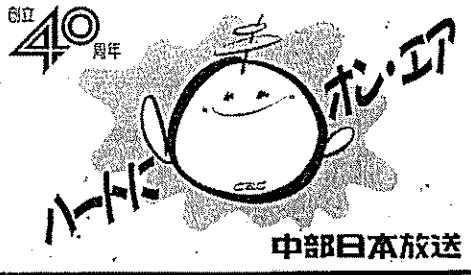
面打教室 於名古屋・栄朝日神社

毎週木曜日及び土曜日(それぞれ月4回)
(教室の見学・能面お求めになりたい方お気軽にお越し下さい)

日本能面巧芸会

会長 林 龍 雲

事務局 名古屋市中区錦1丁目3-31 丸満ビル3F 昇栄化学内 電話(052)211-4451



能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電 話 (731) 7 9 8 4
振替口座 名古屋 0-36393

購 読 料 1年1000円
郵送の場合 1年1500円
一 部 90円

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

〔7月〕	
29日(日)	名古屋官庁楽楽団宝生流大会(来場歓迎)
〔8月〕	
4日(土)	名古屋新能楽(有料)(番組③面) (熱田神宮神楽殿前)
5日(日)	青陽会定式能楽(有料)(番組③面)
18日(土)	野村四郎の会(有料)(番組③面)
19日(日)	三村恵子師範披露能楽(有料)(番組④面)
25日(土)	衣笠正宜後援会能楽(有料)
〔9月〕	
1日(土)	観世九皇会定例能楽(有料)
2日(日)	大名家古屋親世会定式能楽(有料)
9日(日)	大名家古屋親世会定式能楽(有料)
16日(日)	大名家古屋親世会定式能楽(有料)
23日(祝)	和泉文化センター発表会(来場歓迎)
24日(振休)	和泉文化センター発表会(来場歓迎)
29日(土)	中日文化センター発表会(来場歓迎)
30日(日)	名古屋金春会(有料)
〔10月〕	
6日(土)	久田親正会(来場歓迎)
7日(日)	久田親正会(来場歓迎)
10日(祝)	久田親正会(来場歓迎)
13日(土)	久田親正会(来場歓迎)
14日(日)	久田親正会(来場歓迎)

(演能変更の節はご了承下さい)

名古屋城の天守閣を夜間に公開するとともに、名古屋城ゆかりの多彩なイベントがくりひろげられる「名古屋城夏まつり」は、本年は、八月三日から十五日まで催され、能楽界も積極的な参加で、伝統の新能が催される。

毎年話題をよぶ能の上演は、八月三日の初日から十五日の最終日まで全期間にわたり、市民に能を楽しんでもらう機会として能公演の関心が高まっている。

主催は名古屋城夏まつり実行委員会、企画・能と狂言に親しむ会(梅田邦久師、藤田六郎兵衛師)協力・能楽協会名古屋支部。

名古屋城夏まつり

10日間連続能上演

能楽協会名古屋支部協力

名古屋新能

能3番、狂言1番上演

8月4日 熱田神宮で

「名古屋新能」はことし第二十五回をむかえ、きたる八月四日(土)熱田神宮神楽殿前・特設舞台で催される。午後五時三十分開演。

今回は、観世流能「小督」(シテ松山幸親)宝生流能「杜若」(シテ吉田俊彦)観世流能「一角仙人」(シテ梅田邦久)の能三番。

狂言「子盗人」(シテ佐藤友彦)ほか金剛流舞踊「龍田」(吉川周子)、金春、喜多、観世流舞踊が催される。

火入れ式は熱田神宮今井要徳宜が執り行い、西尾武喜名古屋市長のあいさつが予定されている。

主催能楽協会名古屋支部、後援名古屋市、熱田神宮。

入場料は前売二千円(当日券二千五百円) Ⅱ番組詳細③面掲載。

前売りは大人五百円(当日六百円)市内各ブレイガイド、チケットぴあで発売。

「名古屋城夏まつり」の開演期間は期間中、毎日午後四時三十分から九時半まで。演能は午後七時から午後九時まで。一般入場券で観能できる。

演能日程は次のとおり。

- 八月三日(金) 仕舞「雲林院」(高橋敏一) 能「三輪」(前野郁子)
- 八月四日(土) 名古屋学生能楽連盟、舞踊子「草子洗小町」(名古屋大学)金剛流「雲雀山」(福山女学院大学) 仕舞、連調など各大学参加
- 八月五日(日) 仕舞「玉璽」(加賀敏彦) 舞踊子「融」(梅田邦久) 能「狸々」(今沢美和)
- 八月六日(月) 仕舞「山姥」(祖父江修一) 能「半部」(清沢一政)
- 八月七日(火) 仕舞「花笠」(須部市) 能「巻絹」(シテ近藤幸江、ツレ今村嘉勇)
- 八月八日(水) 仕舞「笠ノ段」(今村嘉勇) 能「胡蝶」(松山幸親)
- 八月九日(木) 仕舞「屋島」(清沢一政) 能「杜若」(高橋敏一)
- 八月十日(金) 能「頼政」(久田徹二)
- 八月十一日(土) 衣笠正宜師・正風会、仕舞二十番、能「羽衣」(衣笠愛)
- 八月十二日(日) 舞踊子、仕舞、連吟(能・狂言に親しむ会主宰)
- 舞踊子「唐船」「花月」「融」舞返、連吟、仕舞。
- 八月十三日(月) 仕舞「通小町」(松山幸親) 能「莖上」(シテ祖父江修一、ツレ今沢美和)
- 八月十四日(火) 仕舞「鉄輪」(前野郁子) 能「羽衣」和合(加賀敏彦)
- 八月十五日(水) 仕舞「野宮」(近藤幸江) 能「菊慈童」(須部市)

井上嘉久	幽 謳 会 片山九郎右衛門	観 世 鏝 之 丞 観 世 榮 夫 観 世 暁 夫	社団法人 鉄 仙 会	昭 観 門 昭 会 観 世 元 昭	観 世 左 近 清 和 芳 宏 芳 伸	梅 若 研 能 会 橋 香 会 梅 若 万 三 郎	大 槻 清 韻 会 大 槻 秀 夫 大 槻 文 藏	大 阪 国 際 フ ェ ス テ イ バ ル 能 梅 若 盛 義	鳳 鳴 会 武 田 志 房	幽 花 会 片山慶次郎	名古屋淡交会 橋 岡 慈 観 瀬 戸 三 津 子	藤 井 久 徳 三 雄 完 楽 徳 久 治 人 三 雄	名 古 屋 観 世 九 皇 会 観 世 喜 之	名 古 屋 観 衛 会 山 本 勝 一 博 通	財 団 法 人 鎌 倉 能 舞 台 中 森 晶 三 中 森 貫 太	名古屋 観 生 会 野 村 四 郎 会 東京都杉並区永福四一三〇一〇 電話(〇三三)三二二五二九 名古屋古楽場 名古屋市中千種区日和町四ノ一〇 小嶋方 電話七五一八八〇番	竹 翠 会 若 松 宏 守 (〒662) 西宮市平松町四一九 電話(〇七九)三三〇六〇一
------	------------------	---------------------------------	------------	----------------------	------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	------------------------------------	------------------	----------------	--------------------------------	-----------------------------------	----------------------------	-------------------------------	---	---	--

〒603 京都市北区紫野下鳥田町六
〒540 大阪市中央区徳井町一丁目三十一番
電話(〇六)九四二二 四〇七〇番

五月雅日記

(108)

合歡木

えと文 二井栄逸

したたるような緑の中にほのぼのと合歡木(ねむい)が咲いている。ハイウエイの両側の森の中には今日もねむい花が夢のようににげぶっていた。

やはり、ねむい木は森の中に咲いているのが一番よい。淡い紅色の羽毛を立てたような繊細なこの花は、特に夕暮になると、一入美しさを増す。それは、完全に開花するの夕方であるからであらう。夜になると相対する小葉が合して閉じるのでねむい木とよばれるようになった。

万葉集の歌人達が詠みこんだ花のかずかず、中でもこのねむい花はおうぶりで美しい。

自然を愛し、また、生きる上に自然を取り入れた万葉人は、人生の移り変わりを、咲いては散り、枯れては芽ぶく鮮やかな花々の流転に投影していった。

万葉集には、約四千五百首の歌がおさめられているが、其の中の約三分の一、千五百首には植物がうたいこまれている。



これは、紀伊女(きのいらつめ)が作った歌である。万葉集に収められている歌を三つに分け、愛を伝える歌を贈答する相聞歌(そうもんか)、罪償の悲しみのときにうたう挽歌(ばんか)、これにふくまれないさまざまな歌を雑歌(ぞうか)としていふことは、この時代の愛と死が、いかに生きる人間にとって重要なことであつたかを物語っている。

紀伊女は、名門の貴婦人でも人妻であつた。彼女は前記の歌をねむい花に添えて、大伴家持に贈つたのである。

「昼は咲き 夜は恋ひ寝る」と艶めかしい誘いかけが始まり、そのねむい花をあなたと一緒にご覧なさいよ、と強い命令的な口調で結んでいる。

若い家持を「戯奴(わけ)」といやしめて呼び、自らを「君」といつて謙遜的な主従関係をにおわせる年上の熟女のからかいである。とにかく萬葉集の歌の作者は、東国から九州まで広がっていて、古代人全歌集と呼ぶにふさわしい。

七月になる。今年も半年過ぎた。夏の行事(暦)は多い。

八月は名古屋藩能(熱田神宮内)・東海各地でも盛ん。

六月十四日久々京都へ行く。四年振りか。六二年(昭和)秋の入院から新幹線に乗ることを止められていた。それが昨年末主治医のM博士のお許しが出て、京都までよく来た。それでも腰が重かつた。当日は金剛殿氏の卒都婆小町。待望の曲、しかも二十五年目と少々同曲。体調を検査することもあるが、それ以上に、この機会をはずすと、金剛殿氏は能を大事にする人、私にはもうみるときがないのではと思案し、家内と二人三脚で旅立つ。昨夜来の強雨があがり、新幹線も遅れることとなり、まず天佐をうけた。居ること二時間余り。第二の六角堂にも廻ることなく、伊吹の山も見えない痛路を走る。京都M氏と清田弘氏(在小田原、能楽研究家)と正面で同席する。堂内すべてがなつかしい。

一言で言えば、巖氏は上品かつ彫りの深い「卒都婆」を舞う。

紅梅記

京都行、三番 叟・重衡、本のこと

大規模な内容である。能の作者も演出の中に萬葉の花を絶妙にアレンジすることを忘れなかつた。それは見えがくれする花のうつろいが、幻想の世界を夜霧のようにただようからである。

幽玄、おもしろし、各段の感動を重ねて最後に至る。切り味によし。

「黄金の膚云々」で正先からシテ常座左に行く動き(後姿)。風情まことに上々。ここは難しい。それから、葛桶から物着まで二度杖をつく気合い、物着あとと左袖を被いて舞台を歩む姿の言いようのないうまい。わが能の師はまことに健在であつた。

二十八年初回の有益な感想(金剛・第六三号)を寄せられた数人の方々のうち、北岸佑吉氏(朝日、大阪、能楽評論家)は故人、沼津雨氏(大阪、能評家)にはこの数年お目にかかれない。

同日東京では親世流の家三代の追善能が催され、当主親之丞氏が焼捨を舞つた由。

二十四日「いりなか」中、Vスクエア」の能舞台披露に招かる。証言方今枝良治氏経営の由。四階に能舞台備当。鏡板の松は堀江勲之助氏担当。那古野神社の古松をもとに、若宮社の昨秋制作の松に次ぐ第二作。兄弟または孫の松と言えよう。若宮さんより心持細身にみえ、左右に豊か。鋭いとは前作同様。四階の高いところによさわしい。暮の三色(赤が中央)。楽屋に狸々の軸がかかる。三番叟・井上松次郎が始まる。面箱井上祐一。次は福の神・今枝親子(良治・御雄・御雄)。蝸牛(祐一・松・明浩)で結ぶ。にぎやか。祐一山伏佳。楽師の響き。床板の音やわらかである。多目的。

能楽協会大阪支部特別公演

大阪府舞台芸術振興事業の一環として、能楽協会大阪支部特別公演が七月十五日、大槻能楽堂で開催。

宝生流能「卒都婆小町」(辰巳孝) 親世流能「紅梅狩」(大槻文蔵) 狂言「空腕」(善竹孝夫) 舞臺子「難波」(塩谷武治) を上演。

成寺Vひと節を放送(ANHKV)は久々来名、能(シテ)も初めてと思う。力足あるシテが一杯舞う。三役も充実。そして終始耳目を引きつけるのに、胸打つこと小さく、新しい修飾物と言えぬのに、気が重い。不思議だ。アイの語り短かくし、飛ぶ火(飛火野)を劇愛してはとも思ふ。前半はよし。見よう間、文学的な作品と言えよう。

なお、後シテ最後のところで扇を捨て(地謡前)大刀だけになる。これはその後謡に即して大刀を捨てもつかくをするので、落したのではなかつた。そして大刀をさげて退場する。珍し。

前後したが、冒頭に松岡心平氏(東大助教授)の短かい解説があつた。重衡・朝長二人(シテ)の比較もされる。

因みに同曲を取り上げる古今謡曲解題(丸岡桂)、謡曲三百五十番集・番外篇(日本名著全集)のことは省く。次回を期待する。

暑中御伺

本。「点を線にしたい」上田照也の歳月」。私家本。同氏(親、神戸、故人)の遺著を奥様の英子さまから贈らる。大型版の大書。能楽の友六月号(第二頁)にくわしく紹介さる。

重い表紙を開くと、翁を始め数多い能の名前が書かれている。友人有志が照也氏と結びつけての曲名の由奥様より入つてに承る(京都M氏、久田徹二氏を通し。後者は父秀雄氏と二代上田門、秀雄氏は神戸で卒都婆小町を抜く)。そして無涯無際/遊心大空の二行八字を目に。次に演能写真と温顔一葉。それから親世左近氏が追悼の序で語る。「照也氏が晩年抱いた大理想、宮城に能舞台立立の念願を、今年の大嘗祭に実現したいと我々が努力云々」(文賢筆)と。大望を持っておられたのだ。末尾に奥様が心こもる一文「近くて遠いあなたへ」を寄せらる。ゆかし。

神戸(関西)能楽界の貴重な資料(照也氏昭五九没。晩年の名古屋盛久は佳演)。

訂正。六月号、茂山千五郎氏、茂君が英山、英になつていました。お詫びして訂正します。(野村広二)

前日重衡をみる。名古屋能楽鑑賞会の第一回公演。満席。初演が復曲であるのはなぜか。二・三考えてみたが、結論は出ない。み終つて一時間四五分前後か。いつもみている修飾能にくらべて少し長い。それに小さな山が続き、いくが、大きな山がないよう。やわらかい。シテ(浅見真洲。同氏は以前ピアノと謡による道

春鶯会 梅若善高 豊中市新千里南町三丁目18番12 電話(06)831-1785 東京都足立区綾瀬一丁目15番13 電話(03)604-1740	山本真賀 山本章弘 豊中市本町六丁目10番16	邦謡会 梅田邦久 須部一政 清沢美和 今沢美和 本田美和	壺泉会 泉嘉夫 名古屋昭和区山里町一〇三 電話(052)831-1185 西宮市甲陽園目神山町三三二五 電話(079)849-2458	初陽会 武田宗和 精古場 名古屋千種区今池四丁目15番3 電話(052)733-3736	武田詠楽会 武田欣司 武田邦弘	松音会 泉泰孝 泉雅一郎 東京都杉並区宮前四丁目19番14 電話(03)333-8280	名古屋橋岡会 名古屋昭和区九段町五ノ三五 山田紀子方 誠交会 興善助 東京都世田谷区三軒茶屋二丁目10番13 電話(03)422-2637	下田雄三 豊中市曾根東町四丁目11番12 雄詠会中部地区連合会 名古屋和石会 一宮竹石会 岐原花会 下呂雄会 萩原雄会 高山雄会 倭文之屋社中	大垣浦声会 精古場 大垣市竹島町善念寺 住所 京都市左京区下鴨芝本町五八 浦田保利	名古屋修諷会 梅若修一	上田観正会能楽堂 社団法人観正会 上田観正会 上田貴弘 上田拓司 神戸市長田区大塚町三丁目一ノ一四 電話(078)691-1549
---	-------------------------------	---	--	---	-----------------------	--	--	--	--	----------------	---

第25回 名古屋新能

八月四日(土)午後五時半開演
(雨天順延)
熱田神宮神楽殿前・特設舞台

金春流仕舞 氷 室 加藤 正嗣 地謡 金春 雅弘
喜多流仕舞 井 筒 長田 誠 地謡 長田 誠
観世流仕舞 野 守 久田 徹二 地謡 加賀 敏彦
金剛流舞 龍 田 吉川 周子 鬼頭 英二 鬼頭 好信
観世流 半能 トモ 瀬戸三津子 後藤 孝一 藤田 六郎兵衛
ツレ 前野 郁子 松田 高義 今村 喜勇 加賀 敏彦
シテ 松山 幸親 後藤 孝一 藤田 六郎兵衛

火入式 熱田神宮神楽 今井 要
御挨拶 名古屋市長 西尾 武喜

杜 若 高安 勝久 吉田 定男 助川 龍夫
後見 戸田 博和 地謡 福井 良治 鹿取 希世
玉井 博和 地謡 佐藤 耕三 衣笠 正孝
竹腰 勝一 地謡 内藤 嘉孝

和泉流 狂言 子 盗人 佐藤 友彦 大野 弘之 後見 井上 祐一

観世流 能 一角仙人 飯富 雅介 河村 真之介 池田 茂
子方 河村 和貴 杉江 元 福井 啓次郎 藤田 六郎兵衛
ツレ 近藤 幸江 後見 河村 和重 今沢 美和 地謡 本田 幸親 加藤 保彦
シテ 梅田 邦久 高木 美智子 須部 一政 高橋 昭一

附祝言 (終了 八時五十分頃)
主催 能楽協会名古屋支部
後援 名古屋市・熱田神宮

当日券 二千五百円(前券券 二千円)
入場券は市内各プレイガイド、能楽殿、出演者宅
※火入式終了後、降雨の場合は以後演能を打ち切らせて頂きます。
※雨天その他で順延又は中止のお問合わせは
熱田神宮能楽殿(〇五二一六八二一七五)

青陽会定式能(第334回)

八月五日(日)午前十時半始
熱田神宮 能楽殿

能 養 老 杉江 元 柳原 富司忠 鬼頭 好信
加賀 敏彦 飯富 雅介 井上 祐一 竹市 好信

能 玉 鬘 飯富 雅介 河村 真之介 大野 誠
清沢 一政 後藤 孝一 井上 祐一

能 船 井 慶 高安 勝久 吉田 定男 助川 龍夫
中川 雅章 福井 啓次郎 藤田 六郎兵衛

附祝言 井上礼之助

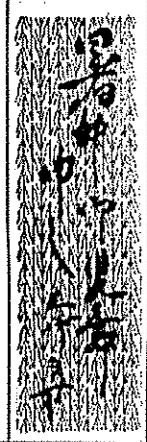
〔有料〕当日券 三千円 主催 青陽会
第七回野村四郎名古屋公演
能「半部」立花供養を観る会
八月十八日(土)午後二時始
熱田神宮 能楽殿

舞臺子 清 野村 四郎 福井 啓次郎 藤田 六郎兵衛
聲之形 山本 章弘 藤田 六郎兵衛
仕舞 道明寺 藤井 徳三 藤田 六郎兵衛
笠之段 武田 邦弘 藤田 六郎兵衛
口キリ 山中 義滋 上野 朝雄
姥キリ 久田 徹二 上野 朝雄
野村 四郎 野村 信行 藤田 六郎兵衛

狂言 蚊 相撲 野村 三郎 藤田 六郎兵衛
立花供養 野村 三郎 藤田 六郎兵衛

能 半 藤田 六郎兵衛
後見 山中 義滋 久田 徹二 上野 朝雄
鶴沢 孤雄 上田 邦弘 藤田 六郎兵衛
山本 章弘 藤田 六郎兵衛

主催 中日新聞放送社
A席(正面指定席)七千円 B席(一階自由席)五千円
C席(二階自由席)四千円
入場券取扱所 松坂屋、三越、丸栄、名鉄、中日ビル
CBC各プレイガイド
中部日本放送文化事業部(電話〇五二二四一八二二)



廣田 幸稔	廣田 隆一	廣田 後援会	金 剛 永 謹	金 剛 巖	倉 本 雅	佐野 由 於	内 藤 泰 二	鍵 雲 会	名 古 屋 異 会	辰 巳 孝	宝 生 英 照	宝 生 英 雄
-------	-------	--------	---------	-------	-------	--------	---------	-------	-----------	-------	---------	---------

豊嶋能の会 豊嶋 三 千 春	菊 扇 会 後 援 会 廣 田 泰 三	金 春 信 高 金 春 安 明	春 敲 会 金 春 晃 実 金 春 穂 高 廣 瀬 瑞 弘	本 田 光 洋 東京中野区上高田二ノ二五ノ二 電話〇三(三八六)二六四一番	社団法人能楽協会理事長 喜多流十六世宗家 喜多 六 平 太	大阪喜多会 和 調 会 和 島 富 太 郎
-------------------	---------------------------	--------------------	--	---	-------------------------------------	-----------------------------

二 井 栄 逸 松坂市殿町1412の3 電話(〇五九八)三三〇二二六	高 安 会 西 村 欽 也 高 安 勝 久 飯 富 雅 介 杉 江 元	福 王 茂 十 郎 西宮市名次町六番十二号 電話(〇七九八)〇七二二	京 都 ・ 高 安 流 岡 次 郎 右 衛 門 向日市上植野町地田一ノ五四 電話(〇五)九三四一四〇六	豊 嶋 十 郎 〒111 松戸市下矢切五五―五 電話(〇四七三)〇一九八二	森 好 会 森 茂 好 森 常 好	森 田 光 春 京都市東山区八坂上町三七六
--	---	--	--	---	-------------------------	--------------------------

三村恵子師範披露能

八月十九日(日) 正午開演

能高 砂 熱田神宮能楽殿
草子洗小町 生駒里翠
舞之段 近藤幸江
杖下僧 前野郁子
鞍馬天狗 旗沢恵美子
三村 恵子 今沢 美和

能杜 若 飯富 雅介 福井啓次郎 鬼頭喜太郎
道明寺 梅田 邦久
山花 篋 小島 一英
山姥 中川 雅章

狂言 文 山賊 井上祐一 佐藤 友彦
仕舞 弱法師 武田 宗和

能葵 上 西村 敏也 河村総一郎 助川 龍夫
梓之出 空之折 柳原富司忠 藤田六郎兵衛

附祝言 大野 弘之
(終了予定 三時四十分)

主催 三村 恵子
(入場券) 全自由席 三千元
後援 鳳鳴会

四日市新能

8月1日(水)
主催 四日市文化振興財団、
四日市新能実行委員会、協力
・能と狂言に親しむ会四日市
研究会、
会場・鶴の森公園、開演午
後六時半。

舞囃子「天鼓」(片山清司)
狂言「佐渡狐」(野村邦久)
能「表上」(梅田邦久)
入場料三千六〇円、四日市
文化振興財団電話〇五九三
五四一四五〇一番。

鈴鹿新能

8月24日(金)
主催 鈴鹿市(鈴鹿市民会館
電話〇五九三二八二一〇六五四)
鈴鹿市教委、協力鈴鹿新能実
行委員会、神戸城跡特設
会場、六時半開始。

狂言「八鶴」(衣笠正直)
能「羽衣和合之舞」(観世清和)
狂言「梅柳」(茂山千之丞)
能「小鍛冶」(宝生英照)
前売券三千四百日三十五百円

平成2年7月・8月放送予定

Table with columns for month, date, program name, and time. Includes NHK-FM programs like 'NHK-FM 聴く楽楽賞' and 'NHK-FM 聴く楽楽賞'.

「観世会」「宝生会」「名古屋」 能楽鑑賞会

竹尾 邦太郎

「芦刈」シテ志房。笠ノ
段の手堅き、は遊狂の気分よ
りは簡い手立てとしての生
真面目な余興の印象を受ける。
そして別離の妻(祖父江修一)
との偶然の邂逅。視線が合っ
て簡い物の声をハッと取り落
すと、客落を恥じて無言のま
まする幕際を退く。その
動揺を隠しかねる風情が素直
なら、一方、ひっそりとシオ
ル妻の胸裡の憤まじさも好ま
しい。

物者は粗衣を暗着に替える
こと。男舞は暗れやかな中に
いくばくの面映ゆきも残しな
がら、両袖返し膝行すると見
せてさっと立つところなど、
気持よく流れるようだった。
ワキは雅之助。(1時間22分)
「入間川」シテ札之助の、
大雑把さうに見えるが打算
も働かぬ大が、入間の某(な
にがし)のプライドを持つア
ド弘之と皆くからむ。「深い」
が浅い。「浅い」は、深い」の
入間川(いるまよう)の逆言
葉を興がるうち、身ぐるみ刺
がされてゆく大名が、焦り出
して真剣になるところ、言葉
の持つ力を振り所に生き生き
とした応酬は見応え聞き応え
があった。(28分)

「海士」シテ喜之。襟白
浅黄、着付は撫子文様の白薄
風段摺袴・紺地袴・浅黄水
衣に飛び入る型はスミで軽々
と高く跳び、宝珠を取り返し
て逃れるところは、予めの手
順通りの様子が、地(重淵・
邦久ら)と相俟って、きびき
びとした挙指に巧く表現され
た。クドキの哀調は文字通り
少々クドイか……。後シテは
鮮活・紫大口・赤地唐草文様
舞衣。正中で地との掛合に経
を跳びと巻戻し、ゆっくりと
子方(河村和晃)に進んで
手渡すと、子方はシテを仰ぎ
見、シテもしみじみと見返す。
更に常座に戻って見つめる

めたい空の寂しきがある。後
シテは天冠を著け、紫大口・
紫長袴・梅花に戯れる中ノ舞
の、小廻りするときの嬉々と
した様子は、舞上げて、へ返
す返すも面白や、を納得させ
る。昂ぶる気持を抑えかねる
ような散ノ舞、キリでするす
ると梅花に寄る愛着の切なさ
も深かった。ワキ雅介。(1
時間22分)
「海人・懐中ノ舞」シテ
孝。襟浅黄・白摺袴・茶地袴
箱・浅黄水衣・面深井。肩上
げした水衣姿がいやに怒り肩
(法被姿のように)に思える
一方で、再量をセーブしてい
るような沈んだ趣の謡とがア
ンバランスな印象を受けた。
玉ノ段は床几に掛けず舞で舞
った。クドキは、抑揚の少な
い低音で綿々と訴えるので、
耳そば立てさせる一種の迫力
がある。中入は小書付のため
へ甲らへや、で扇を落した。
送り笛(六郎兵衛)で幕入後、
ワキ(勝久)が立ち、シテの
落した扇を拾って懐中すると
アイ座に赴き、アイ(弘之)
との問答からアイの居語。更
に問答と続き、終るとワキは
「御手紙にあらうするにて候」
と、懐中した扇を子方に渡し
た。子方は読み終るとその
扇をポトリと右脇に捨て、地
謡の一人がそれを回収する。
ワキが、この一連の扇の移動の仕
方が型とは言えどうにも粗
く、常の型の方がずっと良い
ように思えた。

後シテは赤地摺袴・紫大口
・紫舞衣に面は泥顔。早舞の
目まぐるしさは急回転の小廻
りに躍如だが、少々張り切り
すぎ。急調になったトメにシ
テは子方に寄り、懐中の経巻
を手渡して舞上げた。仕舞を
る舞台だが、子方の不行儀
は何としても残念だった。(1
時間27分・6月17日・宝生会)
名古屋能楽鑑賞会オーブニ
ング特別公演は、「橋の会」
によつて一九八三年師走、五
百五十年ぶりに復曲、宝生能
楽堂で上演された「重衛」。

その話題性と関係者の熱意に
より、見所は満席の盛況。
シテ浅見真洲、以外三役は
初演時と異なる。先ず、諸国
一見の僧(ワキ謙吉)が南都
の寺を望見する奈良坂にか
かる。と、由ありげな老人(シ
テ真洲)が現れて仏御堂の
一々を教える。ワキは着流、
シテは笑尉・襟浅黄・小格子
(暗青色)・黒水衣で暗い。
初回、へこれぞと思ひ、とワ
キ正向き、へ入相も羨しや、
と鐘に耳をそばだてるか、微
かに面使いすると、へげにや、
と直シ、気分を変えて、へ春
に帰ると、小廻りで常座に帰
ると、へ八重桜木は面白や、
と進み、返しにたたらと退
る。ここは回向を頼むきつか
けを頼むところ、真洲気合完
分。更にへ衰ふこと目のあた
り、と下居することで視覚に
訴え、哀れなる跡を遠く見て
シオルところ、送り笛(陸之
中)の中入も深刻味強く重苦し
い。それに影響されてか、偶
々夜接見物に出掛ける所の者
(アイ英丘・肩衣狂言持出立)
の名置り以下も重々しい。
後シテは単法被・大口に非
ず単狩衣をエモンに着け(右
肩脱ぎ)浅黄指貫の異装。成
程、重衛は本三位中将の由だ
が修羅物にはどうだろう。面
は今若(十六か?)。この姿
で南都焼打の業火に責め苛ま
れる姿を見せるのであるから
凄絶さに哀れ味もあろうとい
うもの。カケリの終りに小廻
りして一ノ松へ抜けるのは火
から遠退く様子である。キリ
前に、地(順之・信之)と
の掛合から、へすは一刀の剣
の光、とやとと太刀を抜く。
キリは太刀を拵けて数拍子踏
み、スミへ行きさま袖巻き上
げると常座に戻り、袖を返シ
拍子二つ踏んで常の様にトメ
た。南都の名刺を焼打ちする
という業が、重くのしかかる
テーマは遂にシテ重衛の魂を
救済することなく陰鬱。真洲
は粘着力ある演技で応えたが
気分は四番目の執心物に似た。
(1時間37分・6月23日)

宝生欣閑
〒116 東京都練馬区小竹町一五〇一五
電話 〇三(九九七二)七二三〇
〇三(九五五五)四七九五

谷田宗二郎
〒603 京都市北区衣笠街道町31-7
電話 〇六(四三三三)八六三

龍吟会
藤田六郎兵衛
名古屋市中区下二丁目一〇番九号
電話 〇五二(五七一)五七六三

幸圓次郎
〒165 東京都中野区丸山二二二四
都警丸山アパート一三二〇
電話 〇三三七(五七)五六七二番

幸義太郎
野中正和
〒174 東京都板橋区宮本町五七-1
電話 〇五五(八)八四二七番

大倉正之助
大倉源次郎
〒111 東京都新宿区
下落合二一四・一五〇C
江坂町五一・一七二

亀井俊一
保忠雄
美雄

飯島佐之六
〒920 金沢市香林坊2-18-17

前川光隆
前川光長
京都市右京区御室芝橋町一〇の六
名古屋古場 名古屋市中区東二丁目13-3
ツインクルガーデン01前野舞台
電話九三二一八八〇六番

大蔵狂言会
大蔵彌右衛門
大蔵吉次郎
大蔵彌太郎
大蔵吉次郎
〒215 川崎市麻生区岡上四三八-1
電話 〇四四(九八七)一一八七番

名古屋和泉会
大垣狂言の会
和泉元秀
〒606 京都市左京区北白川大町47-1
電話 〇七五(七〇一)二〇一一番

名古屋和泉会
狂言共同社
〒460 名古屋市中区正木三丁目16-25
電話 〇三三(一一)七五五三番

狂言やるまい会
野村又三郎
(お断り) 暑中告の掲載は紙面の都合に
て勝手ながら七月号、八月号に分けて掲載
させて頂きました。願不問と併せ何卒ご理
解賜りますようお願い申し上げます。

謡曲本専門店
創業75年
株式 東文堂書店
会社

名古屋市中区栄三丁目28番16号 (〒460)
(松坂屋南一丁) 電話 (052) 241-1059番

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7 9 8 4

振替口座 名古屋 0-36393

購読料 1年 1000円

郵送の場合 1年 1500円

一 部 90円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

- 〔8月〕
25日(土) 衣斐正宜後援会能 (有料) (番組④面)
- 〔9月〕
1日(土) 親世九皇会定例能 (有料) (番組④面)
2日(日) 大古屋親世会定式能 (有料) (番組④面)
9日(日) 名古屋親世会定式能 (有料) (番組④面)
16日(日) 名古屋宝生会定式能 (有料) (番組④面)
23日(祝) 和泉親世会 (来場歓迎)
24日(振休) 和泉親世会 (来場歓迎)
29日(土) 中日文化センター発表会 (来場歓迎)
30日(日) 名古屋金春会 (有料) (番組④面)
- 〔10月〕
6日(土) 久田親正会 (来場歓迎)
7日(日) 名古屋親正会 (来場歓迎)
10日(祝) 和泉親正会 (来場歓迎)
13日(土) 武田親正会 (来場歓迎)
14日(日) 武田親正会 (来場歓迎)
20日(土) 和泉親正会 (来場歓迎)
21日(日) 和泉親正会 (来場歓迎)
27日(土) 和泉親正会 (来場歓迎)
28日(日) 和泉親正会 (来場歓迎)
31日(水) 名古屋能楽鑑賞会 (有料)
- 〔11月〕
3日(祝) 幸友会・福井啓次郎選席祝賀能 (有料)
4日(日) 能楽親しむ会 (来場歓迎)
7日(水) 能楽と狂言親しむ会 (有料)
11日(日) 能楽親しむ会 (来場歓迎)
15日(木) 能楽親しむ会 (来場歓迎)
17日(土) 能楽親しむ会 (来場歓迎)
18日(日) 能楽親しむ会 (来場歓迎)
23日(祝) 能楽親しむ会 (来場歓迎)
24日(土) 能楽親しむ会 (来場歓迎)
25日(日) 能楽親しむ会 (来場歓迎)
- (演能変更の節はご了解下さい)



第25回名古屋新能

「子盗人」能 「一角仙人」

名古屋城能楽堂の建設促進をめぐり、名古屋能楽愛好家の連合組織を結成して運動を推進するため、八月十二日、熱田神宮能楽殿に各社中の代表者約三十五人が集まり、各流各会を結んだ愛好者により「お城に能楽堂を作ろう会」(仮称)の準備会が発足した。

名古屋市では、市制百年記念事業として昨年は世界デザイン博覧会

西尾武喜名古屋市長は、今年はじめ記者会見で、名城二の丸御殿の能楽堂復元構想を語り、平成二年度の名古屋予算に名古屋城能楽堂の建設がクロージングアップされている。

こうした意味からも「お城に能楽堂を作ろう会」(仮称)の準備会の発足は名古屋城能楽堂建設の促進にさらに大きな市民団体の輪になることが期待されている。

名古屋城能楽堂の建設 愛好者の連絡組織結成 輪ひろげる建設促進の機運

暑中御伺い申し上げます
熱田神宮能楽殿運営委員会
委員長 熱田神宮権司 山本文彦
委員一同

第31回 大衆能

9月2日 熱田能楽殿

宝生流能「羽衣」(シテ河田和) 親世流能「善界」(シテ加賀敏彦) の四番、狂言「薩摩守」(シテ野村又三郎)「お冷し」(シテ佐藤友彦)二番ほか金巻、金剛、観世流の仕舞三番。

名古屋新狂言
徳川園公園特設舞台
徳川美術館五十五周年記念として和泉流宗家による「名古屋新狂言」が八月十八、十九日、徳川園公園特設舞台上で上演。主催、和泉宗家・和泉宗家後援会。

第一日「狂言」末広がり(和泉元弥)「附子」(和泉淳子、三宅藤九郎)「火入之式、素囃子、神舞、狂言」(和泉元弥、三宅藤九郎)「狐塚」(和泉元弥、三宅藤九郎)「火入之式、素囃子、早舞、狂言」(和泉元弥、和泉淳子)

暑中御伺		名古屋観世会		芳韻会 稻生 芳雄 半田市船入町三十一 電話〇五六九〇八一五	
大阪能楽会館 大 西 智 久		謡曲教室		猶惠会 熊沢 惠美子 名古屋市名東区平和ヶ丘3-76 日車マンション四〇四	
毎日文化センター 風韻会		殿島修二		賀水会 加賀敏彦 〒463 名古屋市守山区森孝二丁目七〇九 電話(台番)七七二八八九四番	
久田親正会 久田 徹二		松月会 松月 前野 郁子		幸福会 近藤 幸江 岡崎市鴨田本町十一番地ノ三 電話(〇五六四)〇二五二九	
大倉流小鼓 松月会 久田 舜一郎		松取会 松山 幸親		観修会 祖父江 修一 多治見市日ノ出町2丁目 電話(〇五七二)〇三六五六	
馬場 信至		玉木 孝男		中日文化センター 謡曲・仕舞教室 (名古屋栄) 岐阜・四日市 翠生謡会 翠 里 翠 名古屋市名東区社ガ丘3ノ1503 電話(〇五二二)七〇三二一七番	
室月会 中川 雅章		長浜市地福寺町八ノ二九 電話(台番)〇六三〇番		清風会 今村 嘉勇 岩倉市東新町下境52-101 電話(台番)〇七二三八	
洗心会 奥村 富久子		三村 恵子		正風会 衣斐正宜 〒466 名古屋市昭和区御器所3-23-19 御器所パークマンション802号 電話(〇五二)八八二一五六〇番	
水雲会 水藤 元三		緑名会 田中 武		衣斐正宜後援会 〒460 名古屋市中村区名取三二六二六 電話(〇五二)五八六一二二〇番	
重陽会 菊池 重郷		〒488 尾張旭市城山町三ツ池六一九八 電話(〇五六)一五〇三三〇四番		〒460 名古屋市大山区相生五九一六 電話(〇五六)八〇四一〇番	

五月雅日記

(109)

五月間に咲く花々

えと文 二井栄逸

梅雨があけると、毎日うだるような暑さの連続である。六月から梅雨明けの七月にかけては意外に花の多いことを改めて知った。

夏椿、くちなし、あじさい、花橘、金糸梅、虎の尾、米次柳、九蓋草、半夏生等、どれも可憐な妖精達なのである。

香りの高い花は、花たちばな、くちなし等で、色の美しいのは九蓋草。花たちはなはミカン科の植物であるが、実より花が愛され、万葉の昔から歌に詠まれてきた。

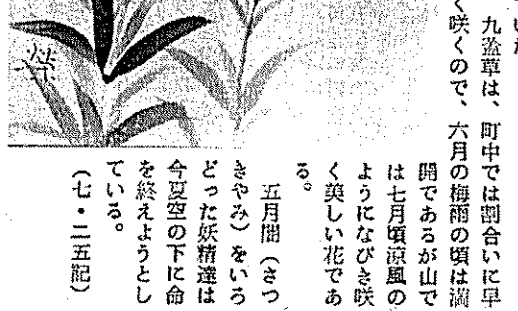
一日傾経て、待つ日は聞かずほととぎす 切求めて尋ねくる

花橘や召さるる 花橘やめさるる
——と、中将姫を守りつつ初なつ
の山野から里に出て、花を売る中
年の女性をえがいた雲雀山は、一
種遊蕩の風格をたよわせてすが
すがしい。

中将姫は、雲雀山では千方とし
て登場し、又、当麻(たえま)で
は中将姫の霊として登場する。

当麻の前シテは老女物に準ずべ
き位をもつが、それは単に老女と
いうばかりでなく、如来の化身と
みるべき老尼であるから、一種超
人間的な気品と威厳を見せなけれ
ばならない。

静寂のうちにも荘厳さがあり、



五月間(さつきやみ)をい
う妖艶な花は
今夏空の下に命
を結ぶように
咲く(七・二五記)

何ともたえようのない品格のある美しさがただよっている。

入梅の頃に咲くことから、夏椿のことを露椿ともいう。五月雨は静かに降る雨であるけれど、時には風をまじえてとどろく降ることもある。お稽古場に借りている寺院の庭に夏椿が大きく茂っている。昼なお暗い五月雨の中に、その日は雨が強く、苔面に夏椿が四五輪散っているのを見たことがある。

その時の稽古の曲目が当麻であったので中将姫を思い出したのである。中入前の、花降り異香薫じ満ちて、と、静かにシツクリと静まってゆくところが好きで、何度もお稽古をつけて上げたことを覚えていた。

それから、築山のすそに九蓋草が紫色の美しい穂状の花を咲かせていた。

九蓋草は、町中では割合いに早く咲くので、六月の梅雨の頃は満開であるが山では七月頃涼風のよくなびき咲く美しい花である。

紅梅記

身辺雑事、「芸術」における東洋と西洋、「花子」

八月はお盆。月おくれ盆である。迎え火と送り火をたく気持はゆかしい。西洋(キリスト教・カトリック)にもお盆はある。月こそちがえ、十一月一日諸聖徒日。翌二日が諸聖日、これがお盆に当る。教会は「死者へのミサ」を捧げる。「死者」には「ゲロリア」が唱えられない。

暑い日の早朝、主治医のM博士が、小さい頃から御坊へはVさまと呼びなれた、東別院にて講演をされた。八月二日。題目は「まいたいたいた命」。前記のこのことを伺ったとき、近年三度目の大病から生き返りのあとの、あの深く広い心境を伝えたいと語られた。よみがえりに等しいその後の澄んだ心の日々。これを老人のことに結び付けて。そしてかつて読んだものが今繰り返すと実によ

く理解できる。私にたずねられ、「私もそうです。能・狂言でもその対話・求道の精神Vにも書かれています」と、これは「九十にして感う」の晩年の書の一編。平岩外四八がいしV氏(当時東電会長、旧制八高出身。M博士もおなじ)との対話で同氏問いに応える先生の答えである。M博士はあらためて安心を得られた。これが当日講演後半の骨子にされる。私は念のため、谷川先生が高名な文化人の亡息をしのぶ早朝茶会に招かれ、蓮の葉に盛る一飯を食するゆかし話や戯言の話を申し上げた。正信偈のあの講演は、果せるかな、盛会、大成功であった。

因みに谷川先生は昨年九月に逝去。もうかれこれ一年になる。なぐなぐからこれ一年になる。なぐなぐな東洋と西洋(岩波)は先生の芸術思想の約かつかつ真髓が集められていて、息・谷川俊太郎氏のあながきもよい。

さて八月十五日は終戦記念日。四五年前、同十八日には熊本在の爆撃隊から家に戻る。勤務先のNHK名古屋へ帰郷のあいさつにて

七月八日朝日狂言会。名古屋勢の文相撰(すもも)。松・礼・祐佳。軽味得がたし。一ノ松の新参者(礼)の立ち姿よし。次は京都の千鳥(千之丞・忠三郎)大團おもしろし。巧者が陥る小手先のうまさば毛頭なく、狂言芸の秀逸さをみせる。収獲。大きな話題は花子。佐藤友彦。妻・井上祐一、太郎冠者。大野弘之。平成元年五月の井上祐一披露についておなじ三人の顔触れ。二年に二度も同じ舞台が勤まるのは果報というもので、シテの友彦氏は夫と妻の心境がよくつかめたであろう。昨年の

シテの祐一氏も、そして花子の重さを噛みしめたであろう。稽古にちかひ演じ方が今度の友彦。五分咲きの梅のよき。七分咲き。満開に足らぬと言うのではない。これで十分。固いよさが友彦の持味。三君の前途を祝したい。

ほかに和泉元秀親子の蟹山伏。これはみられなかった。

本。特集・翁猿楽の現況(共同研究)。八成立期・山路興造V。八翁面・中村保雄Vなど六篇。ほかに「法華五部九卷書」(落合博志)。芸能史研究・一九〇号。

八月上旬赤トランプを庭でみる。紅・白の百日紅真々盛り。九月は名古屋金春会(東万期・金春晃実)。東京、大蔵会。鈴木・替間(シテ梅若万紀夫、アイ大蔵弥右衛門ほか)弥右衛門氏によれば、昭和十五年十月名古屋で演ぜられた山(朝日会館館)。お能の番組をくると、古式・替間、シテ金剛(故人)、三人アイが茂山忠一郎(故人)、同吉次郎(現家元)・同幸四郎、太刀持茂山弥五郎(故人、茂山はのち善竹姓)。なお和泉流は三人アイが本間、一人登場が替とのこと(井上松次郎談)。(野村広二)

近藤 乾之助 〒170 東京都豊島区巣鴨五三三十八	宝生流 嘉宝会 名古屋市昭和区川名本町二ノ五一	吉田 俊彦	竹腰 勝一	司宝会 名古屋市天白区島田二丁目三〇一 島田橋住宅三三三〇電話(〇三)七三七二	金剛流 景雲会 国際能楽研究会(I・N・I) インターナショナル能楽インスティテュート (日本・カナダ・アメリカ・ニュージーランド・ドイツ・フランス・台湾)	宇高通成後援会 宇高通成面乃会 〒606 京都市左京区高野塚町四〇 TEL(〇三)七〇一〇七九三 名古屋事務所 前組英安方 TEL(〇三)八五二一三三四	金剛流 松野 恭憲 松野 洋樹 〒616 京都市右京区鳴瀬泉殿町一八一三 TEL(〇三)四六二二二四八番 FAX(〇三)四六二二二四八番	金剛流 名古屋周星会 岐阜周星会 吉川 周子 名古屋千種区西崎町三三六 電話(〇三)七六一二二二五七	金 春 欣 三 東京都杉並区成田東四丁目35-20 電話(〇三)三三二五七三三二番
伊勢金春会 中村 富次 伊勢市宮町一四一四一七 電話(〇五七)〇四四五六番	名古屋金春会 林 鉄郎 近藤 修彦 渡部 道三	長田 曉後援会 〒514-11 津市高野尾町三三三二一四六 電話(〇五七)〇六九七番	喜多流 山本 才 名古屋千種区北千種3-3-10 合同宿舎千種東住宅30号 電話(〇五二)七二二一五七四番	宝生 哲 〒270 松戸市牧ノ原2の1 電話(〇三)八五一八一九〇番	高安流 岡同門会 清水 坂利 高坂 康弘 森野 晴蔵 北野 耕三郎 塩田 耕三郎 村川 山 中藤 川 伊藤 久湖 谷清水 雅利 清水 信昭	富耀会 柳原 富司 忠 〒666 名古屋市中区栄 朝日神社内(丸善前) 電話(八三三)一〇三二番 小鼓教室 名古屋市中区栄	幸友会 幸友 能 幸友 能 福井 啓次郎 福井 良久 福井 良治 柳原 富司 忠	富耀会 瀬尾 乃武 〒171 東京都豊島区西池袋1-30-10-345	谷口 正喜 京都市上京区中立売通室町西入 室町スカイハイツ610号

文月の舞台から 九臯会と第32回朝日狂言会

竹尾邦太郎

「源氏供養」シテ喜之。源氏物語は古今東西最高の文学作品の一つ。その虚構の世界の主人公を...

「文相撲」シテ大名・松次郎。新参者を召し抱えたといい出し、一度に八千人と大きく出るが、...

「千鳥」掛けを濡らしては、相性が良いと煽り上げて太郎冠者(千之丞)を酒屋(忠三郎)へ遣...

「千鳥」掛けを濡らしては、相性が良いと煽り上げて太郎冠者(千之丞)を酒屋(忠三郎)へ遣...

「千鳥」掛けを濡らしては、相性が良いと煽り上げて太郎冠者(千之丞)を酒屋(忠三郎)へ遣...

「千鳥」掛けを濡らしては、相性が良いと煽り上げて太郎冠者(千之丞)を酒屋(忠三郎)へ遣...

「千鳥」掛けを濡らしては、相性が良いと煽り上げて太郎冠者(千之丞)を酒屋(忠三郎)へ遣...

「千鳥」掛けを濡らしては、相性が良いと煽り上げて太郎冠者(千之丞)を酒屋(忠三郎)へ遣...

「千鳥」掛けを濡らしては、相性が良いと煽り上げて太郎冠者(千之丞)を酒屋(忠三郎)へ遣...

「千鳥」掛けを濡らしては、相性が良いと煽り上げて太郎冠者(千之丞)を酒屋(忠三郎)へ遣...

「千鳥」掛けを濡らしては、相性が良いと煽り上げて太郎冠者(千之丞)を酒屋(忠三郎)へ遣...

「千鳥」掛けを濡らしては、相性が良いと煽り上げて太郎冠者(千之丞)を酒屋(忠三郎)へ遣...

「千鳥」掛けを濡らしては、相性が良いと煽り上げて太郎冠者(千之丞)を酒屋(忠三郎)へ遣...

「千鳥」掛けを濡らしては、相性が良いと煽り上げて太郎冠者(千之丞)を酒屋(忠三郎)へ遣...

「千鳥」掛けを濡らしては、相性が良いと煽り上げて太郎冠者(千之丞)を酒屋(忠三郎)へ遣...

第六回 衣斐正宜後援会能

八月二十五日(土)午後一時始 熱田神宮能楽殿

ご挨拶と講演 番 組 午後二時

熊

東川 光夫 衣斐 正宜 西村 敏也 飯富 雅介 曾和 正博 一増 庸二

野

後見 辰巳 孝 宝生 英照 地謡 稲川 耕司 佐藤 耕司 寺井 良雄 佐野 登 辰巳 潤次郎

悪太郎

野村又三郎 井上礼之助 野村 信行

八

田崎 隆三 高安 勝久 河村真之介 朝原 隆志 原 隆志 佐藤 耕司 水 上 良雄 吉田 俊彦 衣斐 正宜

石

後見 辰巳 孝 寺井 良雄 東川 光夫 辰巳 潤次郎 地謡 稲川 耕司 佐藤 耕司 水 上 良雄 吉田 俊彦 衣斐 正宜

橋

高安 勝久 河村真之介 朝原 隆志 原 隆志 佐藤 耕司 水 上 良雄 吉田 俊彦 衣斐 正宜

安達原

青木 武弘 高橋 敏一 奥川 恒治

葛

飯富 雅介 鬼頭 英二 福井啓次郎 藤 友彦 鹿取 希世

雁

野村又三郎 松田 高義 井上礼之助

松

高木美智子 佐々木勝輝 五木田武計 駒瀬 直也

遊

柳 石 駒瀬 直也

殺

駒瀬 直也

中

観世 喜之 高安 淳二 河村真之介 後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛

乱

高安 淳二 河村真之介 後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛

要員券

主権事務所 名古屋観世九臯会

要員券

主権事務所 名古屋観世九臯会

要員券

主権事務所 名古屋観世九臯会

要員券

主権事務所 名古屋観世九臯会

要員券

主権事務所 名古屋観世九臯会

河村 総一郎 河村 真之介 河村 大

長生会 鬼頭 喜太郎 好 信

寛 鉦 一 吉田 定男

大勢方 鬼頭 英二

助川 龍夫 助川 治

茂山 千五郎 茂山 正 義 茂山 真 吾 茂山 千三郎

朝日カルチャーセンター 嚙子 教室

栄能楽舞台 名古屋市中区栄五十六番 電話(三六二)一八三番

楽諷庵舞台 名古屋市中区藤川町四七七八三 電話(八三三)七〇二番

葵心庵舞台 尾張旭市東大道町原田二四九三ノ二 電話(〇五六)一五〇二三四六番

彰諷閣舞台 名古屋市中区白旗町西二一八〇二二 電話(〇五二)八〇五二一三三〇一

演能写真 ウシマド写真工房 京都市上京区北野上七軒 電話(〇五二)一三四一番

ビデオ撮影 西川 企画 名古屋市中区白旗町西二一八〇二二 電話(〇五二)五七一一五八二一六

朝日カルチャーセンター 嚙子 教室 小鼓 後藤孝一郎 丸栄スカイ10階

朝日カルチャーセンター 嚙子 教室 小鼓 後藤孝一郎 丸栄スカイ10階

朝日カルチャーセンター 嚙子 教室 小鼓 後藤孝一郎 丸栄スカイ10階

朝日カルチャーセンター 嚙子 教室 小鼓 後藤孝一郎 丸栄スカイ10階

朝日カルチャーセンター 嚙子 教室 小鼓 後藤孝一郎 丸栄スカイ10階

第31回大衆能

九月二日(日)午前十一時始
熱田神宮能楽殿

能 組
須部 市
祖父江修一
清沢 一政
小島 一英
飯富 雅介
高安 勝久
杉江 元
松田 高義
野村 又三郎
井上 禮之助
井上 松次郎
鬼頭 喜太郎
鹿取 希世

能 忠
高橋 昭一
西村 欽也
井上 松次郎
鬼頭 喜太郎
藤田 六郎兵衛
後見 前野 郁子
熊沢 忠美子
地謡 今村 喜彦
加藤 保彦
松山 幸親
中川 雅章
田中 徹二
祖父江 修一

能 繪
飯富 雅介
高安 勝久
杉江 元
松田 高義
野村 又三郎
井上 禮之助
井上 松次郎
鬼頭 喜太郎
鹿取 希世
後見 泉 生駒 里翠
高木 美智子
地謡 今村 喜彦
近藤 幸江
中川 雅章
加賀 敬彦
久田 邦久

能 善
飯富 雅介
高安 勝久
杉江 元
松田 高義
野村 又三郎
井上 禮之助
井上 松次郎
鬼頭 喜太郎
鹿取 希世
後見 吉田 妙
近藤 幸江
地謡 須部 幸親
高橋 昭一
小島 一英
松山 幸親
高橋 昭一
小島 一英
松山 幸親
高橋 昭一
小島 一英

能 界
飯富 雅介
高安 勝久
杉江 元
松田 高義
野村 又三郎
井上 禮之助
井上 松次郎
鬼頭 喜太郎
鹿取 希世
後見 吉田 妙
近藤 幸江
地謡 須部 幸親
高橋 昭一
小島 一英
松山 幸親
高橋 昭一
小島 一英
松山 幸親
高橋 昭一
小島 一英

附 祝 言
主催 能楽協会名古屋支部
後援 愛知県・名古屋市長
当日券 二千五百円(前券券二千円)
入場券取扱所 名鉄・三越・中日ビル・丸栄・松坂屋・栄町ビル
イカイド・能楽殿・出演各楽師宅

名古屋観世会定式能(第四回)

九月九日(日)十二時半開演
熱田神宮能楽殿

能 組
ナリ古橋 正邦
ヤス武田 邦弘
浦田 保利
植田 隆之亮
河村 敏一郎
鹿取 希世
後見 小島 一英
梅若 盛義
地謡 松山 幸親
田中 徹二
祖父江 修一
久田 邦久

能 俊
植田 隆之亮
河村 敏一郎
鹿取 希世
後見 小島 一英
梅若 盛義
地謡 松山 幸親
田中 徹二
祖父江 修一
久田 邦久
休憩十分
井上 礼之助
大野 弘之
後見 井上 松次郎

能 安達原
西村 欽也
飯富 雅介
柳原 富司忠
鬼頭 喜太郎
藤田 六郎兵衛
後見 武田 邦弘
片山 慶次郎
地謡 須部 幸親
高橋 昭一
小島 一英
松山 幸親
高橋 昭一
小島 一英
松山 幸親
高橋 昭一
小島 一英

附 祝 言
〔要員券〕 五千円
当日券 八千円(自由席)
主催 名古屋観世会
九月十六日(日)午後一時始
熱田神宮能楽殿

能 放
飯富 雅介
高安 勝久
杉江 元
松田 高義
野村 又三郎
井上 禮之助
井上 松次郎
鬼頭 喜太郎
鹿取 希世
後見 辰巳 耕司
佐藤 耕司
地謡 須部 幸親
高橋 昭一
小島 一英
松山 幸親
高橋 昭一
小島 一英
松山 幸親
高橋 昭一
小島 一英

能 花
飯富 雅介
高安 勝久
杉江 元
松田 高義
野村 又三郎
井上 禮之助
井上 松次郎
鬼頭 喜太郎
鹿取 希世
後見 辰巳 耕司
佐藤 耕司
地謡 須部 幸親
高橋 昭一
小島 一英
松山 幸親
高橋 昭一
小島 一英
松山 幸親
高橋 昭一
小島 一英

名古屋金春会能

九月三十日(日)午後二時始
熱田神宮能楽殿

能 東
飯富 雅介
高安 勝久
杉江 元
松田 高義
野村 又三郎
井上 禮之助
井上 松次郎
鬼頭 喜太郎
鹿取 希世
後見 前野 郁子
熊沢 忠美子
地謡 今村 喜彦
加藤 保彦
松山 幸親
中川 雅章
田中 徹二
祖父江 修一

能 藤
飯富 雅介
高安 勝久
杉江 元
松田 高義
野村 又三郎
井上 禮之助
井上 松次郎
鬼頭 喜太郎
鹿取 希世
後見 前野 郁子
熊沢 忠美子
地謡 今村 喜彦
加藤 保彦
松山 幸親
中川 雅章
田中 徹二
祖父江 修一

能 大
飯富 雅介
高安 勝久
杉江 元
松田 高義
野村 又三郎
井上 禮之助
井上 松次郎
鬼頭 喜太郎
鹿取 希世
後見 前野 郁子
熊沢 忠美子
地謡 今村 喜彦
加藤 保彦
松山 幸親
中川 雅章
田中 徹二
祖父江 修一

附 祝 言
〔要員券〕 五千円
〔合券〕 五千円
〔開合せ先〕 飯富 雅介(〇五二一八四一四七四五) 前田 茂徳(〇五二一四一三三三三) 小林 雅行(〇五六六六一二二〇七五)
塚本 惠市(〇五二一九三二一六七三四) 伏原 増二(〇五二一九三二一七二二)
名古屋金春会事務局

能 遊
飯富 雅介
高安 勝久
杉江 元
松田 高義
野村 又三郎
井上 禮之助
井上 松次郎
鬼頭 喜太郎
鹿取 希世
後見 辰巳 耕司
佐藤 耕司
地謡 須部 幸親
高橋 昭一
小島 一英
松山 幸親
高橋 昭一
小島 一英
松山 幸親
高橋 昭一
小島 一英

能 山
飯富 雅介
高安 勝久
杉江 元
松田 高義
野村 又三郎
井上 禮之助
井上 松次郎
鬼頭 喜太郎
鹿取 希世
後見 辰巳 耕司
佐藤 耕司
地謡 須部 幸親
高橋 昭一
小島 一英
松山 幸親
高橋 昭一
小島 一英
松山 幸親
高橋 昭一
小島 一英

平成2年8月・9月放送予定

〔8月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
19日(日) 剛流「三井寺」豊 鶴 訓 三 蔵
26日(日) 観世流「芦刈」大 槻 文
〔9月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
2日(日) 観世流「紅葉狩」錦木 観 喜 信 之 高 行 一 子
9日(日) 金春流「景清」金 春 若 若 田 階 敬 子
16日(日) 観世流「玉鬘」「熊坂」梅 田 階 敬 子
23日(日) 金剛流「絃上」「通小町」広 田 階 敬 子
30日(日) 観世流「富士太鼓」山 中 御 門 宜 子
◎NHK教育テレビ・祝日能
9月15日(敬老の日) 午前9時~10時15分
金春流能「谷行」金 春 安 明 好
9月24日(秋分の日) 午前9時~10時
宝生流能「天鼓」(再) 金 井 章
(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

発行能楽の友社

名古屋市千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7 9 8 4

振替口座 名古屋 0-36393

購読料 1年 1000円

郵送の場合 1年 1500円

一 部 90円

能楽の友

若い御二人の門出に

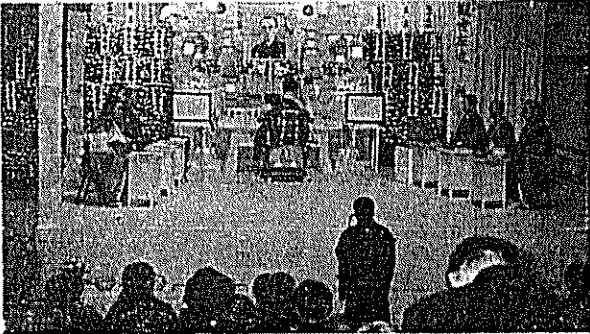
ふさわしい結婚式場

名古屋 若宮八幡社

各種会合や宴会にも御利用下さい

(駐車場完備)

名古屋市中区栄3丁目35-30 電話(241)0810



熱田神宮能楽殿運営委員会と能楽協会名古屋支部では、天皇即位を祝賀して、「御大典奉祝能」を十一月十五日(木)熱田神宮能楽殿で開催、能、三番、狂言二番、囃子、仕舞を上演、平成の御大典を慶祝する。

能祝奉大典御

11月15日 熱田能楽殿

能楽協会名古屋支部主催

能組は、観世流能「大典」(シテ梅田邦久、ツレ小島一英)宝生流能「勇次」(シテ衣斐正宣)観世流半能「石橋」(シテ泉嘉夫、久田徹二、ツレ清沢一政、祖父江修一)の三番。

- 能大 典 飯富雅介 寛 敏一 鬼頭喜太郎 杉江 元 福井啓次郎 藤田六郎兵衛 野村又三郎 井上礼之助 松田 高義 衣斐 正宣 井上礼之助 鬼頭 英二 大野 誠 能羽 衣 飯富 雅介 河村総一郎 助川 竜夫 後藤孝一郎 鹿取 希世 戸田 和 近藤 幸江 大野 誠 狂言 蝸 牛 草子洗小町 佐藤 友彦 大野 誠 狂言 狸 々 吉川 周子 福井 良久 大野 誠 半能 石 橋 高安 勝久 河村真之介 鬼頭 好信 河原重司忠 藤田六郎兵衛

観世流二十五世宗家

観世左近氏逝去

8月29日 東京観世能楽堂で告別式

観世流二十五世宗家・観世左近氏は、八月二十六日午後八時五十分、急性心筋梗塞のため福岡市の広瀬病院で逝去された。享年六十歳。当日は福岡・電気ホールで朝日五流能の公演で、礎を上演、ホテルに戻って倒れ不帰となった。葬儀は観世流葬として二十九日午後一時から東京・渋谷区松涛の観世能楽堂で日本能楽会会長・宝生英雄氏が葬儀委員長となり執り行われた。

御大典祝賀能

今秋の御大典にあたり総理大臣主催晩さん会で、御大典祝賀行事能が都内ホテルで行われる。能「石橋」連獅子(白・喜多六平太、赤・塩津哲生、ワキ森茂好、竹幸四郎)ほか仕舞。午後一時半演。

演能カレンダー

Calendar of events from September to December, listing dates, event names, and locations like '熱田神宮能楽殿'.

茂山忠三郎・狂言の会

福岡、東京、京都、大阪で公演

茂山忠三郎・狂言の会は今秋福岡、東京、京都、大阪で公演される。同会は本年度で十二年目を数える。また東京公演も十周年を迎える。福岡(十月十一日、大濠公園能楽堂)「筑紫興」(寝言曲)「首引」

大阪

大阪文化祭参加、申楽大和座プロデュース、大阪能楽観賞会協賛「第十三回スペシャル能」は十月二十七日大観能楽堂で、能「弱法師」(粟谷菊生)狂言「空座」(善竹幸四郎)を公演。午後二時始、前売四千円(当日四千五百円)大阪文化祭参加、第四十八回「梅若万紀夫能の会」大阪公演は十一月二十四日大阪能楽会館で上演。

京都

金剛流・松野恭徳、宇高通成両師による「二人の会」は九月九日金剛能楽堂で第十一回公演。

富 耀 会

九月二十三日(秋分の日) 午前十一時始

和泉流狂言大会

九月二十四日(休)午前十一時半始

Cast list for various events, including names like 狂言組, 和泉流, and 富耀会, along with their roles and names.

90 中日文化センター芸術発表会

九月二十九日(土)午前十時始 熱田神宮能楽殿 能「吉野天人」はじめ楽謡、狂言、舞囃子、仕舞、連鈴、連謡、連管、狂言小舞など中日文化センター能・狂言教室出演。

第七回野村四郎の会と各地の新能

竹尾邦太郎

「蚊相撲」 見栄っぱりは往々にして我が儘。その典型を大名に擬して又三郎が入念に見せる。一方、利害に敵い太郎冠者、高義、新参者雇用で自分の手が空くのは先刻見通し。大名の体面維持にもおさおさ息り無く、新参者(実は蚊ノ精・信行)に聞こえよがしの大言にも抜けない対応する。好演。さて、相撲好きの大名、万能の新参者に相撲を仕掛け、負ける大困難の逆襲。風に煽られた蚊ノ精の氣息奄奄の飛行の生感が良い。そして、起死回生の一刺し。構態でブーンと凱歌を挙げ、トンと膝を着いて幕に入るが、腹巻せに太郎冠者を倒した大名も、蚊ノ精に憑かれたか一ノ松でブーンと鳴くと、両手はたばたさせて入るのが面白かった。(34分)

「半部・立花供養」 立花とは池坊流華道の一形式。立花供養はその供花(のねざら)の回向と云う。名官宿(六郎兵衛)で出た安房の備(茂十郎)が、仏前を飾った花を供養する旨、アイ能力(又三郎)に触れさせると、後見(雄三郎)が立花を正先に握え、ワキは徐に回向する。この導入部の一寸重々しい雰囲気は茂十郎に適る。大小(総一郎・啓次郎)アシライで一ノ松に佇立したシテ(四郎)は、速くから立花を眺める。小面・蝶白・白摺箱に鉄線文様の白地唐織が如何にも繊細な感覚で、薄暮にぼんやり開く可憐な夕顔の花を印象づける。中入地(徳三・完治・将重ら)へ空目せし間に夢となり、と、面影求めるかに数足出で目付柱の彼方、虚ろに目を遠る辺りの情調も上々。

「船弁慶・前後ノ替」 シテ鎖之丞。別離の舞の途中、御前を耐え切れずに一ノ松に逃れると、勾欄に寄って一頼り義経(青木智彦君)を見込み、後向きに下居してシオル。この時、金華山の山の端に月が出た。道る瀧ない情緒が一入加わるのである。ハはや織をとくとくと、はサスだけ。慎重に鳥帽子・長袖を脱ぐと、鳥帽子は懐中してシオリながら中入した。後シテは白地拾符衣をエモンに肩上げ、燃え盛る篝火に映え、黒頭・怪士の風姿が一段の興味を帯びる。義経に肉迫するも、ワキ(欽也)に遮られる。ハ速きかれば、と幕に退き、長刀捨てて太刀を抜き、再び迫るが、ハまた引くかに流し刀を負い渦潮に吞まれるかに流し足くるくると廻って幕に消え、稚子がトノた。大見所に力を得た鎖之丞の熱演だった。(1時間14分)

「千鳥」 シテ弥太郎。鳴名後初の西下に加え、曲が津島祭チーマの言わば御所狂言とあって意欲的舞台。酒樽を山鉾に擬して曳くところなど、野外を意識しての大きい型が良い。酒屋は吉次郎を襲名の基調、主は弥太郎息基照。(28分・8月3日・長良川岸)

「半能」 小賢・隠岐の小賢周(郁子)を馬上で尋ねるシテ仲國(幸三郎)へ尋ねる人の琴の音か、と門前に佇み気配を探り、開扉あるまで左膝抱えての坐り込み作戦の真剣味に幸親より直面を見せる。面会叫び、半能の襟を外して文を差し出す辺りの恐怖と勇舞の明瞭やかさの対比も味があった。(44分)

「杜若」 シテ俊彦。演能意欲旺盛なことに敬意を表するが、壁物の氣持が肉体に乗ってこない感。息が弾めば頭も上る道理、少々痛々しい。ハ蝶の唐衣の、と正先で膝を着き、扇で左袖を受けて見入る辺り、色香はあるのだが。(41分)

「子盗人」 シテ友彦。生来の悪人とも思えぬ男が、金に困り知人宅に侵入する、という短絡思考が理解の域外で、後味はさらさら。無邪気な赤ん坊に悪人の魂も浄化されて和む、という教訓も興味。(16分)

「一舟仙人」 岩屋に竜神(和貴・和晃)を封じて雨を降らさないシテ一角仙人(邦久)を、酒色で眩惑軟化させるのにツレ旋陀夫(人(幸江)が追われる。酌を受けけたシテが、ツレの手振りや真似、立って楽を相舞する頃は龍神も進み、ツレがスミに退いても頼むなと舞い続ける。一種の偏執執着を邦久手堅く見せる。竜神二君の舞も元氣一杯。ただ、後見が慎重だったにも拘らず、作物ごと竜神が一段台に上るのに脚が見えてしまったのは、折角の仕掛けが活かされず残念。(43分・8月4日・熱田神宮神楽殿前)

「名古屋新狂言」 本年第二回、二日間の公演。和泉流九代山脇和泉守元徳三百年祭と銘打つ。「蚊相撲」 シテ大名・松次郎。共同演出は、中立であるべき行司の太郎冠者(祐一)が主の大名に荷担し、大困難で蚊ノ精(友彦)を捕ま立てる。蚊ノ精も万端ではなく、相撲を得手取るその道のプロ。鳴取られても怯まず、シテの脚を取って倒す根性。不興のシテは、「蚊の鳴取っても何の役に立たぬ」と、と捨て科白の末、よき獲物とはかりに太郎冠者を倒すと仁王立ちになり、「勝ったぞ、勝ったぞ」と入った。(30分)

「狐塚」 日暮れ、狐が悪さをすると田に独り居て、雀を追う心細さ、という感覚は昔のもの。若年で演じるのもむづかしからう。シテ元徳、アド藤九郎と淳子。共々の一所懸命も、間が詰りすぎて思苦しいばかりに思えた。(23分)

「能弱法師」 シテ元徳。近頃喧しい大管祭は当時とて同じ。大徳を見込まれて一段を与えられた名譽も、装束は自前とあって姿(淳子)は御役返上を言い立て、挙句は尻を割り落せと迫る。梅で尻を守り固めるなどという雅気満々の意志は元秀のもの。しかしヒステリックな女性軍のパワーにたいわいもなく尻を抜かれてのクサメ留は惨め。現代の女男間の図式を見るような。(24分・8月19日・徳川美術館前特設舞台)

「能弱法師」 西村 欽也 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛 井上礼之助 五木田武計 田中きん 五木田武計 深見 一枝 吉田 定男 藤田六郎兵衛 西村 欽也 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛

「善知鳥」 福井 喜正 藤田六郎兵衛 福井 喜正 藤田六郎兵衛 福井 喜正 藤田六郎兵衛

「狂言杭か人か」 野村又三郎 松田 高義 後見 野村 信行 加藤けい子 山田 延恒 諸隈 良吉 山田 延恒 諸隈 良吉

「能野」 西村 欽也 藤田六郎兵衛 西村 欽也 藤田六郎兵衛 西村 欽也 藤田六郎兵衛

「御来場歓迎」 名古屋市南区元徳町一丁目一十七(加藤保彦) TEL 〇五二一六二一三三六五九 主催事務所 名古屋能世九奉会

邦謡会素謡と仕舞の会 十月十日(祝)午前九時半始 熱田神宮能楽殿

故久田秀雄師七回忌追善 郁 会 大会 十月十三日(土)午前九時半始 熱田神宮能楽殿

住吉 吉田 静子 山之内定子 鈴木 京子 小西 年子 田畑 鞠子 小西 年子 渡辺 屋子

能 丸 西村 欽也 河村総一郎 藤田六郎兵衛 飯沼 雅介 久田舜一郎 杉江 元 野村又三郎 野村又三郎

「お誘い合わせに來場下さい」 主催 前野 郁子 前野 郁子 前野 郁子

武田謳楽会秋季大会

十月十四日(日)午前九時始
熱田 神宮能楽殿

Table listing performers for the autumn festival, including names like 舞臺子 竹生, 舞臺子 唐, and 舞臺子 松, along with their respective roles and names.

猶惠会二十五周年記念大会

十月二十日(土)午後九時半始
熱田 神宮能楽殿

Table listing performers for the 25th anniversary commemorative festival, including names like 舞臺子 半, 舞臺子 楊貴妃, and 舞臺子 野宮.

幸福会大会

十月二十一日(日)午前十時始
熱田 神宮能楽殿

Table listing performers for the happiness festival, including names like 舞臺子 実, 舞臺子 清, and 舞臺子 弱法師.

猶惠会25周年記念大会

猶惠会(熊沢恵美子師主宰)は同会発足から二十五周年を迎え、これを記念してきたる十月二十日、熱田神宮能楽殿で「二十五周年記念能」を催す。...

新能面展

日本能面巧芸会「第九回新作能面展」を九月十八日から二十四日まで名古屋市博物館で開催。...

平成2年9月・10月放送予定

- 〔9月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
23日(日)金剛流「絃上」通小町 田階門御
30日(日)観世流「富士太鼓」山中 音重雄世一
〔10月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
7日(日)観世流「花鏡」坂井 音重雄世一
14日(日)宝生流「融」松本 音重雄世一
21日(日)喜多流「六浦」友山 音重雄世一
28日(日)観世流「烏帽子折」山 音重雄世一
○NHK教育テレビ・祝日能
9月24日(秋分の日)午前9時~10時
宝生流能「天鼓」(再)金井 章
10月10日(体育の日)午前9時~10時30分
観世流能「部」2 熊橋 久馬 関也
常の型と「薬屋」の小昔と 西村 欽能・狂言鑑賞入門
○NHK教育テレビ 日本伝統芸能
土曜日 午後9時45分~10時15分
狂言 講師山本東次郎ほか
9月22日(土)「笑いの本質」
9月28日(土)「わいわい女たち」
(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

二井栄逸師画抄集

91 能画カレンダー

ご好評を頂いております能画カレンダー1991年版。B3(タテ51.5cm×ヨコ38.0cm)表紙とも7枚の新作美画カレンダーです。
◎ 予約特価 1部1300円、郵送の場合送料とも1部1650円(2部以上の場合、部数にかかわらず送料は一律500円、例・3部の場合送料とも4400円)
◎ 予約申込み期限 10月20日(それ以後は1部2000円、ただし部数によりお応えできない場合がありますのでご理解下さい)
◎ お申し込み方法 ハガキで部数明記のうえ当社へお申込み下さい。代金は振替、切手、現金書留いずれでも結構です。(電話での受け付けはいたしませんのでご理解下さい)
申し込み先 能楽の友社
〒464 名古屋市千種区千種2-18-18
振替口座 名古屋 0-36393

青月雅日記

(111)

釣舟草

えと文 二井栄逸

山地のしめったところに生えるまぼろしのよう花。キツリフネソウ。——

晩春から初夏にかけて、黄色い三枚の花びらと、三枚の花べんを面白く組み合わせ、丁度舟を釣ったように葉の下に咲くのがこの花である。

九月半ば頃まで紅紫色に咲きつづく、ムラサキツリフネも面白いが、葉がくわに釣られたキツリフネの花のほうが絵になる。

私は、いつもこの花を見るたびに、唐織か長絹の文様にも素暗らしいのではないかと思っているので、さらさらと流れる溪流のほとり、前記の紅紫色の普通のツリフネに秋の気配がたよい始めると、

を、ムラサキツリフネともよぶのは、キツリフネの黄色に対しての呼び名であろう。

また、キツリフネのように葉がくわに咲く淡紅色のハダクレツリフネもなかなかすてがたい。ツリフネ属の果実は細長く、触れると種子をはじきとばす。

リンネというスウェーデンの博物学者によって命名されたツリフネソウ属の属名であるインパチエンスは、「こらえられない」の意味で、果実にふれると、ホウセンカの実のように急にはじけるところからつけられた名である。

さらさらと流れる溪流のほとり、前記の紅紫色の普通のツリフネに秋の気配がたよい始めると、

まずムラサキツリフネが、そこはかとなく姿を消し始める。そして世は秋霖の季節となる。梅雨程きわだつてはいないが、梅雨の頃似た気圧配置によって生ずる長雨の季節、日本の南岸沿いに生ずる停滞前線で、小笠原気団と、大陸気団との境界をなすものであるが、台風と重なると大きな

被害をもたらす。ツリフネの群落は、種子を四方にはじきとばし、種族保存の役目をはたし、静かに土にかえてゆく。また来年の夏になれば、今年よりも輪をひろげるであろう群落に、従来のような小川がゆるゆると初夏の風にそよぐことであろう。

(平成二・一〇・八記)



演能案内

名古屋能楽鑑賞会公演(第2回)

十月三十一日(水)午後一時始

解説 東京国立文化財研究所 芸能部演劇研究室長

仕舞 花 籠 片山九郎右衛門

天 鼓 片山慶次郎

狂言 鱧 包丁 山本東次郎 山本 則直 後見 山本恭太郎

観世 曉夫 觀世鏡之丞

能 恋 重 荷 西村 敏也 河村隆一郎 助川 竜夫 福井啓次郎 藤田 六郎兵衛 味方 一玄 橋本 磯道 清沢 修一 梅田 邦久 祖父 江修一 片山 慶次郎 柴田 隆 武田 邦弘

主催名古屋能楽鑑賞会

事務局 名古屋市東区大幸4-19-26 岩田方、電話(052)722-1400

〔要員券〕臨時会員券七千円(自由席) 取扱いチケットぴあ(052)330-1999 市内各ブレイガイド、事務局、熱田神宮能楽殿

福井啓次郎 還暦 祝賀 愛知県芸術文化選奨受賞記念

十一月三日(文化の日)正午始

熱田 神宮 能楽殿

舞臺子 鶴 龜 興 善助 幸 正昭 助川 龍夫 鬼頭 英二 鹿取 希世 今村 喜勇 清沢 修一 加賀 敏彦 松山 幸親 祖父 江修一 今村 喜勇 加賀 敏彦 藤田 光春 森田 光春 河村 真之介 泉 嘉夫 福井 啓次郎 大坪 十喜雄 福井 啓次郎 信高 信高 吉田 定男 藤田 六郎兵衛 吉田 定男 藤田 六郎兵衛 吉田 定男 藤田 六郎兵衛 吉田 定男 藤田 六郎兵衛

能 鷓鴣小町

十一月三日(文化の日)正午始

熱田 神宮 能楽殿

舞臺子 松 風 金春 信高 吉田 定男 藤田 六郎兵衛 吉田 定男 藤田 六郎兵衛 吉田 定男 藤田 六郎兵衛 吉田 定男 藤田 六郎兵衛

能 小 鍛

後宝生 英雄 西村 敏也 柳原 可忠 鬼頭 喜太郎 白頭 飯富 雅介 藤田 六郎兵衛 佐々木 輝雄 衣袋 正宜 佐々木 輝雄 高橋 正章 竹腰 勝一 馬場 四郎 辰巳 満次郎

風韻会 能

十一月四日(日)午前十時半始

熱田 神宮 能楽殿

狂言 杭か人か 井上松次郎 佐藤 友彦 後見 井上 祐一 秦福三 輪 高木あき子 平岩 昌子

能 松 風

阿部 タマ 伊藤 り子

舞臺子 忠 度 山田 欣也 後藤 孝一郎 大野 誠 藤 戸 福間 克彦 後藤 孝一郎 大野 誠 伊藤 敏子 佐藤 アヤ子 高安 勝久 後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛 西村 敏也 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛

能 花

舞臺子 砧 西村 敏也 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛

能 遊 行 柳

吉田 定男 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛

能 番 外 仕 舞 白 楽 天

大槻 文蔵 大槻 文蔵 大槻 文蔵 大槻 文蔵 大槻 文蔵 大槻 文蔵 大槻 文蔵 大槻 文蔵 大槻 文蔵 大槻 文蔵

能 道 成 寺

十一月七日(水)午後一時開演

熱田 神宮 能楽殿

講演 道成寺について 藤田 六郎兵衛 梅田 邦久

能と狂言に親しむ会特別公演

十一月七日(水)午後一時開演

熱田 神宮 能楽殿

講演 道成寺について 藤田 六郎兵衛 梅田 邦久

能 道 成 寺

十一月七日(水)午後一時開演

熱田 神宮 能楽殿

講演 道成寺について 藤田 六郎兵衛 梅田 邦久

能 観 世 会 定 式 能

十一月十一日(日)十二時半始

熱田 神宮 能楽殿

料金 全自由席三千円、前売券のみ発売(当日券は取扱われません) 申込み先 名古屋市中区下三ノ丁二〇九、藤田方 電話 〇五二一五七一一五七六三

能 美

片山九郎右衛門

盛 宝生 関 寛 敏一 助川 竜夫 久田 舜一郎 鹿取 希世 後見 小島 一英 地謡 須部 幸親 松山 幸親 須部 幸親 古橋 正邦 梅田 邦久 古橋 正邦 梅田 邦久 古橋 正邦 梅田 邦久

能 仕 舞 白 楽 天

片山九郎右衛門

柏 崎道行 山本 順之 地謡 橋本 磯道 小島 一英 観世 鏡之丞 片山 慶次郎 梅田 邦久 中川 雅章 観世 鏡之丞 西村 敏也 河村 隆一郎 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛

能 江

片山九郎右衛門

口 西村 敏也 河村 隆一郎 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛

附 祝 言

〔要員券〕 当日券 八千円(自由席)

主催名古屋能楽鑑賞会

紅梅記

一統・左近氏
のこと、東
方朔と谷行

台風上陸(接近)の多い年であ
る。しかも週末に、八熱田Vへ行
くのが難儀です。

故左近氏のこと。なくなられる
八月二十六日の前夜、清和氏の「能
・狂言鑑賞入門」の再放送が始ま
る。(NHK、以下同)。初回は
父上左近氏が「能の現代と将来」
について佳言を述べられているの
である。これが生前お目にかかる
最後であった。しかもテレビ(録
音)で、口元の笑いを眺めていた。
それが翌日臨明を異にするとは。

追憶の第二はこれもテレビ。九
月十五日のテレビ能は金春能・谷
行の予定が、左近氏追悼で、同氏
能野となる。はじめに山崎有一郎
氏の追憶談があった。多忙劇務の
日々、能は百五十曲前後・二千番
は舞われ、端麗な舞い振りが語り
草と。美しい能野であった。殊に
橋掛(切りはか)のオモテ・姿が
胸を打つ。高校講義録曲の岡田川
もよかった。前後するが、九月九
日(菊の節句)名古屋観世能は付
祝言を追加に加え、家元逝去追悼
に卒都婆小町の切りを踊った。

「後の世を願うぞまことなりける
柱、シテ正とゆつたり進むその重
らわす。東京開催の国際独舞文
各氏。

「永井光子」能「半部」(内山
田鶴)の能二番、素謡「石橋」
「安宅」一筋はじめ六番、舞鶴
子、独吟、仕舞、連吟など二十数
番。午前十時開始、来場歓迎。
梅若春鶯会II豊中市新千里南町
三二一八二、電話〇六一八三
一七八五、梅若春鶯会。

能管と陶工による
イメージコンサート
能管の世界と自然界にある土を
素材にした陶工グループによる
「IMAGEコンサート」が十一
月十四日(水)名古屋・錦三丁目
の大黒屋・最本真理メモリアルホ
ールで開催される。

能管は笛方藤田流宗家・藤田六
郎兵衛師が所演、陶工たちのイメ
ージ作品との融合を求め、音を聞
き作品をみる、新しい試みである。
開場午後一時半、演奏午後二時
から二時四十分、終了後ティー・パ
ーティ。会費二千円(定員八十名)

梅若春鶯会
創立70周年記念
二月十一日 創立70周年記念
(師生等)は、同会創立七
十周年・大阪発足三十周
年を記念して、十一月十
一日(日)大阪能楽会館で「春鶯
会大阪大会」を開催する。

同会は、善高師の父春雄氏が祖
父先代万三郎師より同家の梅をゆ
かりに春鶯会と命名、発足して七
十年、大阪で昭和三十五年初回を
催し三十年を迎える記念の催し。

「砂を塔と重ねて黄金の膚とま
やかに花を伝に手向けつつ」悟
りの道に入ろうよ。ゆかし。
「観世」十月号は家元急逝の計
報を最初に近影と載せ、演能写真
四葉(最後の砦も)。追悼号は次
号以降。
銘々の思い出を大切にしたい。

九月の能。前述の九日観世能。
俊寛(浦田保利)・安達原(大槻
文蔵)。佳。家元の死を悼むしめ
やかな気持が流れる舞台には、あ
わせて関西の古風なよさが交差
し、心落ちつけてみる事ができ
た。浦田氏は風格をみせ、文蔵氏
はたびたび山本勝一氏と共にきて
もらいたいと思う。

三十日金春能。全く久々の東方
朔・金春兜(てるちか)。中国
の話。前漢武帝の聖寿万歳を祝う
曲。楽し。武帝の代に、中国へ平
馬(血馬)だったか)と称してア
ラビアの良馬や葡萄の木(笑か)
がもたらされた由、中学(旧)東
洋史が語るシルクロードの話には
胸が躍った。その帝の治世下東
方朔が現われ、西王母(ツレ)を
呼び出し、三千年に一度なる桃
の宴を献上し、あと相舞となる。

狂言口開(礼之助)ではじまる。
ワキ(西村欽也)の武帝が舞台に
入り、シテ常陸からワキ正、目付
柱、シテ正とゆつたり進むその重
らわす。東京開催の国際独舞文
各氏。

さ実によし。大宮に着座の姿も。
そして終りまで座したまま。後シ
テはオモテ鼻ぶ、悪附、鳥甲。豊
麗な女面のツレ(鬼夷思・穂高)
との相舞は強と美の舞で佳。
さて前後にはさまるアイ狂言で
ある。仙人が三人登場。西王母の
「桃」を食したい。それはできぬ
からせめてなめるだけでもと望む
ところへ「桃仁」の精、又三郎)
がやってくる。小さい白頭をつけ
るが面が分らぬ(空吹か賢徳か)。
頭上に桃をつける。三人は其をと
つてかわるがわるなめ、ついに桃
仁の顔が小さくなる。桃仁の始め
の頃がよくききとれず、これはと
うにと読むのか、そも何者か、
重ねて調べてみたい。この場面風
流に似て風流にあらず。三十分を
要す。全体一時間四十五分。大正
始から開演までの演能根には見当
らず(呉服町と布池の時代)。西
村氏から八熱田Vになって観世流
で演じた由承る。東方朔は節分
(二月三日)の厄払いに「東方朔
は九千年云々」のあの人物であら
う。珍しくめでたい能をみた。

二三日テレビ能・谷行。シテ
(母親・伎楽鬼神)・金春安明、
役の行者・同信高、ワキ・山伏・
森茂好(初演)。子方は安明氏息
か。運びよくおもしろし。修行の
さびしさと心のやさしさ巧みにあ
らわす。東京開催の国際独舞文
各氏。

秋は名山が多い。定家(浦田保
利、ワキ西村欽也)がみられる。
京部、十月。

十一月三日福井啓次郎氏還暦祝
賀能。啓次郎氏が鶴嶋小町の小鼓
を打つ。期待。

訂正。紅梅記九月号。故左近氏
の項で、第二部の部、「私のわず
かな」のの字を欠き、三年目が
二年目にお詫言して訂正します。
(野村広二)

御大典奉祝能

十一月十五日(木)午前十一時始
熱田神宮能楽殿

翁
小島一英
梅田邦久
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

大
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

末
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

羽
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

蛸
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

石
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

橋
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

高安勝久
河村真之介
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
飯富雅介
西村欽也
杉江元
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
伊藤修二
近藤雅弘
佐久間祥夫
杉浦尚三
渡部道三

鳳鳴会大会

十一月十七日(土)午前九時三十分始
熱田神宮能楽殿

融
木下義園
伊藤義郎
村上郁子
祖父江修一

夕顔
村上郁子
祖父江修一

野宮
村上郁子
祖父江修一

当麻
村上郁子
祖父江修一

俊寛
村上郁子
祖父江修一

景清
尾関守彦
竹島猛

玉之段
加藤かなめ
水野治子
加藤幸子
小島好美
井上敬枝

盛
武田志房

卷
吉田明
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

松
吉田明
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

西行
山本一
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

班
石井鍾子
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

熊
長谷川京子
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

高
山森幸男
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

井筒
山森幸男
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

山
山森幸男
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

通
山森幸男
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

田
山森幸男
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

小町
山森幸男
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

岩
山森幸男
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

米
山森幸男
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

屋
山森幸男
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

船
山森幸男
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

岩
山森幸男
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

米
山森幸男
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

屋
山森幸男
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

船
山森幸男
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

岩
山森幸男
河村総一郎
河原富司忠
藤田六郎兵衛

名古屋宝生会定式能(第434期)

十一月十八日(日)午後一時始

能 清

竹内澄子 玉井博祐 西村 欽也 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛

能 源氏供養

飯富雅介 高安勝久 吉田定男 藤田六郎兵衛

狂言福の神

佐藤 友彦 井上松次郎 井上礼之助

能 船 弁 慶

高安勝久 河村真之介 池田 希世

附 祝 言

主催名 古屋宝生会 名古屋市中区和山里町一三五

青陽会定式能(第434期)

十一月二十四日(土)十二時半始

能 熱 田 神 宮 能 楽 殿

能 菊 慈 童

須部 甫 高安勝久 鬼頭英二 福井啓次郎 池田 誠茂

仕舞 放 下 僧小歌 松山 幸親 玉木 孝男

能 三 輪

武田 邦弘 飯富 雅介 河村真之介 鬼頭 好信

狂言附子

能 藤 戸

小島 一英 杉江 元 眞 敏一 藤田六郎兵衛

附 祝 言

主 備 青 陽 会 事務所 熱田神宮能楽殿内

長月の舞台から(その一) 「九皇会」「大衆能」「観世会」

竹尾 邦 太 郎

「玉鬘」シテ保彦。流浪の地 筑紫で地方官に懇請され、都九条

われらは、と居立ち、伊勢の二 柱、とワキ勅使、勝久を見下すよ

「お冷し」「お冷しを結ぶ」 とは「水を拘む」意の上つ方の言

二井栄逸師画抄集 予約締切迫る 91 能画カレンダー

しも礼紙の時、アイ松次郎が平 然と機を伸してきたがどんなもの

エンゲージリング
山田宝石
貴金属・時計・装飾品
名古屋・本山駅
電 762-2434代表

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中区千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 0-36393
購読料 1年1000円
郵送の場合 1年1500円
一 部 90円

歳末助け 協賛能 合い運動

能楽協会名古屋支部が主催

12月2日 能3番を上演

能楽協会名古屋支部(西村欽也支部長)主催による平成二年度の歳末助け合い運動協賛能は、きたる十二月二日(日)熱田神宮能楽殿で能三番、狂言一番、舞囃子、仕舞など協会支部能楽師の出演で開演される。

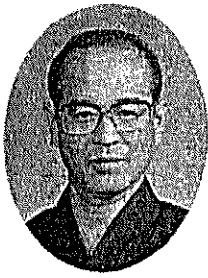
二十八円、合計四十九万八千五百六円が寄付された。
演能は、観世流能「清経」(テ中川雅章)喜多流能「姑」(テ長田驍)宝生流能「莫上」(テ衣斐正直)
狂言「福之神」(井上礼之助はか)舞囃子「金剛流」高砂「(百々康治)観世流「松風」(泉喜夫)仕舞・金春流「繭丸」近藤修彦(観世流「三輪」(吉田妙)午前十一時開演、入場料千五百円(全自由席)前売券各出演楽師宅、能楽殿など。(番組②面掲載)

廿六世観世宗家 に観世清和氏

観世流二十五世宗家・観世左近氏の逝去により、長男・清和氏が二十六世観世宗家を継承、次のようにあいさつが寄せられている。(要旨)

このたび九月二十九日の五七忌の忌あけに伴い、私儀二十五世宗子観世清和が、二十六世観世宗家を継承致しました。つつしんてここに御報告させて頂きます。若輩ながら精進努力の所存でございますので皆様方の御理解を賜りまして今後より一層の御支援のほどお願い申し上げます。

喜多流 長田 驍氏が受賞 津市教育功労者表彰



津市教育委員会は今年度の津市教育功労者と文化奨励賞の受賞者を発表した。教育功労者は八氏、一団体、文化奨励賞は三氏、一団体で、教育功労者には、能楽関係として、喜多流能楽師として活躍する長田驍四六。

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

〔11月〕

23日(祝)和泉会別会 (有料) (番組①面)
24日(土)青陽会 (有料) (番組①面)
25日(日)久田追善別会 (有料) (番組①面)

〔12月〕

2日(日)歳末助け合い協賛能 (有料) (番組②面)
9日(日)壺泉会能 (有料) (番組②面)
14日(金)熱田高校能鑑賞会 (高校生のみ)
27日(木)乱能 (有料) (番組②面)

〔平成3年1月〕

3日(木)能楽協会名古屋支部開初式 (能楽協会関係者のみ) (来場歓迎)
6日(日)名古屋学生能楽連盟学生能 (来場歓迎)
15日(祝)名古屋清韻会能 (有料)
26日(土)青陽会定式能 (有料)
29日(火)能楽友の会3周年記念例会 (有料)

〔2月〕

3日(日)宝生会定式能 (有料)
10日(日)観世会定式能 (有料)
17日(日)九泉会定式能 (有料)

〔3月〕

2日(土)能楽会賞賞大会 (有料) (来場歓迎)
3日(日)大蔵文田 (有料) (来場歓迎)
10日(日)武梅 (有料) (来場歓迎)
17日(祝)梅 (有料) (来場歓迎)
21日(祝)梅 (有料) (来場歓迎)
24日(日)壺 (有料) (来場歓迎)

(演能変更の節はご了解下さい)

和泉流9代目宗家
山脇和泉守元信(道甫)三百年祭記念
和泉流20代宗家継承者
和泉元弥・釣狐披き

名古屋和泉会別会

十一月二十三日(祝)午後一時始
熱田神宮能楽殿

瓢の神 (和泉元秀)
釣狐 (和泉元弥)
磁石 (井上松次郎)
千鳥 (三宅藤九郎(祥子) 和泉淳子)

青陽会定式能(第434期)

十一月二十四日(土)十二時半始
熱田神宮能楽殿

仕舞野宮 (生駒里翠)
能菊慈童 (須部市)
仕舞放下 (高安勝久 鬼頭英二 福井啓次郎 大野誠茂)
阿卷松 (僧小歌 松山幸親 久田徹二)
阿卷 (清沢一政 祖父江修一)

久田秀雄七回忌追善能

十一月二十五日(日)十二時半開演
熱田神宮能楽殿

清経 (松山幸親)
葛城 (玉木孝男 地謡 加賀清一)
枕之段 (前野郁子 地謡 久田徹二)
松風 (馬場信三 久田陽春子)

隅田川

指板雅之助 吉田定男 福井啓次郎 鹿取希世
山本清 玉木孝男 小島一英
後見 祖父江修一 地謡 中川雅章 笠浦田保利

雁

井上松次郎 佐藤友彦 吉田定男 鹿取希世

海士 (上田貴弘 後藤孝一郎 鹿取希世)

藤之段 (笠田裕 地謡 山田幸親)

鶉 (浦田保利 地謡 上野村拓司)

藤戸 (浦田保利 地謡 上野村拓司)

赤頭 (福王茂十郎 和夫 久田徹二 鬼頭喜太郎)

道成寺 (野村又三郎 後見 井上礼之助 大野良治)

間 (野村信行 後見 井上礼之助 大野良治)

後見 浦田保利 地謡 高橋敏彦 山田幸親)

後見 笠田裕 地謡 祖父江修一 山田幸親)

後見 上田貴弘 古橋正邦 小島一英 (終了予定 四時半頃)

追加 (主催 久田 舜一 二 郎)

後援 久田 観正会・松月会

入場料 S席 一三、〇〇〇円 A席 一〇、〇〇〇円

お申し込み先 熱田神宮能楽殿・各出演者宅

久田徹二 名古屋北区東水切町四一四三 電話(六八三)一七五一番

青雅日記

(112)

感性

えと文 二井栄逸

感性は生れつき備わった素質のように思われることが多いが、実際は磨きをかけて養うという後天的の資質と考えるのがほんとうだと思ふ。

感性の時代とか、感性が伝わる作品等と、この頃よく使われる言葉であるが、感性とはどういふものなのか、ひらきなおって考えて見ると、そのものずばりの言葉が出てこない。

センス、感覚、直感、ひらめき、フイリノ等と、考えて見ると、うも似て非なるものが多い。感性心理学を研究する増山英太郎氏は、その著書「感性はど

新才能「石切」

12月4日、石切神社で上演。古代河内・大和に君臨した英雄、長髓彦(ナガスネヒコ)をテーマにした新才能「石切」が山本勝一師により、ゆかりの東大阪市・石切神社で催される。

生駒山と長髓彦の存在は日本画のはじまりより言い伝えられており、大和建國の悲劇的英雄とされているが、その復讐を能の幽玄のなかにみせる能である。作は山本勝一、構想・吉川樹一、原作詞章・進藤治(「長髓彦の真像」の著者)の諸氏。

能「石切」(シテ山本勝一、ワキ指吸雅之助、笛・左鴻雅義、小鼓・荒木照雄、大鼓・山本哲也、間・善竹孝夫、地謡・波多野晋、松浦信一郎ほか)

午後二時始、石切神社修練館(東大阪市石切町一―一―)

岡地幸雄推賞司が委員長に就任

熱田神宮能楽殿運営委員会委員長としてつとめられた熱田神宮権宮司・山本文彦氏はこのほど退任され、後任として熱田神宮権宮司・岡地幸雄氏が委員長に就任された。

きない進取の精神が旺盛であること。これが感性を鋭くすることになるのである。

力の法則のような大発見の偉業を現している。こういふところから見ても、感性は先天的でなく、本人の努力次第で素晴らしい創造の世界を現出し、多くの人に感動をあたえることは可能であると言っても差しつかえはないと思ふ。(平成二・一〇・二八夜記)



観世流 殿島修二氏逝去

10月25日 含笑寺で告別式

観世流シテ方・華職分殿島修二氏は、十月二十三日午前九時四十分、急性呼吸不全のため名古屋市天白区の東樹会病院で逝去された。享年九十一歳。

通夜は九月二十四日午後七時から、葬儀ならびに告別式は二十五日十二時三十分から名古屋市東区東桜二―一五の含笑寺で三角堂社葬により執り行われた。喪主長男啓賢氏。

生前には能楽協会名古屋支部、観世会、大槻清親会はじめ能楽関係、実業界関係の供花が飾られ、訃報について、松田一郎葬儀委員長、西村欽也館長、名古屋能楽協会、故人が主宰した風韻会の富士道周朗幹事の諸氏が故人をしのぶ弔辞を捧げ、会員有志により「蔵戸」



観世流シテ方・華職分殿島修二氏の逝去を悼む。写真：松田一郎

のお手向けが行われ、多数の会葬で故人の冥福を祈った。故殿島修二氏は明治三十三年一月生れ、大槻十三師に師事、昭和二十二年「安宅」(二十八年「石橋」三十三年「道成寺」三十五年「乱」同年「翁」)昭和三十年能楽協会入会、多年にわたって熱田神宮能楽殿運営委員として尽力、能楽協会名古屋支部、名古屋観世会の中核として活躍、風韻会を主宰し、毎年秋に風韻会大会を開催、ことし第五十三回の大会を目前にして亡くなられた。また三十年間にわたり毎日文化センター講義教室で指導に当たった。昭和五十三年日本能楽会から多年にわたり能楽界につくした功績を顕彰され高勲者として功労者表彰を受賞。「能楽の友」が昭和四十二年創刊されて以来、編集同人としてたずさわり、格別の力を注がれた。また実業界では、全国緑線連合会副会長、名古屋西ライオンズクラブ会長などを歴任された。謹んでご冥福をお祈りします。

歳末助け合い運動 協賛 能(第二十二回)

十二月二日(日)午前十一時開演

熱田神宮能楽殿

高砂 百々 康治 地謡 河村真之介 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛 池田茂 堀見正夫 藤田忠三 小林忠三 竹市幸三 菊川憲三

生駒里翠 中川 雅章 (観世流)

清

後見 小島 一英 地謡 河村総一郎 福井良治 松山幸親 大野誠 田中 武甫 須田 芳雄 梅田 一邦 清沢 一政

仕 丸 近藤 修彦 地謡 佐久間祥夫 堤部 幸三 渡部 道三

三 輪 吉田 妙 地謡 前野三津子 近藤幸江 高木美智子 今沢 美和

松 風 泉 嘉夫 吉田 定男 藤田 良久 地謡 加藤 保彦 高橋 敏二 久加 敏彦

能 松井 彬 (喜多流)

福之神 井上礼之助 佐藤 祐一 地謡 大野又弘 野村三郎 松田 高義

能 竹内 澄子 (宝生流)

上 飯富 雅介 鬼頭 英二 柳原 司忠 藤田 六郎兵衛 松田 高義 富田 正代司 鬼頭 喜男 富田 裕美 吉田 俊彦 佐藤 幸一 竹腰 勝一

後見 戸田 博和 地謡 富田 正代司 鬼頭 喜男 佐藤 幸一 竹腰 勝一

附 祝言 主催 能楽協会名古屋支部

入場料 一、五〇〇円(全席自由席) 前席券 各出演者師宅 熱田神宮能楽殿(六八二)一七五一

壺泉会 能

十二月九日(日)午後一時開演

熱田神宮能楽殿

阿 漕 近藤 幸江 地謡 八神孝充 山本正人 泉 嘉夫 泉 雅一郎 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫

高 八段之舞 舞 柳原 司忠 鬼頭 喜太郎 鹿取 希世

素袍 落 野村又三郎 井上礼之助 後見 松田 高義

景 松門のあしらい 後見 加藤 幸枝 地謡 八神孝充 梅若 善高 今村 克彦 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫

泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫

泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫

泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫

泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫

泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫

泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫

泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫

泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫 泉 嘉夫

平成2年11月・12月放送予定 (11月) NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時) 25日(日)観世流「三輪」片山慶次郎 (12月) NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時) 2日(日)観世流「岡田川」観世左近 (昭和63年4月3日の再放送) 9日(日)観世流「國栖」観世華雪・観世寿夫 16日(日)宝生流「船井」三川 泉雄 23日(日)観世流「浮舟」藤井久雄 30日(日)教育流「海人」「鉄輪」富山礼子・島原春京 (12月) NHK教育テレビ(午前9時~10時15分) 24日(土)独吟観世流「野」梅若万三郎 太鼓連弾 出端 金春忍右衛門 (NHK能楽鑑賞会から) 能 宝生流「天鼓」(再)金井 章 (放送予定につき変更の節はご理解下さい)

紅梅記

観世流新宗家と松村博司先生のこと

十一月は観世流和氏がシテ方観世流新宗家を継がれた旨(十月)の丁寧な通知状をうける。二十六世。重ねて明るい前途のご多幸を祈りたい。

観世誌十一月号は前宗家左近氏追悼号(一)、十二月号も「能」(京都観世会、十一月号)に「宗家の急逝を悼む」載る。

十月三十日わが国文学の師・松村博司先生(文博)がなくなられた。柿の熟れる頃、翌三十一日の結々たる十三夜の月を賞(め)でずには逝かれる。悲しいかな。栄花物語(平安)が生涯の研究、名大文学部長を勤められた。

松村先生とは昭和三、四十、五十年はじめて同じ町内(名・北区安井町)で、その後尾張旭市に移られた。朝のおなじバスで先生は名大文学部へ私はNHKへ。謡曲文学から「栄花」の深広なお話

や卒論で急しい三学期のことまでおきした。「源氏を讀まねば」「世阿弥の八花」は何に由るの「世阿弥」これは答えがでなかつた。今でも。「興がる法師」についてもたずねられた(例、鈴木や狂言)ことがある。

かつてシフェール博士(仏、能研究者)著す世阿弥関係の本(仏語)を手に入れ、訳して下さった。私のNHK定退直後に酒席で源氏・雨夜の品定めの一節を読んでいただく。盃の酒がさめていた。先生と肩を並べた(熱田)のこと。もなつかし。長い間「川根の銘茶」が新しくすると届けられたことも忘れられぬ。

また高木市之助先生(万葉学者「吉野の帖」)在世のころはよく仕えられた。東大を少し先輩の久松潜一先生(万葉学者、「日本文学評論史」、故人)が名古屋の万葉学会に名をのこし、膝を交えて親しく談笑していられた姿がうらやましかった。

昭和四十七年、還暦記念に先生の隨筆・隨想集の一冊を編まれる。「もさく」の題名がつく。愛読のメリメ(仏)の短編小説集から勧めたところ。

三重県立 斎宮歴史博物館に 能画「野宮」を寄贈

能画家 二井栄逸氏が制作

斎王ゆかりの地として知られる三重県多気郡明和町は、昨年県立斎宮歴史博物館がオープン、貴重な史跡の発掘により数多くの歴史的重要な文化財が出土されているが、能画家・二井栄逸氏の制作になる能画「野宮」が同博物館に贈られることになり、今春製作がつづけられてきたが、このほど完成、去る十月十日午後一時から斎

宮歴史博物館で二井栄逸氏により贈呈式が行われた。明和町の斎宮は、謡曲「野宮」にゆかりのある史跡、松阪市に在住する二井栄逸氏は、能楽協会会員(喜多流能楽師)で日本画家とくに能画で独特の境地を築き上げ、また華道・書道流家元としても活躍されているが、(本紙連載「青雅日記」執筆)昨年秋開館した同館のことは述べている。



寄贈された能画「野宮」

能「道成寺」上演 故久田秀雄師追善能 昭和五十九年逝去された観世流・故久田秀雄師の七回忌追善能が十一月二十五日、熱田神宮能楽殿で催される。主催は故人のあとを継ぐ久田舜一郎(小波方)久田

歌集・秋水抄。広瀬瑞弘著。金春流の同氏は大和出身。これが三冊目の歌集(春霞門・智水抄に次ぐ)。平明清澄(著書)。大和への郷愁大。○大和にのみ立つといふなる紫の雲をたずねていくたびか来つたかみ山の山もとを行く。能のうた十一句。

博物館見学の機に、作品寄贈の話がまとまり、ことし三月から能「野宮」を題材に作演活動に入り九月下旬に完成した。寄贈作はタテ百六十五、ヨコ七十六の變形形三十号、六条御息所が襲上から辱かしめを受ける場面。能の舞を描いてある。

野宮の主人公、六条御息所を王朝文化の中で生きた一人の女性として能画を展示し、斎王らの彩った王朝文化を幅広く見てもらいたい。と語り、二井栄逸氏は「非常に立派な施設の県立斎宮歴史博物館に、能画を通して歴史と文化のお役に立てることは嬉しい」と寄贈のことは述べている。

敬二(シテ方)の両氏。当日は観世流の師匠の「岡田川」師匠家の上田貴弘師が舞囃子「海士」の出演。

久田敬二師は名古屋において初めの「道成寺」公演、小波方舜一郎師がつとめる。ワキ福王茂十郎、地謡観世流の丞、野村四郎の諸師ほか。

十一月、三日朝小町(辰巳孝)久々、宝生流で、十月三十一日から中旬までに観世流の丞氏が四回有名。すでに好演をみせる。稀有のこと。(野村広二)

能「卒都婆小町」 福井啓次郎 後見 西村 欽也 地謡 大倉源次郎 吉田 定男 柳原富司 河村総一郎 後藤孝一郎 山本 正孝 河村総一郎

能「三笠」 仕舞 高 之 段 砂 後見 西村 欽也 地謡 大倉源次郎 吉田 定男 柳原富司 河村総一郎 後藤孝一郎 山本 正孝 河村総一郎

能「猿蓑」 一騎 砦 狸 々 後見 西村 欽也 地謡 大倉源次郎 吉田 定男 柳原富司 河村総一郎 後藤孝一郎 山本 正孝 河村総一郎

能「安達」 野村又三郎 山本 孝一 山本 勝一 山本 正孝 山本 正孝

能「山伏」 赤野村 武司 赤野村 信行 赤野村 万作 白野村又三郎 前 茂山千五郎 大獅子 茂山忠三郎

能「祝言」 後見 井上松次郎 地謡 河村真之介 助川 正治 福井啓次郎

能「石橋」 大獅子 茂山忠三郎 観世 栄夫 大槻 文蔵 武田 喜和 後見 井上松次郎 地謡 河村真之介 助川 正治 福井啓次郎

能「祝言」 主催 幸 野村 又三郎 福井 啓次郎

能「石橋」 大獅子 茂山忠三郎 観世 栄夫 大槻 文蔵 武田 喜和 後見 井上松次郎 地謡 河村真之介 助川 正治 福井啓次郎

野村又三郎古稀 祝賀 乱能

十二月二十七日(木) 正午始 熱田神宮能楽殿

舞囃子 養 老 一 晴 庵 二 山中 義勝 藤田 邦久 水波之伝 観世 元治 助川 龍太郎 観世 武司

舞囃子 安 宅 幸 義太郎 河村真之助 野村 武司 延年之舞 野村 良介 助川 龍太郎 観世 武司

能「卒都婆小町」 福井啓次郎 後見 西村 欽也 地謡 大倉源次郎 吉田 定男 柳原富司 河村総一郎 後藤孝一郎 山本 正孝 河村総一郎

能「三笠」 仕舞 高 之 段 砂 後見 西村 欽也 地謡 大倉源次郎 吉田 定男 柳原富司 河村総一郎 後藤孝一郎 山本 正孝 河村総一郎

能「安達」 野村又三郎 山本 孝一 山本 勝一 山本 正孝 山本 正孝

能「山伏」 赤野村 武司 赤野村 信行 赤野村 万作 白野村又三郎 前 茂山千五郎 大獅子 茂山忠三郎

能「祝言」 後見 井上松次郎 地謡 河村真之介 助川 正治 福井啓次郎

目録メガネの日進堂 正しいメガネでしあわせを..... 目録メガネの日進堂 名古屋市西区那古野2-20-23(円頓寺本町) TEL (571) 6181-3

株式会社 セントラルパーク 本社 名古屋市中区東1丁目23-36(NBN泉ビル) PHONE 052-961-6111 F A X 052-953-2910

長月の舞台(その二)と神無月の舞台から

「宝生会」「金春会」

「名古屋能楽鑑賞会」

竹尾 邦太郎

「放下僧」親の敵討に胸中するツレ克来の深刻味・真剣味にほだされ、疎遠のシテ満次郎が、神無月の自重で応対し、ツレの小理屈めいた語りや聞きとるなど後場を引き立てるよい伏線となっていた。

後シテは、沙門帽子・白大口・前黄水衣に替え、杖を持つと、大柄なシテは一段と重厚味を増して頼もしい。地(萌・正宣ら)の「古川の、水の泡沫我が心に、と」

「秋大名」高が一首覚えるのも心許ないシテ礼之助。「さいさい進んで面目ないが」と如何にも律儀な田舎大名の恐縮を見せるかと思えば、無智の強さも強御する。「あのわけもない。と」とおぼりやれ、とぞらわしいもの様に両手で追いつける小アト茶屋・松次郎とのコンビは健在。アト太郎冠者は友彦。(29分)

「花籠」シテ雅。君の急の上も心許ないシテ礼之助。「さいさい進んで面目ないが」と如何にも律儀な田舎大名の恐縮を見せるかと思えば、無智の強さも強御する。「あのわけもない。と」とおぼりやれ、とぞらわしいもの様に両手で追いつける小アト茶屋・松次郎とのコンビは健在。アト太郎冠者は友彦。(29分)

野村又三郎師古稀 福井啓次郎師還暦 祝賀乱能 II

12月27日 熱田能楽殿で

狂言和泉流・野村又三郎師古稀 祝、小鼓幸清流・福井啓次郎師の還暦祝「乱能」が十二月二十七日(木)熱田神宮能楽殿で催される。

この「乱能」は、去る昭和六十一年に野村又三郎師舞台六十年、福井啓次郎師舞台三十年を記念して乱能が催されたが、それにつづく両師の二回目の乱能企画。

(勝久)にアシラウだけ。予め後見が常態に出した鏡の作物を、シテは立って正先手に据える。鏡の呪術に映し出される幻像は、散りかかると象徴される息女の衰弱を見せる。画面もなく鏡の前には下居して双シオリするシテは、ツレを残し、アイ(松次郎)を送り込みでなく、独り中入地を聞いてから、とほとほと橋懸に向う。ワキも立つと中入。アイの立シヤベリ、触レの後、後見は作物を正先に握え直し、笛ヒシギから一声の登場樂で于方・昭君の望が立ち現われ、常座で名乗り、ワキ座に下居すると、早笛で後シテ呼聲邪単子の幽霊が鏡の呪術にひかれて出る。小悪鬼・赤鹿・唐冠・紺地拾符衣・赤地金立頭半切。その幻影に驚怖するツレに、鏡が無ければ己の顔は分らぬ道理のシテ。覗き込むや、その怪異に動転し、走り場のない背立を見せるかの働キは爆発的凄まじさ。鏡の前に居たたまれば袖を被りて面隠すの納得させる。切地に、挑むように鏡の前に跳上りざま安座のシテ。荒々しさの中に鬱屈した哀傷を見せて好舞台だった。(1時間10分・9月16日・宝生会)

「東方朔」シテ見実。瑞兆光問のため折柄の星祭に参内する前シテ尉の、悪びれない措きの隠然たる風格が窺え、悠揚迫らぬワキ武帝(欽也)と拮抗して舞台が締まる。自信溢れる仕重な中入は、すでに後シテ東方朔その人である。問答言は仙果の桃にまつわるエピソード。面鼻引・角帽子・小格子・側次のオモ仙人(信行)は、面登麗・末社頭巾・熨斗目・十徳が真に迫る。(25分)

「藤戸」シテ光洋。下掛はセイの前に、ハこの島のお主のお着きと申すはまことか——中略——これはさしにも思ひ子を、失ひ給ひし人なれば、せめては参りて見参らせん、のサシがある。この序があるために、ハ昔の春に爛れかし、と左肩落し、面クモラセ、腰を折ってシオルの妹更に、老母の重苦しい胸中の涙を見せる。金春の古風は、海鳴りのような陰りをもたう低音の厚い謡がこの曲にびたりで、情景描写に優れる。中入前、激情に駆られてワキ(勝久)に迫る場面は、両手振

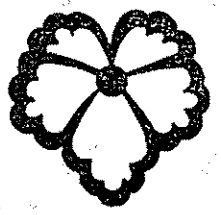
「藤戸」シテ光洋。下掛はセイの前に、ハこの島のお主のお着きと申すはまことか——中略——これはさしにも思ひ子を、失ひ給ひし人なれば、せめては参りて見参らせん、のサシがある。この序があるために、ハ昔の春に爛れかし、と左肩落し、面クモラセ、腰を折ってシオルの妹更に、老母の重苦しい胸中の涙を見せる。金春の古風は、海鳴りのような陰りをもたう低音の厚い謡がこの曲にびたりで、情景描写に優れる。中入前、激情に駆られてワキ(勝久)に迫る場面は、両手振

テ福井啓次郎師、能「安達原」シテと能「石橋」の白頭野村又三郎師の出演。ほか舞囃子、二調、仕舞に東西の各流派師が出演、祝賀乱能にふさわしい顔ぶれの番組で上演される。

新春五流能

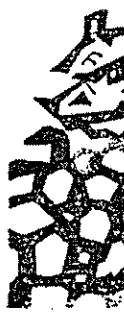
1月15日 神戸文化ホール

神戸文化ホール主催、能楽協会神戸支部後援の「神戸新春五流能」は一月十五日、神戸文化ホ



料理 蓬菜軒

本店 熱田区神戸町三四 電話(051) 86866・8
神宮東門店 熱田区神宮一・一 電話(052) 55988



割烹・小料理

城

●熱田神宮 能楽殿 喫茶部
●住吉小路(中区栄3-10)
電話 241-0248

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ!

舞姿の勉強と記念に是非どうぞ!

当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた専門技術により、きつとご満足いただける自信があります。

テレビ放送番組企画制作
テレビCM企画制作
録音・ビデオ
ビデオプロダクション 西川企画
名古屋営業所(〒451)名古屋西区名駅2-20-3輪の内荘 小塚方 ☎(052) 571-5816
(〒500)岐阜市北野町20-2 TEL (0582) 63-9869

観世流・金剛流 宗家本発行元 檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
電話(291)2488-9 振替東京3-3552
〒604 京都市中京区二条通数屋町東入
電話(231)1990 振替京都1-113

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中区千種千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 0-36393

購読料 1年1000円

郵送の場合 1年1500円

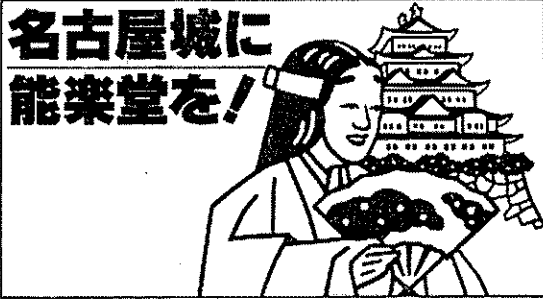
一 部 90円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

- (12月)
- 27日(木) 乱 能 (有料)(番組①面)
- 【平成3年1月】
- 3日(木) 能楽協会名古屋支部開初式
(能楽協会関係者のみ)
- 6日(日) 名古屋学生能楽連盟学生能 (来場歓迎)
- 15日(祝) 名古屋清韻会大会 (来場歓迎)(番組②面)
- 26日(土) 青陽会定式能 (有料)(番組④面)
- 29日(火) 能楽友の会3周年記念例会 (有料)
- (2月)
- 3日(日) 宝生会定式能 (有料)
- 10日(日) 観世会定式能 (有料)
- 17日(日) 九草会定期能 (有料)
- (3月)
- 2日(土) 能楽鑑賞会 (有料)
- 3日(日) 大蔵文田賞賞大会 (来場歓迎)
- 10日(日) 武田追善会 (来場歓迎)
- 17日(日) 武田追善会 (有料)
- 21日(祝) 梅泉 (有料)
- 24日(日) 壺 (来場歓迎)
- (4月)
- 13日(土) 青陽会定期能 (有料)
- 14日(日) 観世会定式能 (有料)
- 21日(日) 邦親会 (来場歓迎)
- 28日(日) 久田親世会 (来場歓迎)
- 29日(祝) 幸友会春の会 (来場歓迎)

(演能変更の節はご了解下さい)



「名古屋城に能楽堂を!」とよびかけるキャンペーン・スタンプ。多目的な幅広い活用が期待されている。

名古屋城に能楽堂を!

建設要望の署名キャンペーン

名古屋市では、市制百年記念にちなむ昨年の世界デザイン博覧会の実施、成功につづき、歴史ある名古屋城の魅力を高め、伝統文化の高揚をめざして「名古屋城能楽堂」の建設がクローズアップされてきている。

名古屋地区では、市制百年記念にちなむ昨年の世界デザイン博覧会の実施、成功につづき、歴史ある名古屋城の魅力を高め、伝統文化の高揚をめざして「名古屋城能楽堂」の建設がクローズアップされてきている。

支部長)では、古典芸能への関心が高まっている中、建設促進を陳情するとともに、広く市民、愛好者の世論の高まりと支持が大切であるとの観点から、能楽各流の社中会を結んだ愛好者により「お城に能楽堂を作ろう会」が組織され、建設促進へのキャンペーンを展開している。

また運動推進の一環として、同会では、「名古屋城に能楽堂を!」とよびかけるキャンペーン・スタンプを制作し、これを活用して、名古屋城地区に、名古屋市立能楽堂の建設を請願していただくことをめざしている。

請願趣旨

舞台芸術として最も古い伝統を誇る能楽は、日本のあらゆる芸術・文化に少なからぬ影響を与えてきました。能は古いから尊いのでありません。六百年以上の時代を生きてきて、しかも多くの人々の心を捉え続けてきた何かがあるから尊いのです。

能楽は、いま、六百数十年に及ぶ正史の中でも最大のブームを迎えていると言われている。

名古屋地区においても、能楽の唯一の専門ホールである熱田神宮能楽殿での演能を初め、各種のホールを利用してのホール能には実験的な試みもおこなわれ、さらには神社の境内、都心の公園などで開かれる新能、屋外能などでは新しい観客との出会いもひろがりつつあります。伝統芸能として長い歴史のなかで能が培ってきた可能性が、現代に確かめられつつあるといえるでしょう。

舞台芸術としての能楽に生命を吹き込み、これを支え、ともに生き続けてきたのが能楽舞台の様式です。伝統の重みとつしりと支え、素材で無駄のない限られた空間は、演者をもよおし、時に、時を超越え、空間を超え、限りなく広がる自由な世界を現出します。こうした能楽舞台の様式は、近年内外の他の分野からも注目を集め、新劇、オペラ、現代舞踊などの新たな創造の場としてしばしば活用されています。また海外でもパリ、ベルリン、ニューヨークなどで新しい劇場様式として取り入れられる動きもみられます。

現在東京の国立能楽堂を初めとして、各地に続々と公立の能楽堂が誕生しています。日本のみならず、世界の様々な芸術・文化創造活動に活力を与え、現代に生きる古典としての「能楽」の振興とさらなる普及を図り、国際都

めることをめざしている。

名古屋城能楽堂の建設を要望する署名キャンペーンの趣旨は次のとおり(要旨)で広汎なよびかけが行われる。

市「名古屋」の新しい文化創造の拠点として、名古屋城地区に、名古屋市立能楽堂の建設を請願します。

■各地に続々と公立能楽堂が誕生
国立能楽堂を初めとして、川崎、富山、石川、福井、奈良、福岡、大分、千葉など、全国各地で続々と公立の能楽堂が建設され、また計画されています。かつては武家の式楽として幕府や有力大名に支えられてきた能楽ですが、今日では市民が支える舞台芸術としてすっかり定着しています。謡曲・仕舞などを習う愛好者も多く、文化センター、各種の文化講座なども大盛況です。女性の能楽師も数多く誕生し活躍しています。

■海外からも注目される「能」
静寂の中の気迫と緊張感、そして抽象性、象徴性ゆえの優れた現代性……。

■そんな能に海外の数多くの芸術家たちが影響を受け、新たな自らの創造活動に生かして来りました。海外公演で度々紹介され、一般の海外旅行、海外交流の盛んな今日、外国人から「能」のことを質問されてあらためて日本の伝統文化への目を見開かれた、などという経験も伝えられます。言葉、風俗、習慣を乗り越えて、能があらゆる人々に感動を与え得るのは、普遍的な芸術・文化の源泉である古典として今日に生き続けているからにはかたがたではありません。この生命を守り次代に継承してゆくことが、現代の日本文化の課題と尋えましょう。

■新しい創造空間としての能楽舞台
美術、工芸上からも貴重な文化資産

■文化都市、国際都市「名古屋」にふさわしい能楽堂建設を!

野村又三郎古稀祝賀 乱能

十二月二十七日(木) 正午始

福井啓次郎還暦祝賀

熱田神宮能楽殿

梅田邦久
藤井徳三
助川元治
鬼頭喜太郎
野村武司

能卒都婆小町

後見 西村 敏也
野村 万作
地謡 大倉源次郎
吉田 定男

柳原富司忠
河村総一郎
後藤孝一郎
鬼頭喜太郎
吉田 定男
井上松次郎

観世 元信
観世 鉄之丞
山中 義滋
五木田 武計

辰巳 徳三
飯富 雅也
西村 敏也
後藤 孝一郎
幸 正昭

安達原

野村又三郎
急進之出
山本 順之

山本 勝一
観世 栄夫
長田 正義

狂言 山伏

赤野村 武司
赤野村 信行
白野村 万作
前茂山 千五郎

大倉源次郎
観世 元則

松田 高義
一噌 隆之
佐藤 友彦
野村 万作
善竹 十郎
茂山 千之丞
野村 万作

能石

後見 井上松次郎
野村 万作
地謡 河村真之介
一噌 隆之
助川 正昭

観世 栄夫
武田 宗和

付祝言

主催 野村又三郎
幸 福井啓次郎

お申込み

野村又三郎方(名古屋市中区正木二一六一三五〇五二一三三
一三五五七) 福井啓次郎方(名古屋市中区大須三二二四〇〇
〇五二二四一三三四六) 熱田神宮能楽殿・出演各楽師方

観世寿夫記念 法政大学能楽賞(第12回)

宝生 閑氏 受賞

法政大学(阿利莫二校長)は、昭和五十四年に「観世寿夫記念法政大学能楽賞」を設け、すでに十一回の授賞が行われてきた。

観世寿夫記念 法政大学能楽賞

受賞者の経歴

宝生 閑氏

下掛り宝生流ワキ方。日本能楽会会員。昭和九年五月十五日生まれ。父宝生弥一と祖父宝生新に師事。初舞台は十六年。初ワキは十八年の「岩船」。地道な努力を重ねつつ芸の幅を広げ、父弥一の在世時からワキ方の将来を背負う人材と注目されていたが、年功を積んだ現在、安定感を増し、最も頼り甲斐のあるワキとの評価が定着しつつある。

能界の新しい試みにも積極的に取り組む、観世寿夫氏が中心だった「華の会」や「真の会」にも参加して、新作能やギリシャ劇にも出演した。
近年活潑な復曲でも多くの曲に氏が関与している。常の能でも、シテに安心感を与える氏がワキを勤めることを前提に企画を立てられることが多い。不足が慢性化しているワキの後進育成にも力を尽

が、本年も各方面の識者により推薦された候補者について、選挙委員(湯川桂一郎、広末保、吉越立雄、観世栄夫、表章の五氏)により慎重に選考された結果に基づき、第十二回の受賞者として、宝生流ワキ方・宝生閑氏と橋の会を決定した。受賞者には賞金三十万円が贈られる。
授賞理由は次のとおり。

〔受賞理由〕
宝生 閑(ほうしゅうかん)氏
下掛り宝生流ワキ方として幅広い活動を展開し、ワキの本分的確に果たした演技によって曲の情趣と演劇性を高め、今日の能を支えている。不足がちなワキ方の後進者養成に尽力している功績も大きい。

〔受賞理由〕
橋の会(はしのかい)氏
くし、本年七月の国立能楽堂での「谷行」のような、多数のワキ方の登場する能が下掛り宝生流によって上演可能となったのも、氏の功績に負うところが大きい。
国立能楽堂研究主任講師。趣味はスキー・ゴルフ・読書。長男欣誠氏が後継者。

橋の会

現代の芸術としての能の可能性を求め続けた観世寿夫の遺志を継ぎ、他の芸術分野との交流の懸け橋となることを意図して昭和四十五年に発足した会。
シテに当初は浅見真州を、後に山本順之・友枝昭世を交えて起用し、年三回計三十回の通常公演や約十回の特別公演に、「重衡」・布留・丹後物狂・明智時一等の劇の復曲や、「葉上・自然居士」などの昔の演目の復元などを試みて好評を得た。常の催しでも、適切な起用や能と狂言の配合を重視した斬新な企画によって、新たな観客層の開拓に成功している。近年は、草月ホール・カフェ「ノマド」・佐賀町エキジビットスペース・東高現代美術館・東京駅や、

昭和四十五年の結成以来、古典の復曲、古演目の試演、能舞台とは異なる環境での演能など、観世寿夫の遺志継承をめざす意欲的な企画に基づく質の高い公演を三十回にわたって実現し、能界に大きな刺激を与え続けている。
なお授賞式は、「催花賞」(別項)の授賞式と合わせ、平成三年一月十日午後六時から東京・赤坂プリンスホテルで行われる。(受賞者の経歴②面掲載)

催花賞 柿原繁蔵氏 受賞

法政大学は、服部康治氏からの観世新九郎家文庫受贈を記念して一昨年四月に「服部記念法政大学能楽振興基金」を設け、同基金に基づき事業の一つとして、能楽界の功業者等を顕彰する「催花賞」が設けられた。観世新九郎家の先祖で能の作者として著名な観世小次郎信光の技芸を承えて明人の人が揮毫した「催花」の額が、服部家に家宝として伝来しているのに因んだ名称で、その「催花賞」の第三回の受賞者は、法政大学能楽研究所の推薦に基づき、

〔受賞理由〕
柿原 繁蔵(かきはらしげぞう)氏
多年、大鼓高安流の技芸に研鑽を重ね、終始九州を離れず、八十歳を迎えた現在も活発に活動している。能子方の古老で、九州での能の普及・発展に甚大な貢献を続けている。

〔受賞理由〕
柿原 繁蔵(かきはらしげぞう)氏
多年、大鼓高安流の技芸に研鑽を重ね、終始九州を離れず、八十歳を迎えた現在も活発に活動している。能子方の古老で、九州での能の普及・発展に甚大な貢献を続けている。

催花賞受賞 柿原繁蔵氏

高安流大鼓方。日本能楽会会員。明治四十四年三月十五日生まれ。福岡県出身。同県大牟田市在住。昭和十四年から高安流の大鼓を学び始め、終戦後、熊本の宮原康寿氏次いで東京の安福春雄氏に師事して本格的な修行を積み、人手不足の九州での演能に素人ながら出演していた。二十九年に会社勤めをやめて玄人となり、三十二年に「石橋」・三十六年に「道成寺」・三十九年に「翁」を扱った。主として九州で活動するのみならず、四十五年には欧州六ヶ国での能楽公演(團長梅若万三郎氏)にも参加し、その力量は中央でも評価が高。国の重要無形文化財「能

京都市教育功勞
観世流河村禎二氏受彰
京都市の教育の発展、振興につくした人に贈られる平成二年年度の教育功勞者に観世流シテ方・河村禎二氏が選ばれ、十一月七日表彰式が行われた。

平成3年1月放送予定

FM能楽鑑賞(午前8時~9時)

1月6日(日)	金春流「佐渡」(1)	金春 信高
13日(日)	金春流「同」(2)	同 宏利
20日(日)	宝生流「鞍馬天狗」	松本 忠保
27日(日)	観世流「源氏供養」	浦田 保

教育テレビ(午前7時~8時)

1月1日(火)	金剛流 能「泰山府君」	金剛 敬
2日(水)	大蔵流 狂言「福部の神」	茂山 千五郎
3日(木)	観世流 能「藤刈」	野村 四郎
午前9時~10時20分		
15日(祝)	喜多流 能「鉢木」	友枝 喜久夫

ラジオ第二放送年始特集曲・狂言(午前8時~9時)

1月1日(火)	喜多流「草子洗子町」	喜多 六平
2日(水)	和泉流「夷里沙門」	野村 万作
	大蔵流「宝の植」	善竹 孝三
3日(木)	宝生流「大原御幸」	渡辺 三郎

(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

名古屋清韻会能楽大会

平成三年一月十五日(成人の日)
十時始

天鼓	伊藤 愛義 佐久間親 地謡
千手	武山と上子 橋本 圭子 木野 照子
櫻川	石崎 博一 平岩 明
仕舞	加藤新一郎 加藤 千一 小川美智子 伊藤 敏子 福岡 克彦
野守	加藤新一郎 加藤 千一 小川美智子 伊藤 敏子 福岡 克彦
松守	加藤新一郎 加藤 千一 小川美智子 伊藤 敏子 福岡 克彦
忠度	加藤新一郎 加藤 千一 小川美智子 伊藤 敏子 福岡 克彦
鉄輪	加藤新一郎 加藤 千一 小川美智子 伊藤 敏子 福岡 克彦
殺生	加藤新一郎 加藤 千一 小川美智子 伊藤 敏子 福岡 克彦
西行	森 清子 富田 貞子 水野 絹子
清經	松野 博三 飯島 弥助 地謡
熱田	神宮 能楽殿

養	水波之伝 渡辺 節子 筑藤孝一郎 鬼頭喜太郎
半	瀨 佐藤アヤ子 吉田 定男 福井啓次郎 鹿取 希世 赤松 貞友 今村 雅隆 泉 雅一郎 赤松 貞友 泉 雅一郎
鶯	奥村 久枝 後藤孝一郎 鹿取 希世 泉 雅一郎 赤松 貞友 今村 雅隆 泉 雅一郎
弱法師	殿島 博子 吉田 定男 福井啓次郎 鹿取 希世 泉 雅一郎 赤松 貞友 今村 雅隆 泉 雅一郎
融	長島みつこ 後藤孝一郎 鹿取 希世 泉 雅一郎 赤松 貞友 今村 雅隆 泉 雅一郎
上	古井 佐季 御牧 紀代 西村 敏也 吉田 定男 福井啓次郎 鹿取 希世 泉 雅一郎 赤松 貞友 今村 雅隆 泉 雅一郎
高砂	後見 近藤 幸江 地謡 八村 孝亮 泉 雅一郎 赤松 貞友 今村 雅隆 泉 雅一郎
實	舞 舞 子 後藤孝一郎 鹿取 希世 泉 雅一郎 赤松 貞友 今村 雅隆 泉 雅一郎
林院	大槻 秀夫 地謡 山本 正人 泉 雅一郎 赤松 貞友 今村 雅隆 泉 雅一郎
波	大槻 文蔵 地謡 山本 正人 泉 雅一郎 赤松 貞友 今村 雅隆 泉 雅一郎
舞	林 院 大槻 秀夫 地謡 山本 正人 泉 雅一郎 赤松 貞友 今村 雅隆 泉 雅一郎
主権	名古屋清韻会

錦秋霜月の舞台から(その一) 涛華能 「能と狂言に親しむ会」 「観世会」 「御大典奉祝能」

竹尾 邦太郎

「観世小町」 小町落腕の風聞に同様の帝が一行を行家に託して慰めると、今は詩心も枯渇の小町は返歌にも事欠き、下賜の歌一字を替えて応えたという観世返し...

七宝文様掛袴衣をエモンに着て袖を上げ、紫地に金の飛雲文様半切。白頭にとどろき見るからに機敏な挙措は、いっそ小気味よく天地に、と台詞が下りて頭取る...

「観世小町」 小町落腕の風聞に同様の帝が一行を行家に託して慰めると、今は詩心も枯渇の小町は返歌にも事欠き、下賜の歌一字を替えて応えたという観世返し...

「観世小町」 小町落腕の風聞に同様の帝が一行を行家に託して慰めると、今は詩心も枯渇の小町は返歌にも事欠き、下賜の歌一字を替えて応えたという観世返し...

「観世小町」 小町落腕の風聞に同様の帝が一行を行家に託して慰めると、今は詩心も枯渇の小町は返歌にも事欠き、下賜の歌一字を替えて応えたという観世返し...

「観世小町」 小町落腕の風聞に同様の帝が一行を行家に託して慰めると、今は詩心も枯渇の小町は返歌にも事欠き、下賜の歌一字を替えて応えたという観世返し...

「観世小町」 小町落腕の風聞に同様の帝が一行を行家に託して慰めると、今は詩心も枯渇の小町は返歌にも事欠き、下賜の歌一字を替えて応えたという観世返し...

「観世小町」 小町落腕の風聞に同様の帝が一行を行家に託して慰めると、今は詩心も枯渇の小町は返歌にも事欠き、下賜の歌一字を替えて応えたという観世返し...

「観世小町」 小町落腕の風聞に同様の帝が一行を行家に託して慰めると、今は詩心も枯渇の小町は返歌にも事欠き、下賜の歌一字を替えて応えたという観世返し...

平成3年度 観世会定式能 予定

- 平成三年度の名古屋観世会定式能は二月十日を初回として年五回開催される。予定番組次のとおり。
第一回 二月十日(日) 十二時半始
鶴 亀 観世 元昭
田 村 観世 清和

平成3年度 青陽会定式能 予定

- 平成三年度 青陽会定式能 予定
第一回 一月二十六日(土) 十二時半始
(番組①面掲載)
第二回 四月十三日(土)
頼 政 梅田 邦久
源氏供養 生駒 里翠

大阪梅猶会 平成三年度予定番組
研究能
野 守 梅若 善久
野 宮 梅若 善一
狂言長 光 善竹 忠重

株式会社 セントラルパーク
本社 名古屋市東区泉1丁目23-36(NBN泉ビル)
PHONE 052-961-6111
F A X 052-953-2910

青陽会定式能(第135期)

平成三年一月二十六日(土)

十二時半始

能組

通小町

近藤 幸江 武田 邦弘 杉江 元 河村真之介 柳原富司忠 大野 誠

老松

後見 前野 郁子 地謡 瀬戸三津子 玉木 孝男 須部 嘉甫 梅田 邦久 加藤 保彦

胡蝶

加賀 敏彦 松山 幸親 今村 嘉勇 地謡 馬場 雅信 中川 雅章 小島 正邦 古橋 正邦

東北

飯富 雅介 吉田 定男 後藤 孝一郎 真取 希世 高安 勝久 佐藤 友彦

空腕

大野 弘之 井上松次郎 後見 佐藤 友彦 狂言 舞 生駒 里翠 地謡 瀬戸三津子 前野 郁子 今沢 美和

狸

玉木 孝男 高安 勝久 真鏡 敏一 鬼頭 好信 後見 生駒 里翠 地謡 松山 幸親 今村 嘉勇 須部 嘉甫 梅田 邦久 加藤 保彦 祖父江 修一

附祝言

主催 青陽会 事務所 名古屋市熱田区神宮一―一― 熱田 神宮能楽殿内 電話(052)六八二―一七五―番

観世寿夫記念 法政大学能楽賞 受賞者・授賞理由一覧

- 第一回(昭和54年12月) 〔受賞者〕 香西 精氏 〔授賞理由〕 昭和37年刊行の「世阿弥新考」をはじめ、「世阿弥新考」「能楽新考」などにまとめられた、世阿弥や能に関するすぐれた論考を多年にわたって発表し続け、能楽研究を大きく進めさせた。 〔受賞者〕 白石加代子氏 〔授賞理由〕 昭和49年から53年にかけて、「トロイアの女」「パッロスの信女」などで能役者観世寿夫と共演し、伝統芸能と現代劇の接点を演技表現を通して明らかにした。 第二回(昭和55年12月) 〔受賞者〕 野村万之丞氏 〔授賞理由〕 昭和55年9月26日の野村万成追善会での「花子」をはじめ、狂言・間狂言ともに、卓越した成果が多く、その演技は狂言の伝統的技法の確かなさを強く印象づけるものであった。 〔受賞者〕 吉越立雄氏 〔授賞理由〕 多年能楽の写真一筋に打ち込み、この分野で新鮮な映像を生み出すことに大きく貢献した。昭和54年未の「幽玄―観世寿夫の世界」写真展(西武美術館)も大きな成果である。 第三回(昭和56年12月) 〔受賞者〕 森 茂好氏 〔授賞理由〕 昭和56年11月12日の「近藤乾三の会」での「江口」をはじめ、一曲の情趣と格調を高め、フキの本分を的確に果たした好演が多く、能に占めるフキの重要性を強く印象づけた。 〔受賞者〕 大阪能楽観賞会(責任者、橋本秋氏) 〔授賞理由〕 踏足以来二十余年、すぐれた企画に基づく質の高い能楽の公演や各種の講座・見学会を毎年開催し、能楽の普及に大きく貢献した。 第四回(昭和57年12月) 〔受賞者〕 松本雄雄氏 〔授賞理由〕 昭和57年10月10日の「大原御幸」(近藤乾三の会)をはじめ、能楽の特質を深く印象づける好演が多く、シテとしての格調の高さ、地頭(じがしら)としての力強さにも抜群である。 〔受賞者〕 能楽鑑賞の会(代表委員、西哲生氏) 〔授賞理由〕 企画にわたる優れた演者を揃えた番組によって、水準の高い能楽の公演を定期的に主催し続け、能楽の普及に大きく貢献してきた。 第五回(昭和58年12月) 〔受賞者〕 片山博太郎氏 〔授賞理由〕 昭和58年10月30日の東京公演での「景清」をはじめ、氏の近年の舞台には緻密な芸術に基づいたすぐれた成果が多い。研究熱心さも斯界の範とすべきものがある。 〔受賞者〕 堂本正樹氏 〔授賞理由〕 氏の近著「能・狂言の芸」(昭和58年6月、東京書籍刊)は、現代の眼で伝統芸術の特質を解明した好著であり、番外編曲研究の成果も十分反映している。 第六回(昭和59年12月) 〔受賞者〕 横道萬里雄氏 〔授賞理由〕 近著「能楽道通」に研究・批評・評論を一体化させた成果を見せた氏は、かねて能楽の演出への関与に意欲的で、近年も古曲「雲林院」や「父之厨風流」の演出決定に主導的役割を果たした。 〔受賞者〕 一噌春政氏 〔授賞理由〕 能の節方として、卓越した技で観客を魅了することで定評があったが、近年は特に、曲趣を把握した演奏によって、観客を魅了し、多くの催しで能の成功に大きく寄与している。 第七回(昭和60年12月) 〔受賞者〕 野村万作氏 〔授賞理由〕 氏の近年の舞台は、万作の会での「運歌盗人」をはじめ、狂言・間狂言ともに卓越した成果が多い。他分野に進出した「千早線の祀り」でも、狂言の技法を生かす新しい語り物への期待を抱かせた。 〔受賞者〕 黒川能 上座・下座 〔授賞理由〕 幾多の困難を克服して伝統の継承と技芸の錬磨に努め、地元で神事芸能として特色ある活動を展開し続けるのみならず、東京公演で観客に絶大な感銘を与えるなど、近年の意欲的な活動は称賛に値する。 第八回(昭和61年12月) 〔受賞者〕 茂山千五郎氏 〔授賞理由〕 昭和61年4月25日の茂山狂言会での異流共演「磁石」をはじめ、近年の氏の舞台活動には狂言の本質を深く印象づける好演が多い。強靱な技術に基づく自在な演技で楽しさを醸成させる芸術は無類である。 〔受賞者〕 八尾正治氏 〔授賞理由〕 近著「世阿弥の能と芸術」(昭和60年11月、三弥井書店)は、世阿弥の芸術の流を体系的に把握しようとして試みた労作で、芸術研究と作品研究とを有機的に結びつけた点は、新成果として高く評価される。 第九回(昭和62年12月) 〔受賞者〕 北村 治氏 〔授賞理由〕 能の大倉流小鼓方として、常に高い水準を保持する堅実な芸術家として、曲趣を把握した演奏によって、観客を魅了し、多くの催しで能の成功に大きく寄与している。 第十回(昭和63年12月) 〔受賞者〕 友枝喜久雄氏 〔授賞理由〕 喜多流長老たる氏の芸にはすでに定評があるが、近年は特に、62年11月友枝会の老女物「検校」、63年4月喜多会別会での「弱法師」などでの確證的な演技を見せ、社者としての活動を展開している。 〔受賞者〕 伊藤正義氏 〔授賞理由〕 63年10月に下巻が刊行された新潮日本古典集成「謡曲集」全三冊は、氏の広範な学識を背景とする緻密・斬新な注釈や卓越した各曲解説によって先行諸注を越え、謡曲注に新機軸を打ち出した大業である。 第十一回(平成元年12月) 〔受賞者〕 金春右衛門氏 〔授賞理由〕 多年、金春流太鼓方として優れた技芸を示すと共に、常に安定した堅実な技によって演能の底流を支えている。能の囃子を理論的に把握し、能の音楽としての響き全般に対する自配りの行き届いている点も比類がない。 〔受賞者〕 後藤 淑氏 〔授賞理由〕 近著「中世仮面の歴史民俗学的研究」(多賀出版、昭和62年刊)は、氏の研究成果を大成した労作で、特に第一部資料篇は多年にわたる探訪調査を基礎に、中世仮面の背景としての芸能の広がりを明示している。

観世流謡曲本 ちくさ正文館 ちくさ駅前 電話051-1137

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ! 舞姿の勉強と記念に是非どうぞ! 当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた専門技術により、きつとご満足いただける自信があります。 西川企画 ビデオプロダクション 名古屋営業所(〒451)名古屋市中区西区名駅2-20-3輪の内荘 小島方 ☎(052) 571-5816 (〒500)岐阜市北野町20-2 TEL (0582) 63-9869

医療衛生用品総合商社 八神商事株式会社 取締役社長 八神 幸一 本社 〒460 名古屋市中区丸の内三丁目11-4 電話(052) 971-8671番(代表) 営業所 西・熱田・名東・天白・関東・静岡 沼津・浜松・岡崎・岐阜・多治見・津

割烹・小料理 城 ●熱田神宮能楽殿喫茶部 ●住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248

面打教室 於名古屋・栄朝日神社 毎週木曜日及び土曜日(それぞれ月4回) (教室の見学・能面お求めになりたい方お気軽にお越し下さい) 日本能面巧芸会 会長 林 龍 雲 事務局 名古屋市中区錦1丁目3-31 丸瀧ビル3F 晃栄化学内 電話(052)211-4451